UFO目撃特集

UFO contactee

SINCE 1961
GAP-JAPAN NEWSLETTER

UFO/超能力/宇宙哲学

コンタクティー

SUMMER
1993

121

金星へ行って来たメキシコ人

パロマー山にUFO出現

アダムスキー型円盤、超低空で東京をかすめる!

江戸川堤防の怪光体

人間・イメージ・波動

驚異の超小型円盤と宇宙の永遠の活動

UFO contactee No. 121 *Hachiro Kubota, Editor/Publisher, GAP-Japan*

CONTENTS *〈Dedicated to Space Brothers and Cosmic Consciousness〉*

〈巻頭言〉ＵＦＯ問題の意義 1
金星へ行って来たメキシコ人 パトリシア・フィンチ 2
〈写真〉チャールストンのＵＦＯ 7
パロマー山にＵＦＯ出現 久保田八郎 8
宇宙ボタルはＵＦＯ？ 17
アダムスキー型円盤、超低空で東京をかすめる！ 18
江戸川堤防の怪光体 鈴木　武 20
不思議な筒状の雲 沼倉孝彦 24
ＧＡＰ短信 26
科学ーSCIENCE 28
人間・イメージ・波動 佐々木八郎 30
〈写真〉秋田市郊外のＵＦＯ 36
日本ＧＡＰ東京本部月例セミナー 37
驚異の超小型円盤と宇宙の永遠の活動 G.アダムスキー 38
〈予告〉中米マヤ遺跡宇宙ロードの旅 45
〈投稿欄〉ユーコン広場 46
本誌バックナンバー掲載記事目録 48
〈予告〉大阪支部大会 49
〈広告〉新アダムスキー全集 50
編集後記 51
日本ＧＡＰ全国月例セミナー案内 52

金星人からジョージ・アダムスキーに伝えられた金星のシンボルマーク。２個の図形の内、左側は宇宙の父性原理（陽）、右側は母性原理（陰）を意味する。円は宇宙をあらわしている。

ＧＡＰについて

ＧＡＰは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がＵＦＯの真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コズミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界（惑星）から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

日本ＧＡＰの目的はＵＦＯとスペース・ブラザーズ問題を関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

１．この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米ソ等の大国政府はこの真相を隠している。
２．他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト（接触）しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
３．ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

〈表紙写真〉
1967年３月、ペルーのユンガイで撮影されたＵＦＯ。詳細不詳。

〈巻頭言〉

UFO問題の意義

戦後始まったUFO現象なるものは、科学的には未解決とされている。しかし世界中に出現した未確認飛行物体に関する膨大な目撃事件や、異星人とされている〝地球外惑星から来た人間〟とのコンタクト事件などを総合すると、なかには確認物体の誤認または作り事等が混入しているかもしれぬが、大体の所では「別な惑星から飛来する一種の宇宙船であるという説が正鵠を射ている」と言ってよいだろう。

どのように科学的に解明しようとしても、現段階では絶対にといってよいほど解決不可能な不可思議な現象が多々あるのだ。これらをすべて物理的な火の玉や自然現象だと解釈する物理学の先生方の努力と学説に対してはそれなりの敬意を表したいけれども、如何せん現代の科学レヴェルで全く解明できない不思議きわまりない現象が我々の身近で発生しているのである。

本号掲載の『江戸川堤防の怪光体』もその一つである。筆者である鈴木武氏は誠実さのかたまりのような人物で、体験談は精緻をきわめ、目撃した光がこの世のものならぬ驚異的な物体から照射されたことを長時間にわたって力説する氏の勇気ある姿には、まさにUFO目撃者の代表選手の感を抱かしめるものがあった。

数十年にわたる編者のUFO研究歴からすると、大体に、どのように調査をしても全くの謎に包まれるばかりか、ますます迷宮に入りこんで首をひねるのみというような不思議な事件か、または、ナーンダというようなあっけない幕切れになるか、のいずれかに分かれる。後者の場合はおおむねオカルト的なケースが多い。

しかしオカルトにしても突き詰めればそれは科学の領域で解決可能な問題なのだろう。同様にUFO問題にしても結局は物理学その他の自然科学の分野に帰結するのだろう。現在の地球世界の科学はそれを解明するほどの力を持たないというだけなのだ。

「我らの太陽系の惑星群は全部で一二個あり、そのいずれにも人間が居住して偉大な文明を構築している。いわゆるUFOといわれる物は、それらの惑星群から来る驚異的な宇宙船である。これらの宇宙船は重力場エンジンを搭載しており、宇宙空間に充満する無限のエネルギーを取り入れて、光速以上のスピードで航行する。人工重力場を持つ船体は惑星と同様の機能を果たすから、内部の乗組員に何らの影響も与えない。進歩した別な惑星には戦争も犯罪も病気もなく、そこに住む人間は我々の想像を絶する長生きをして天国のような生活をしている」という説はアダムスキーが元唱えたものだが、これを傍証する人が少数ながら他にもいる。本号掲載の『金星へ行って来たメキシコ人』もその一人だ。

このメキシコ人の体験を同国政府が徹底的に調査した結果、真実であることが判明した。その体験記はむかしメキシコで出版されたと、かなり以前に同国のユカタンで聞いたことがある。あとでその本を送ってやるとメキシコ人が約束してくれたが、未だに入手していない。今夏メキシコへ行ったときに催促してみるつもりだ。

一体に中南米ではUFOの着陸事件や異星人とのコンタクト事件が多発し、しかもそれを政府が確証する場合がある。中南米の人達は陽気でおおらかで、あくせくしておらず、この種の現象や事件に疑念を持たぬからだろう。

ところが文明国ほど権威に頼りたがり、現段階の科学で解明不可能ならば、すべて一笑に付するか無視する傾向がある。〝現段階の科学〟を絶対視する態度は、九世紀以前から太陽暦を用い、数体系においてゼロの概念を導入していた古代マヤ族よりも程度が低い。

科学は重要である。これを度外視して文明の進歩はありえない。現在の地球の科学が今後飛躍的に向上することこそ実は編者が最も期待するところである。というのは宗教や道学は人間の争いの根源にこそなれ平和の源泉になりえないことは多数の宗教戦争を見ればわかるので、結局は地球人の手で大宇宙船を建造し、てっとり早く別な惑星を訪れて大文明に接触し、腰を抜かして、五〇億の眠れる民に驚異と憧憬をもたらすならば一大覚醒の契機となるだろうからだ。これ以外に地球人全体の尻をたたく方法はありそうにない。これは幕末にペリーの黒船艦隊で驚愕して怒涛のごとき文明開花の機運が生じたのと同じである。

こうなると、我々に最大の恩恵をもたらし、地球を真に平和な社会にする道は科学にこそ開かれていると言えるだろう。噴射推進方式に頼らない電磁気による画期的なフリーエネルギーによる推進機関を開発することが急務であると思われる。

現在、アダムスキーの体験を日米で映画化して全世界で上映し、地球人の宇宙的覚醒に寄与しようという壮大な企画が国内で進行している。シナリオ資金等の準備は日本側で行ない、ハリウッドで一流俳優を動員して製作するという大規模なものだ。圧巻は金星と土星の大母船内の光景だが、このために巨大なセットを組むことになろう。編者もその企画に参加しており、全面協力の態勢にある。題はズバリ『アダムスキー』。完成は今世紀末までの予定だ。「真実は必ず勝つ」という法則は永遠に滅びることはない。（久）

金星へ行って来たメキシコ人

George Adamski, Controversial Philosopher and Space Pioneer

by Patricia Finch/Translated by Hachiro Kubota

★パトリシア・フィンチ／久保田八郎訳

イギリスでUFOと宇宙的思想の研究グループを主宰する筆者フィンチ女史が、三四年前に聴いたアダムスキーの講演の要旨を編者に伝えてきた。今も新鮮にして啓蒙的な内容を有する全文を一挙公開。

ダイナミックなアダムスキー

私はジョージ・アダムスキーに会う特権と機会に恵まれて、一九五九年四月二五日、イングランド、ハンプシャー州ボーンマスのハイドロ・ホテルのリンデンホールで彼の講演を聴いたことがある。したがって、自分の信念を吐露する勇気と自己の個人的見解と体験とを他人に伝えることを恐れなかった、この非凡な人物に関する忌憚のない印象をお伝えすることは可能である。

この会合はボーンマス宇宙研究会の会員達によって開催された。この団体は、第二次大戦中とそれ以後に空中に出現した多数の未知の飛行物体の背後にひそむもろもろの可能性に対して多大な関心を寄せていたグループである。

アダムスキーは中肉中背の人で、鋭い眼差しと波打つ白髪をもち、端整な容貌を見せていた。この活動的な有名人は、内部からの活力を発揮しながら力強く知識情報を伝えたのである。彼は強いポーランド訛のあるアメリカ英語で語ったので、その語り口に慣れるまでは、話を聞き取るのが難しかった。

彼はみんなに見せるために持って来た映画フィルムのことに言及した。それは金星人の靴の裏から取った石膏板、彼のカメラに使用したフィルム上に焼きつけられた象形文字の文章と図形、それらの解説などを示すフィルムである。そこに伝えられたメッセージは宇宙船とその構造だけに言及したもので、それ以外の事には関係ないという。

（訳注＝右の足跡の石膏とフィルムに出現した寄妙な文字や図形等に関しては、新アダムスキー全集第一巻『第二惑星からの地球訪問者』（中央アート出版社刊）に詳述してある）

彼は語る。メッセージを含むその図形のコピーは世界中のあらゆる政府に送られた。そしてある政府（複数）は、いわゆる『空飛ぶ円盤』を建造中であった。アメリカ合衆国では、すでに宇宙船を建造していて、二機のモデルが研究所内で飛ばされていた。

ブラジルとメキシコの政府は惑星間を航行する宇宙船（訳注＝いわゆるUFO）の存在を公式に認めていた。そしてアメリカの二人の天文学者は、冥王星の外側にある二個の惑星の軌道を追跡していた。このことは太陽系の惑星群の数を一一個とし、さらにもう一個が発見されることになる（ここでアダムスキーは、太陽系の惑星の数が一二個であることを異星人から知らされた点について聴衆に思い出させた）。地球の天文学者達はこうした面でゆっくりと前進しているのだ。アダムスキーが知る限り、我らの太陽系の全部の惑星群に人間が居住しているという。

メキシコの農場主の事件

つづいてアダムスキーは上映した映画の第二部に言及した。彼によると、それは長い話になるのだが、メキシコ政府の関係者は、一人の裕福な農場主の事件を三年間調査した結果、それが真実であったことを公表したという。この農場主は金星を訪れて、そこへ四日間滞在してから地球へ帰って来たと主張していたのである。

アダムスキーは語る。彼や他の人達の知る限りでは、この男は（アダムスキーは別として）他の惑星へ行って帰って来た唯一の人である。通常、別な惑星へ連れて行かれた人はそこへ永住

●デザートセンターのコンタクト地点で、金星人の靴の裏の図形を石膏にとっているウィリアムソン博士と同行目撃者たち。

左の写真はジョージ・H・ウィリアムソン著『Other Tongues-other Flesh』に掲載されたもの。右端にしゃがみこんでいるのがウィリアムソン。左よりウィリアムソンの夫人ベティー、アル・ベイリー、ルーシー・マクギニス、アリス・ウェルズ。この写真はベイリーの夫人ベティーが撮影。アダムスキーは別な場所にいたらしい。

右の記事にある『石膏板』というのは、一九五二年一一月二〇日、ここに着陸した円盤から降り立った金星人とアダムスキーが会見した際に、相手が砂地につけた靴の裏の不思議な図形を、六人の同行者の一人、ウィリアムソンが石膏にとったことを意味する(詳細は新アダムスキー全集第一巻『第二惑星からの地球訪問者』に出ている)。

左の写真は上の場所と同じ位置を示している。一九八九年一月二一日にここへ第二次の調査に来たとき、訳者(久保田)が上の写真を手がかりにして発見した。左右の丘や遠方の山脈の輪郭が完全に一致している。左の写真は今年一月二五日、第六次の調査時に撮影したもの。

撮影／久保田八郎　マミヤC22、セコール80ミリ、フジクローム100プロ。

するのであって、帰って来ないからだ。

本人は金星に滞在していたあいだ、地球から来た人達に会いに連れて行かれた。彼らはスペイン人だと聞かされていたが、本人が見たところではフランス人だということがわかった。この事件を詳細に述べた本が挿し絵を掲載してメキシコで発行された（訳注＝一九八一年に訳者が二度目にメキシコへ行ったとき、現地在住の日系メキシコ人ガイド氏からこの事件について聞いたことがある）。

当初、メキシコ政府は本人の名前が出されて事件が真実であるとされない限り、事実を公表するつもりはなかったが、彼は名前を出すことを拒否した。だが結局本人の氏名が土地の部落で知られるようになり、人々が彼を襲って農場の建物や財産を破壊したので、本人は政府の手で別な場所へ移動させられて、今はそこに住んでいるという。

秘密保持の重要性

ここでアダムスキーは秘密を守ることの重要性を強調した。彼自身は他人の名前を出してよいという許可を得た場合には、それを伝えるが、名前を出すことは控えてくれと言われたならば、決して出さない。伝えられた情報をペラペラしゃべったばかりに、ひどい目にあった人達もいるのだとアダムスキーは話す。

農場に円盤が着陸！

そのメキシコ人農場主は金持だった。彼は母親から残された数千エーカーの農場に住んでいた。

ある日、彼が働いていた場所の近くの畑に一機のスカウトシップが着陸した（訳注＝スカウトシップというのは母船から放たれる小型の偵察用円盤。直径約一〇メートルの二～三人乗りの釣鐘型機体が多い）。そして二人のパイロットが降りて来た。

二人とも通常のスキー服に似た服を着ており、ヘルメットを手に持っている。きれいな長い髪が両肩に垂れていた。

相手二人の身長は約一メートル五七センチ。一方、メキシコ人は一八七センチを越える大男だ。しかも腰のまわりに弾薬ベルトをしめており、両腰にはピストルを下げている。

彼は両手で二挺のピストルを引き抜いて相手の方へ前進した。すると二人の異星人はこの地球人の意図を見抜いて、両手を頭の上においたまま彼の方へ歩いて来た。

結局、農場主は二人を家に案内して寝泊まりさせた上、二日間滞在させた。そしてついに、金星へ一緒に行かないかという彼らの招待に応じることにしたのである。

彼は行った。しかも金星に四日間滞在した。金星人が言うには、地球時間で数ヵ月間も宇宙旅行をしたのではなくて、数時間で金星に着いたのだという。

テレパシーで生きる金星人

彼は金星のある都市を見て、そこの人々が広場をあちこち動いているけれども、互いに無視しあっていることに気づいた。説明によると、金星人達は声を出さずにテレパシーでもって挨拶をかわすことにより、体力の消耗を防いでいるのだという。

農場主は金星に滞在中、なおもピストルと弾薬を携帯しており、決して手放さなかったが、そのことについては誰も何も言わなかった。金星人達は、彼の本性、地球から来たこと、ここが金星であることを彼が承知していることなどを、わきまえていたからである。

地球から来てここに住んでいる一家族の所へ連れて行かれたが、この家族は定住していて、もう地球には帰らないという。農場主は各建物に窓がないことに気づいた。またさまざまな男女が歩き回って、地球人の仕事と似たような仕事に従事していることにも気づいた。

金星ではあらゆる人が地域社会で価値のあるものと認められており、そのために誰もが職業や精神の発達の度合に関係なく尊重されている。別な惑星には有色人もいるけれども、地球のアフリカ人のような黒人は見なかったと、アダムスキーが述べた。

そのメキシコ人がやがて地球へ連れ戻されたとき、彼は作物やヒナドリ、その他の物を箱詰めにして、今は彼の友人になっている二人の金星人にプレゼントとして差し出した。これは相手が貧しいからではない。金星人はあらゆる必要品を沢山持っているのだ。メキシコ人に親切にすれば、彼らはこんなふうにして感謝の気持を示すのである。

金星文字の文書

つづいてアダムスキーは、この事件を調査した五人の政府関係者の写真を聴衆に見せた。そしてこの次メキシコへ行ったときには、自分に会ってくれと特別に招待状をくれた農場主を訪問するつもりだと語った。

さらにアダムスキーは、一人の金星人から手紙を受け取ったというメキシコ人の運転手の例と、その手紙をスクリーンに写した。その手紙を書くには三〇分を要しただけということで、冒頭には一二個の惑星が描かれていた。実際の文字は象形文字で、かなり四角っぽくて、アラビア文字かギリシア文字に似ていた。それは四つ折判の紙一杯に書いてあるが、彼は内容は読まなかった。

金星人の肉食について

宇宙研究会の一会員がここで質問を出した。金星人は（訳注＝菜食を主体にするといわれている）生きるために暴力を用いて生き物を殺すことを、どのようにして肯定しているのか、というのだ。この男は金星人も肉を食べるということを聞いている人で、どうやら厳格な菜食主義者らしい。

アダムスキーはその無作法な質問に対して、ある程度の忍耐力をもって答えたが、あとでいらいらしていた。というのは、これと同じ質問を数えきれぬほど受けてきたからである。

彼によると次のとおりだ。

我々は生きるために作物をつくる。レタスの葉を一枚荒々しく引き抜いたときに、そのレタス全体の反応を示す特殊な機械装置を使用している科学者がいる。その場合、レタスの収縮が記録される。それはヒナドリのような動物の四肢を死後に干乾しにすることによって一段と明確になるのに似ている。

レタスの場合、葉をそっと引き抜いても、やはり収縮運動が見られるけれども、その動きは荒々しく引き抜いたときよりも少ない。これはレタスがあまり痛手を受けなかった証拠である。

質問者は『暴力』という言葉を用いた。しかしこの場合は多くの人間らしい殺し方があるのだ。一方、金星人が一週間または一カ月に一度肉を食べようともそれは別として、動物は痛手を受けないように殺されるのだ。

金星では地球人が肉を食べるのと同じ割合には肉を食べない。地球ではしばしば一日に三度も肉を食べることがある！

我々は何を食べようと問題ではない。あらゆる生命体は苦痛を感じる。しかも我々が食べる物で過去世を持たない物はない。我々の衣服やその他のあらゆる物は、過去でそれ自身の生涯を持ったのである。我々が体を暖めるために燃やす石炭や、家具を作るための木材にしてもみなそうなのだ（訳注＝人間に食べられることによって、その動物はさらに進化することになるという思想が含まれている。ただし食用の動物は苦痛を与えぬように屠殺する必要がある）

▲筆者パトリシア・フィンチ女史

フィンチ女史は現在英デヴォン州アクスミンスターに住んでいるが、以前ドーセット州シャーボーンに３年間住んでいたとき、大母船が飛ぶのを目撃したことがある。そのとき超低空で飛ぶことは禁止されていたにもかかわらずヘリコプターが屋根すれすれに飛ぶので、ヘリのパイロットが上空の大母船を市民たちに見させようとしていることに気づいたという。

土星と木星

そのあとアダムスキーは土星のマスターから伝えられた物事に再度言及した。

土星は法廷によって規制されている。そのために土星人が身に着けているバッジには、公正さをあらわす象徴的な秤（はかり）の図が描いてある。土星と木星が太陽系全体を治めているとアダムスキーが言ったように思うのだが、これはつまり、あらゆる立法はこの二つの惑星でなされるということである。たぶんこの二つの惑星の住民が最も賢明で、あらゆる点で最も高度に発達しているからだろう。

万物は相互に役立ち合う

つづいてアダムスキーは語った。

人間の『心（マインド）』は我々がつまずきやすい最大の障害物である。人間はもっと簡素な生き方をし、大自然を観察して、そこから学びとる必要がある。

「一本のリンゴの木があります。これは私達を喜ばせるために創造された美しい物です。春になるとリンゴの花が愛らしく見えますが、少したつとその花は落ちて小さな実がなってきます。

そうこうするうちに、この実は大きくなって完全なリンゴになります。そのうちに、このリンゴがそっとしておかれたならば、母なる大自然がそれを振り落とします。そこでリンゴは地面から最初の傷を受けるのです。地面との突然の接触によって傷がつくからです。

さあ、リンゴは地面に横たわりました。もしアダムスキーさんが（と自分のことを言う）そこへ近づいて拾い上

げて食べない限り、リンゴは朽ち果てるでしょう。そこでわかるのは、リンゴは「生きようとして」人間に奉仕したということです」(訳注＝リンゴが人間に食べられるのは、リンゴ自体がより高度な次元に昇華することを意味する)。

アダムスキーは言葉をつづけた。

我々の肉体と感覚は心よりもよく物事を知っている。母親の体内にいる胎児は生まれ出る時を知っている。出生の瞬間に母親は「生まれた」ということがわかるけれども、生まれ出る時の決定権を母親は持っていない。

万物は人間に役立つために存在している。人間は他人のためや、人間を創造した神のために役立つのである。

我々は自分の肉体の内部では五分以上も生きることはできない。というのは、我々は肉体の外側にある生命の息を吸い込んでは吐き出しているからだ。こうして呼吸をしている限り、我々は生きているのである。

転生は即座に行なわれる

さらに言う。人間は死後即座に転生する(生まれ変わる)。亡霊となって次の転生を待っているのではない。一肉体から次の肉体へ即座に移行するのである。今生で用いた肉体は残して、それは大地へ帰る。これについてアダムスキーは自分の生涯と結婚生活に言及した。

それによると、彼と妻のメリーは互いに好きであったから結婚した。二人は三六年間を共に過ごした。そしてときどき二人がいろいろな直感を起こしたとき、妻は「自分は金星の人間だから、死んだら金星に帰って行くのだ」と言っていた。

(訳注＝もともとメリーは地球でアダムスキーを助けるために、アダムスキーにつづいて金星から転生してきたと言われている。そして死後はまた元の金星へ転生して行った。金星人の少女として生まれ変わったメリーとアダムスキーが大母船内で劇的な対面をした様子は新アダムスキー全集第五巻『金星・土星探訪記』に詳述してある。アダムスキーも一九六五年に他界して金星へ転生したと言われている)

霊媒たちの狼狽

アダムスキーは物事の宇宙的な取り上げ方を保つ必要があることを力説した。もし彼がローマ・カトリックの見地から話すとなれば、プロテスタントはそれと関係のないことになる。一方、彼がプロテスタントとして話すならば、彼はローマ・カトリックの支持を失うことになる。

彼は言う。

「私達はこんなことをするわけにはゆきません。私達は両方の支持が必要です。あらゆる支持が必要です。自分がこれまでに体験してきたすべての事は、オカルトとは無関係です。全然関係ありません」

実は彼は聴衆に次のように語ったのだ。彼の妻メリーが一九五四年に亡くなってから二週間後に、八五人からなる霊媒の団体に講演したことがある。霊媒達はアダムスキーの周辺の人達に霊界からのメッセージなるものを伝えたのだが、アダムスキーには何も伝えなかった。

彼が講演を終えて会場を出るとき、霊媒師の一人一人が彼と握手をして、奥さんによろしくと言った(訳注＝メリーが死んだことを知らなかったのである)。そこでアダムスキーが真相を(メリーはすでに死んでいるということを)話したところ、一同は顔色を変えた(霊媒ならばメリーが霊界にいることを知っているはずだ)。おそらく霊媒達は死んだ後に、霊界からではなく別な惑星からメッセージを送ることになるだろう！(訳注＝アダムスキーによれば、いわゆる霊界なるものは存在しないという)

地球人でも超長寿が保てる

人間の年齢に関してアダムスキーは次のように語った。地球人でも自分の心をコントロールする方法を知って、科学技術によって自分の知識を得るならば、八〇〇歳までも生きることができるだろう。つまり、現代の物質的な科学時代にあっては人間は常に事実や証拠を求めたがるので、宗教的、形而上的な研究方法は取らないだろうというのだ。

誠実であったアダムスキー

アダムスキーは約七〇名の会合で大歓迎を受けて、暖かい拍手が送られた。彼は裕福さを示すことはなく、グレイのスーツで簡素に身を包み、白シャツに暗紅色のネクタイを着け、普通の靴をはいていた。

彼が語るときにはきわめて真摯であり、彼の真剣さを感じない人はいないほどであった。その深遠な哲学的な講演は、いかがわしい人間が話せるようなものではないと誰もが感じるほどの言葉で語られたし、静かな説得力に満ちたものだった。

●チャールストンのUFO

1978年1月22日、午前10時20分から11時5分までの間、米サウスキャロライナ州チャールストンの上空に出現した円盤型UFOを、ウィリアム・ハーマン氏が連続12枚撮影した写真の内、6枚目のもの。直径約20メートルの物体が金属のような輝きを放ちながら青空に浮かび上がっている。

パロマー山にUFO出現

A Black UFO Appears over Palomar Mtn.

by Hachiro Kubota & Junichi Kato

●久保田八郎（日本GAP会長）

日本GAPが毎年実施している米カリフォルニア州デザートセンターのアダムスキー・コンタクト地点の第六次調査が今年も行なわれた。今回はパロマー山上空で不思議な黒いUFOが三回にわたって出現するのを加藤純一が目撃、光彩を放った。以下は久保田団長とメンバーの加藤純一による報告。

『第二惑星からの地球訪問者』（新アダムスキー全集第一巻・中央アート出版社刊）にある「せきたてられるような印象を感じて、そこへ引き寄せられた」アダムスキーが、ロビーで二人の異星人と会見したホテルなのだ（詳細は同書一四四頁から掲載されている）。

アダムスキーは書中でホテル名を伏せているけれども、ホテル・クラークであることを私が知ったのは、一九七五年にカ州ヴィスタの元アダムスキーの家を訪れたとき、当時健在であったアリス・ウェルズ女史が私に話してくれたからである。

ウェルズ女史はアダムスキーの側近として多年仕えた人で、アダムスキーが一九五二年一一月二〇日の昼過ぎ、デザートセンターの砂漠地帯に着陸し

ホテル・クラークの残照

一月二三日、成田空港を勇躍出発した一行七名は、同日昼前にロサンジェルス空港着。午後は現地旅行社のバスでUCLA（カリフォルニア州立大学ロサンジェルス校）を主体に市内見学。夕方ダニエル・ロス氏が単身サンフランシスコより七〇〇キロの道を飛ばして車で到着、我々と合流して旧交をあたためた。

翌二四日、付近のレンタカー屋で一五人乗りステーションワゴンを借りて、田中淳の運転でまず市内のヒル・ストリートにあるホテル・クラークへ行く。ここはアダムスキーゆかりの重要な場所である。

▶ロサンジェルスのヒル・ストリートに残るホテル・クラーク。内部は解体されており、営業されていない。 撮影／久保田八郎

た円盤から降りたった異星人と会見したときに、遠くから見ていた六人の同行者の一人として、双眼鏡で観察しながら異星人のスケッチをした人として名高い。このスケッチも同書八九頁に出ているが、女史はその原画を私に見せてくれた。縦八センチほどの小さい紙に描かれたペン画だった。この原画は砂漠で描いたものではない。現地ではラフスケッチを何枚か描いて、帰宅してからそれらを元にして描きあげたものだという。かなりの画才があるらしい。

この砂漠での歴史的な会見の翌年、二月一八日にアダムスキーは異星人からのテレパシーに感応して、グレイハウンド・バスでオーシャンサイドからロサンジェルスへ出て来たのである。

このホテルはかなり以前に日本GAPの研修旅行でロサンジェルスへ来たとき、バスの窓から見た記憶があるのだが、数年前に小人数で調査に来たとき、ヒル・ストリートでこのホテルを発見して驚喜した。ただし内部は解体されて外壁だけが残っていたのだが、今回もまだ外壁が残っていたのは意外だった。ヒル・ストリートはロサンジェルス市内の中心部にある街路で、私達が宿泊したリトゥル・トーキョーのミヤコ・ホテルから近い。

パロマー山で何かが起こる

翌二五日、早朝六時に一行八名は車でデザートセンターへ向かって出発。デザートセンターまでは約三五〇キロある。途中二回ほど休憩をとり、昼頃に現地へ着く。

すでにコンタクト地点は突き止めてあるし、その他の重要な場所も大体に分かっているので、調査といっても以前のように目の色を変えて探索するほどのことはない。私としては将来アダムスキー写真集を出版するための写真撮影を主体にしているので、中判カメラで撮りまくる。大型では沢山撮れないので今回は敬遠した。

あとで後悔したのは、ここで立体写真を撮りそこねたことだ。一台のカメラでアクシスを変えて同一の被写体を二枚撮れば少し角度の違う写真が出来る。それを両眼の交差法で見れば雄大な砂漠地帯が立体的に浮き上がって見えるのである。その写真をここに掲載すればよかったのにと残念に思った次第。

昨年このデザートセンターへ来たときには白昼巨大な葉巻型母船が出現して一同を驚嘆させるという事件が発生した（詳細記事は本誌一一七号に掲載）。

しかし今回はこの砂漠でUFOが出現する予感が事前に起こらず、翌日のパロマー山で何かが発生するだろうと一同に話しておいたが、そのとおりになった。

毎回不思議な事が発生

このデザートセンターのコンタクト地点へは誰でも容易に来ることができる。まずロサンジェルスからサンベルナルディノ・フリーウェーを西下して国道一〇号線を直進すれば、デザートセンターという寒村の中心をなすテキサコのガソリンスタンドの前にいやでも来る。ここから右手を見るとパーカー方面を指示した標識があるので、それらに従ってさらに一〇・二マイルほど行くと、左手の彼方の岩山の左方面に低い丘があり、その丘に縦に白いスジが二本ついているのが見える。これは昔このあたりで演習をやっていた陸軍のジープがつけた轍（わだち）の跡である。それが見えたならば停車して、道路脇から砂漠地帯へ入り、約五〇〇メートル轍（わだち）を目当てに歩くと、右手の丘のふもとを過ぎた砂地に低い岩の固まりがある。その位置から数メートルの所がコンタクトした場所である。

この地点は一九八九年に行なった第二次調査時に私が発見したのだが、その根拠になったのは、一九五二年一一月二〇日、アダムスキーが異星人とコンタクトした直後、六人の目撃証人達の一人であるジョージ・ハント・ウィリアムソン博士が砂地にかがみこんで異星人の足跡の模様を石膏（せっこう）に取っている写真が博士の著書『Other Tongues-Other Flesh』に掲載されている。これを手にかざしながら付近の光景と見比べて歩いているうちに、全く同じ場所に出くわして驚喜したという次第。左右から傾斜して伸びている丘の輪郭、はるか遠方の山々のスカイライン、右手すぐ前の低い岩の固まり等、全く同じであることが写真でわかる。（本号三頁の写真二点を参照）。この低い岩の固まりは誰かがキャンプ時の炊事に使用したらしく、煙で黒く煤（すす）けた跡が残っている。

しかし、ここを見つけたのも上空からの波動を感知して私がその場所へ引き寄せられたのかもしれない。そんな気がしてしようがないのだ。以来、ここへは難（なん）なく来れるようになった。

カリフォルニア州は私達が行く四日前まで二週間も続いた大雨と洪水に見舞われて大変だったらしい。我々は全く幸運だった。陽光きらめく砂漠地帯は摂氏二三度、東京の五月上旬の温暖な気候で快適この上ない。ただし、ここも雨が降ったらしく、いつになく地面が柔らかい。

私達はコンタクト地点に集合して大宇宙瞑想を行なった。心身ともに宇宙と一体化する。ロス氏も参加していたが、そのうちしゃがみこんで、しばらくうつむいていた。感動していたらしい。

結局、予想どおりこの日は何も出現しなかったが、（12頁へ続く）

誰でも行ける―コンタクト地点へ行く方法

カリフォルニア州デザートセンターのコンタクト地点へ行くには次のようにすればよい。

①ロサンジェルスから車で、まずサンベルナルディノ・フリーウェーといわれる国道10号線にのって一路西下し、インディオの町を通過して突っ走ると、約350キロ行った所で道が左折する。少し行くと高い棕櫚(しゅろ)の木を数十本円形に植えた目印が見えてくる。この向こうにテキサコのガソリンスタンドが見えるから、ここで休憩。(ガソリンスタンドは日本式英語。正しくは gas station という)

②ここの右手にパーカー街道へ行く道を示した標式があるので、それに従ってパーカー街道へ入る。ここから計算して約10.2マイル行くと、道路沿いに約100メートル間隔で立っている電柱に付けてある白いプレートの番号の「1758203E」という電柱の所で停止して、進行方向に向かって左手の砂漠地帯へ徒歩で入る。但し道路は2車線で狭いから、車は両脇の砂漠地帯へ少し乗り入れて駐車させておく。絶対に道路脇に置かぬこと。

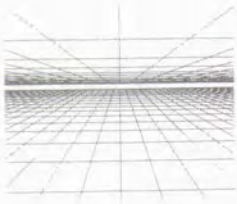
③電柱の所から道路より直角に左手を見ると、はるか彼方の岩山地帯の左手の低い丘に昔ジープがつけた車の轍(わだち)の跡が縦に二本かすかに見える。これが目印になるので、その方向へ約500メートル歩く。左の写真を参考にして行けばコンタクト地点のそばまで行けるので、次に本号3ページの写真を参照して探せば、すぐ判明する。

注意＝真夏にはここの温度は摂氏40度を超えるので、帽子、サングラス等を用意する。夏には低い灌木の中にガラガラ蛇が隠れていることがあるから、絶対に足を突っ込まないようにする。冬場は4時半に太陽が沈むからロサンジェルスを早朝に出発する。現地にゴミを絶対に捨てないこと。

▶デザートセンターの中心部をなすガソリンスタンド。

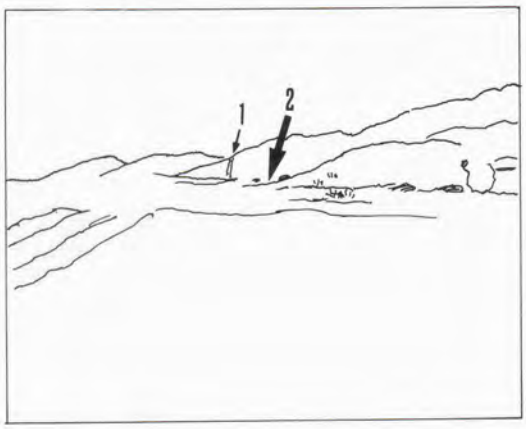
▶パーカー街道を示す標識。左側の道を行けばよい。

撮影／久保田八郎



●デザートセンターのコンタクト地点（写真の中央）を望む砂漠地帯

撮影／久保田八郎　ブロニカ GS-1・ゼンザノン65mm・フジクローム100D プロ



左の図の矢印１がジープのつけた轍（わだち）の跡。これはパーカー街道から見えるので、まずこれを目印にして、この方向に歩いて行く。矢印２はコンタクト地点。この写真は道路ぎわから撮ったものだが、ここからコンタクト地点まで500メートルある。砂漠といっても柔らかい砂の海ではなくて固い地面なので歩きやすいが、石ころが多いので歩行には注意を要する。

私はパロマー山に期待していたので、残念な気持ちは起こらなかった。

いったいに私達がこの砂漠地帯へ来ると何かしら不思議な事が発生するのが常である。たとえば、一九八八年にここへ調査に来たときには、間違った場所へ行ったのだが、そのときには山中の低い丘の上の岩盤に長さ三メートルばかりの見事な曲線が白く刻まれていた。曲線定規を用いて描いたとしか思えない美しい曲線を、人跡まれなこんな場所で誰がどのような方法で刻みつけたのか。この曲線から類推すると直径約一〇メートルの丸い物体が浮かび上がる。私達がそこへ行くことを予知していた異星人が前夜円盤のフランジの縁でこすりつけたのではないだろうかと一同で話し合った（この詳細は本誌一〇四号二〇頁に掲載）。

翌日はパロマー山行きなので、近くのリゾートとして名高いパームスプリングズのモーテル6へ宿泊する。大きな豪勢な部屋で一人一泊三八〇〇円。日本では考えられぬ料金だ。夜はホテルの部屋でロス氏を囲んで愉快に歓談した。毎度来るたびに思うことだが、私にとって英語なるものはもはや外国語というよりも、母国語そのものにする必要があることを痛感する。そのためのアイデアもあって計画を実行中である。日本に住みながら英語を完全に母国語にすることは不可能ではない。学習の方法によるのだ。

▲パームスプリングズのホテル前にて。前列左より加藤純一、田中淳、岡部智成、福井貴子、ダニエル・ロス、久保田八郎。後列左より堀江健一、篠芳史。　撮影／久保田八郎（セルフタイマー使用）

望遠鏡使いの名人 アダムスキー

パロマー山はいつ来ても清澄透明な空気に満ちて清々しい。都合によって先にパロマー天文台に行く。まだあちこちに残雪が見られる標高一八〇〇メートルの頂上は少し冷える。見学人もまばらだ。

今回は特に山が奇麗で清潔に見える。それもそのはず、紙屑を一つ落としても罰金一万ドル（一二〇万円）を徴収するという立て札があちこちに立っているのだ。平地では二万ドルの罰金という高札が目についた。驚いた話だが、カリフォルニア州は観光州なので特に罰則を強化しているのだとロスさんが言う。以前は見られなかった掲示なので近頃立てられたものらしい。

頂上にはニュートン式五メートル反射望遠鏡が設置してある（筒の長さが五メートルではなくて、反射鏡の直径が五メートルの意）。建設してしばらくは世界最大の望遠鏡として威力を発揮したが、その後ソ連がこれを上回る望遠鏡を開発したために世界第二位になった。しかし天文学に貢献した業績は図り知れない。しかも第二次大戦中に日本が負けることを見越して建設をやっていたというから、アメリカの底力を如実に感じさせられる。天文台について詳細を述べればキリがつかないので省略しよう。

この天文台はアダムスキーと密接な関係がある。というのは、むかし、この天文台の職員であったジョンソン博士はアダムスキーの親友であった。この人がアダムスキーにパロマー山に住むことを勧めたため、アダムスキーは一族を引き連れて中腹の台地に住んだのである。その台地をアダムスキーはパロマー・ガーデンズと名づけて開拓し、アリス・ウェルズ女史がここでレストランを経営して一族の収入源とした。

もっと重要なのは、ジョンソン博士の母堂がアダムスキーの弟子であって、この女性がアダムスキーに六インチ反射望遠鏡を贈ったという事実である。この望遠鏡があったからこそ、アダムスキーは名高い一連のUFO写真を撮影できたのだ。

アダムスキーは光学機器に熟達しており、特に望遠鏡による観測はアマチュアの域を脱していた。ガーデンズではドーム付きの一五インチ反射望遠鏡まで設置していたが、これではUFO撮影に不向きなために六インチ経緯台を愛用した。空中の動く物体を敏速に撮影するには反射赤道儀よりも経緯台がはるかに便利なのである。

高貴なインディアンの王女

私達は天文台から下って、約二〇分後に山腹のパロマー・ガーデンズへ到着した。ここは周知のようにアダムスキーが一九五〇年代に生活した場所である。特に彼が砂漠でコンタクトした当時や重要なUFO写真類を撮影した頃の拠点としたところであるから、ひときわ彼の生活行動が偲ばれる。

私自身はパロマー山へ十数度来ているので、このパロマー・ガーデンズが少しずつ様変わりする様子がわかる。しかしアダムスキーが愛した樫の大木は昔のままである。最初に見た一七年前よりも枝々が長く伸びており、地面に届きそうなのもある。

ウェルズ女史が経営していたレストランの跡は、コンクリートを敷き詰めたままにしてあり、これは変わらない。昔、ヴィスタで同女史が私に語ってくれた話によると、アダムスキーの弟子達のなかに一人のインディアン女性がいた。彼女はアダムスキーを心から尊敬していたが、アダムスキーが金に困ってこの土地の売却話を出したとき、そのインディアン婦人が買い取った。そしてアダムスキーを永久に記念するために、レストランの跡地にコンクリートを敷いたのだという。現在もそのままになっているところを見ると、今もインディアン婦人の所有地なのだろう。

ウェルズ女史はその女性をプリンセス（王女）と呼んでいた。ある部族の最高権力者の令嬢だったらしい。そして白人男性と結婚してサンディエゴに

●パロマー・ガーデンズ
アダムスキーが一族とともに住んだ場所。コンクリートが敷かれている位置はアリス・ウェルズ女史が経営したレストランの跡。アダムスキーを記念して永久に残されている。右奥の小さな小屋はアダムスキーが建てたもの。ただし上半分は後に改造された。

撮影／久保田八郎

住んでいると語っていたが、名前は聞きそこねた。ウェルズ女史はこのプリンセスを心から尊敬していた。今も健在かどうかは不明である。

このインディアン女性は超能力の持ち主で、特に透視力が抜群であったという。透視には水晶球を使用していたが、後にこの球をアダムスキーに贈った。一九七五年に私がウェルズ女史を訪れたとき、アダムスキーの遺品が沢山残されており、その中に水晶球があった。かなり大きな物で、手に取るとずっしりと重い。球を見つめると、「何か見えますか」と女史が言う。表面には私の歪んだ顔が映っているだけだった。

コンクリートの敷地の右奥に小さな小屋がある。これも元はアダムスキーが自ら建てたもので、一七年前にはほぼ原型を保っていたけれども、その後いつのまにか上半分の木造部分は改造されて青いペンキが塗られてしまった。下半分の石積みはアダムスキーが築いたままの状態で残っている。しかし今は各石の間にモルタルがつめられて練り積みになっており、補強してある。

昔、この部屋の入口のタタキのコンクリートに、アダムスキーが描いたという円盤の絵があった。コンクリートが乾かないうちに刻みつけたらしい。今はこの絵の部分がはずされて、敷地の奥の地面上に移されている。

このパロマー・ガーデンズへ金星人オーソン氏が訪ねて来て、短期間滞在したという話を、こちらのあるグループから聞いたことがある。だが確証はない。ウェルズ女史はそんな話をしなかった。

パロマー山で何か発生するかもしれないという私の予感は、はずれなかったけれども、目撃者は加藤純一一人だけに終わった。彼によると、この物体は彼だけに見られるような出現の仕方を示したという。何かの特別な理由があったのだろう。いったいに彼は平素も都内でUFOを見ることが多く、またいろいろと不思議な体験をしているところをみると、特殊なカルマを有する人間であるらしい。以下、彼の手記を掲げることにしよう。

◀アダムスキーが描いた円盤の絵

フットボール型の不思議な黒い物体

●加藤純一

本年度の我々旅行団の上空には常に宇宙船の存在があり、我々の行動を見守っていて下さったように思います。

一月発行の本誌発送も無事に終了し、旅行への思いが増幅され始めた一月下旬、久保田先生からツアー参加者への文書が届けられました。その中には、パロマー山で円盤か母船が出現するかもしれないと書いてありました。私はその内容を疑いませんでしたので、アメリカに着いてからは特に強く思念していました。

一月二五日、デザートセンターのコンタクト地点での行動の疲れを、リゾートとして名高いパームスプリングズで癒した我々は、翌二六日、パロマー山へ出発しました。青く澄んだ空と空気が我々の旅を引き立たせます。

さて、先生の予言どおりUFOの出現を待っている私の急ぐ心とは別に、各メンバーは自分の役割を確実に果たしつつありました。

パロマー山頂に着いてから天文台の見学と先生による本格的な写真撮影が行なわれたあと、一行が山を下ったのは一時二〇分前後でしたが、私が最初に目撃したUFOは、それから約一〇分前後の一時三五分頃だったと思います。

天文台で上空からの強い印象を感じていた私は、車の窓から寝るような姿勢で車の真上を見上げていました。

すると、真っ黒いフットボール型の物体が我々の上空を飛んでいるのが見えたのです。私は「やはり出た！」と思いながらも内心驚喜していました。ただし強い印象のとおりの出来事でしたので、ヘタに騒ぐことはしませんでした。山道は私が車の中で転がるほどに曲がりくねっていたからです。

そのUFOは車の進行方向に飛んでいるように見えましたが、すぐに見失ってしまいました。

二度目の目撃はその約一五分後で、山の中腹のちょっとした休憩地でのことでした。車を停める寸前に私は眼下に広がる風景の中に黒い物体を発見したのですが、低い山の左手の空間に浮かんでいるようでした。形は楕円形でやはり真っ黒です。

私はみんなの前に現れて下さったのだと思い、車から降りて確認しようと思って、その眼下に広がる空間を見渡すと、その物体はもはやその位置に存在しなかったのです。その間一〇秒もたったでしょうか。

非常に不思議な気持に包まれた私はその件を先生に話すと、UFOかもし

れないということでした。

パロマー・ガーデンズに向かう車の中で、もう一度見ることが出来るかもしれないという期待を持ちながらも、やはり自分の今回の旅行目的を思い出す努力をして、なんとか心を落ち着かせ、バランスを整えるように努力しました。そのことは別にこのときに限らず、私がよく起こす心の調整、いわばレッスンなので、先生の助手として支部大会や本部役員の仕事などを通じて、いつも心がけている作業同様、自分の身になるものだと言い聞かせるのですが、これに成功したようでした。

私の場合、以上のことが大変うまくいったときに、ボーナス?として素晴らしく価値ある体験がやってくると理解しているのですが——。

さて、三度目の体験はやはりパロマー・ガーデンズで起こりました。久保田先生が一行に対して道路で説明をされている最中、山頂の方向の、かなり高空に雲がかかっていたのですが、ぽっかりと丸く青空が見えることに気づいた私は、上空が気になりだしました。

何度か目を向けているうちに、いつのまにか、その上空にまたもフットボール型（楕円型にも見える）の真っ黒い物体が、こちらを見ているかのように浮かんでいるのです。

独自な微妙な動き（揺れ）を見せながら、そのUFOはゆっくりと北の方向へ移動し始めました。あとでわかったことですが、時刻はこのとき二時九分頃でした。私がみんなに知らせようとして目をそらした瞬間、もうその空に物体は認められませんでした。

またも不思議な気持になりながらも私は先生の写真撮影のお手伝いに集中していましたが、一連の目撃を合わせ考えると、どうしても宇宙の方々の存在を感じないわけにはゆかなくなりましたので、先生や各メンバーに体験を話したのです。

共通点を今になって考察しますと、(1)一人で目撃していること。(2)物体は真っ黒であり、フットボール型であったこと。(3)船体には突起物が見当たらなかったこと。(4)無音で、しかも瞬間的に消えてしまったこと。

以上の事などが挙げられます。

UFOであることの証明法?

私がよくUFOを目撃するときに、非常に不思議な事として、その物体が飛んで行った後に飛行機がその上空を飛んでいく、ということがあるのですが、実は今回の目撃のなかでも、一回目と最後の目撃のときにも同様の事がありました。

生来私は信じやすくもあり、疑ってかかる性質もあるのですが、UFOかな?と思う目撃の後には必ずといってよいほど、音や主翼がはっきりと認識できる飛行機が同じ上空に現れます。

これは私に示して下さった一つの判断法だと解釈しています。ですから、今回の目撃も「我々ですよ!」という印象と証拠を示して下さったのだと思いました。

ただ残念なのは、この目撃が私個人の体験のために確証する術がないことです。昨年の秋田支部大会の翌日の観光で目撃したUFOも私一人の体験でしたが、幸い写真にははっきりと物体が写っていました。こうして他の人が私の体験の真偽を検証して下さる場合もありますから、今回もあまり構えずに、ありのままを報告させて頂きました（編注＝右の秋田支部大会の翌日の観光中に出現したUFOの写真は本号36頁に掲載）。

帰国後も円盤を目撃!

〈追記〉

旅行の興奮もさめやらぬ二月四日の午後五時二五分頃のことですが、千葉県習志野市で仕事を終えて得意先から外へ出たときに、私はふと空を見上げました。

すると、まだ青い空の中に一個の丸い物体が西から東の方向へ飛んでいるのを発見したのです。その物体は皿のようでしたが、色は白で、ときどき白銀に見えましたが、私は直感的にUFOだと思い、テレパシーで呼びかけてみることにしました。

するとまるで私の心中の声が届いた

◀撮影中の久保田八郎と助手の加藤純一。パロマー山にて。　撮影／堀江健一

かのように、しばらくするとその物体は本体がはっきりとわかるかのように徐々に光を発し始めました。

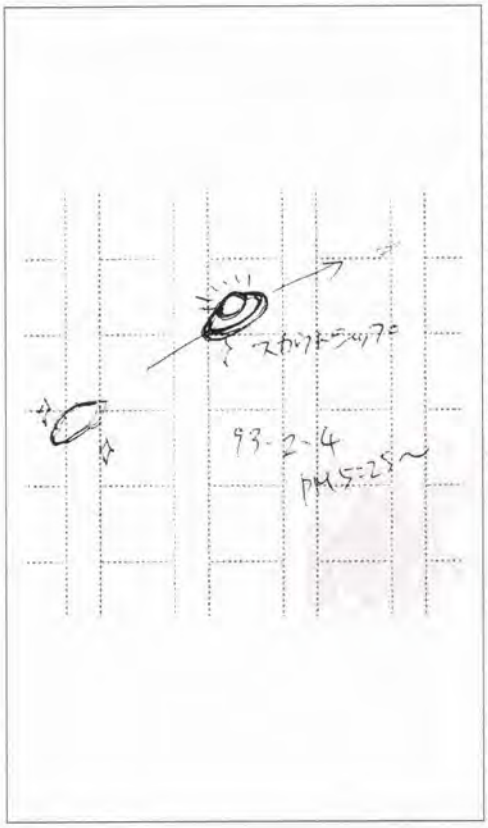
独自なその光は私に確信をもたせましたが、次の瞬間、私ははっきりとその物体の船体を確認できたのでした。ドームを中心に光るスカウトシップだったのです！（編注＝これはアダムスキー型円盤といわれるもの）。

円形に見えていたのはフランジを含む全体像だったようで、光を発するとそれは立体感を伴いましたので、船体の形から私はスカウトシップ型だと判断したわけです。光は不定期に強弱をくり返してから遠くへスーッと消えるようにして視界から去って行きました。

どのような理由で出現したのかは自分なりに解釈しているつもりですが、私が強く感じるのは、以前にも増して上空の方々のＧＡＰ活動に対する期待と力強い激励とが愛となって放射されているような印象が強いということです。

一連の目撃体験により、私は、我々もスペース・ピープルの方々と同じ宇宙空間や同じ〝宇宙の意識〟の中で生きているということを確信してゆくことが重要であることを、あらためて学ぶことができたと思っています。同じ流れの中で生きているのならば、きっと宇宙船やスペース・ピープルと出逢うことも不思議ではない――、そんな気さえします。そしてアダムスキーや久保田先生がやってきたように、私もスペース・ピープルの生活態度を実践し、もっと輝くような生き方をしてゆきたいと思っています。

それでは久保田先生と日本ＧＡＰのますますのご活躍とご発展をお祈り申し上げます。



◀図は筆者加藤純一が千葉県習志野市で目撃した円盤。

〈編者注〉

本誌にたびたびカリフォルニア州デザートセンターのコンタクト地点に関する写真や記事を揚げるのは、我々がこの場所を非常に重視していることと、近ごろ本誌の新しい読者がふえているために参考に供するためである。

一九五二年一一月二〇日、アダムスキーがここで金星人とコンタクトしていたとき、上空を米空軍の飛行機が多数超低空で飛び回って地上の光景を観察し、空中からアダムスキーと金星人の二人を撮影した写真が極秘資料として保存されているという噂が昔からあった。

そういえば我々がこの土地を訪れるたびに上空と地上の両方から〝観察〟されているという〝雰囲気〟を感ずることがしばしばあった。上空はスペース・ピープルで、地上は米空軍か官憲であろう。正体不明のセスナ機が超低空で飛来して我々を観察したこともある。要するにこのコンタクト地点は、昔から米側がアダムスキーのコンタクト地点として熟知しており、特別な保護地として温存しているのではないかと思われるフシがある。

また、我々がここを訪れると、きまったように多数の戦闘機が上空にワッと出現してスクランブルをかけるので、「ははあ、ＵＦＯが出たのだな」ということがわかる。レーダーで探知するのだろう。とにかく重要な場所だ。

宇宙ボタルはUFO？

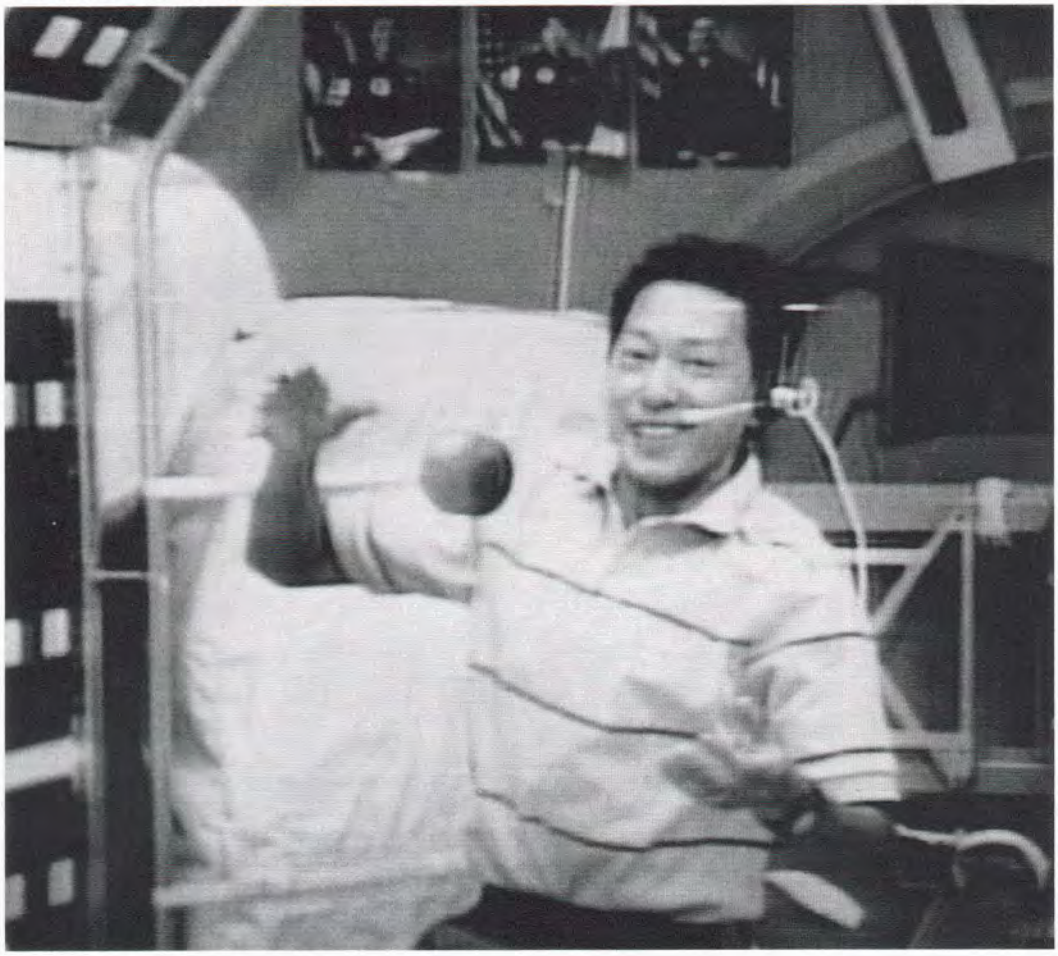
一九六二年二月にマーキュリー6号カプセルのフレッドシップ7に乗って地球を三周したジョン・グレン中佐は、飛行中、暗黒の空間にホタルのような光体を沢山見たと報告して大センセイションを巻き起こし、アダムスキーはこれらをUFOだと説明した。

ところが昨年九月にアメリカが打ち上げたスペースシャトル「エンデヴァー」に乗り込んだ日本人宇宙飛行士の毛利衛氏も、飛行中に宇宙空間でホタル火のような光体を見たと帰国後語っている。金星よりも明るいオレンジ色に光る物がシャトルのすぐ近くを、少し早くカチッカチッと回りながら飛んでいるので、「何だ、あれは」と思っていたら、仲間のJ・アプトが、あれは初期宇宙飛行士がUFOと間違えたもので、トイレから出る排水などが光って見えるのだと教えてくれたという。

これについて「超真相・宇宙人」（徳間書店）の著者である深野一幸工学博士によれば、真空中か極端に大気の薄い空間に放出された水は瞬間的に四散して消滅するはずで、固まって光るというのはおかしい。たぶんUFO現象を隠すためにNASAあたりが情報工作をやっているのではないかということである。

〈資料提供　大塚成志〉

▼スペースシャトル「エンデヴァー」内で無重力状態になったリンゴを空間に浮かべるテストを行なっている毛利さん。これは9月16日に宇宙空間から日本の小学生たちにいろいろなテストをしてみせたときの光景。　写真／ロイター



アダムスキー型円盤——超低空で——東京をかすめる!——

Adamski-Type Flying Saucer
Hedgehopping over Tokyo

昨年(一九九二年)一二月二七日夕方五時二〇分頃、都内品川区東品川一丁目付近のバス停近くの大通りを走っていたバスの中から、乗客の一人、秋山槙之介君(九歳・小四)は、アダムスキー型円盤といわれるUFOが超低空で前方からバスの方へ飛来するのを目撃してキモをつぶした。運転手さんも気づいて驚いており、他にも見た人が何人かいるという。

バスの最前席に座っていた同君は、ウインドガラス越しに、ずっと前方に見える品川プリンスホテルとその左側にあるビルの間で、最初に何かがピカッと光ったのを見たが、つづいて空飛ぶ円盤型の白っぽい物体が、バスの方へ向かって超低空で飛んで来るのを見た。びっくりして見ていると、物体はバスの真上のあたりで折り返し、また元の方向へ引き返して消えた。突発的な出来事であり、子供のことなので、見えていた時間的間隔の見当がつかないらしいが、数十秒間だったらしい。

物体の大きさは見かけ上、大型の冷蔵庫ぐらいだったというから、その直径が約一〇メートルぐらいだとすれば、高度数十メートルの超低空だったようだ。

この円盤型UFOは、アダムスキーが撮影した金星のスカウトシップといわれる円盤と酷似しており、窓も三つ見えたし、左端の窓には黒い影のような物が見えたという。これが人間だったのかどうかはわからない。

物体の底には車輪型の物が二つあった。槙之介君が描いた絵には、その丸い物が小さく描いてあるけれども、実際には、かなり大きな物だったらしい。

また、底部には四カ所に左から赤、青、緑の色光が点滅していた。

落ち込んでいた少年を激励?

実はその前日、槙之介君は品川区内の八潮団地にある親戚の家に遊びに行ったのである。そこには同君のいとこがいるので、それと楽しく遊ぶつもりだったのだが、いとこの友達も来ていて、それが槙之介をいじめたために不愉快になり、一泊したあと翌日バスに乗り、東五反田の自宅へ向かって帰途についたのだが、車内でも気分が落ち込んで、座席にもたれてうつむいたまま、もの哀しい気分に包まれていた。

そのうち車酔いしたので窓を少しあけて空気を入れた。そして前方のウインドガラスの方へ顔をあげたとたん、品川プリンスホテルの横に閃光を見た。続いて物体が道路の上空をこちらへ超低空で飛んで来るのだ!

槙之介君はギョッとして怖くなったが、すぐに車酔いが治ったので、嬉しい気分も起こってきた。悲しんでいる自分を元気づけるために円盤が来たのではないかと思ったという。

過去を思い出す能力

槙之介君はUFOについて全く知識がなかったわけではない。実はお父さんの秋山和広氏が多年日本GAP会員としてUFO問題や宇宙哲学を真剣に研鑽してこられた方である。このお父さんから槙之介君はときどきUFOの話を聞いていたし、アダムスキーという名前も知っていた。

UFOを見たのは今回が初めてではなく、以前にもお母さんと一緒にそれらしい物を見たことが一度あった。またお父さんから宇宙的な話をときたま聞かされるので、双眼鏡でよく空を眺めることもあった。

しかし学校の成績が優秀で賢明な同君は、驚異的な目撃事件について、多くの同級生にしゃべりちらすようなことはしなかった。三人の友達だけに打ち明けたが、二人は信じてくれたけれども、一人は信じなかったという。

お父さんの秋山氏によると、一体に槙之介君は普通の子供とは違っていた。ずっと以前、氏は奥さんと一緒に宇宙ものSF映画『ET』を見たことがある。後年、槙之介君が成長してから、テレビでそれが放映されたとき、「僕はむかしこの映画を見た覚えがある」という。つまりお母さんがあの映画を見たとき、槙之介君はお母さんのお腹の中にいたので、一緒に見たということらしい。こうした遠い過去を思い出すような特殊な能力を持つようだ。同君は円盤を間近に見たとき、一瞬、死ぬのではないかと感じて、「今まで育ててくれてありがとう」と両親に感謝の気持を起こしたという。

特殊なカルマをもつ少年?

そんな超低空で町のド真ん中を飛んだ円盤型UFOを、なぜ多数の市民が目撃しなかったのか。なぜ大騒ぎにならなかったのか。

これについては種々の理由が考えられる。

①一二月末は日が沈むのが早くて五時二〇分頃にはかなり暗くなっているか

▶秋山槙之介君　撮影／秋山和広

ら、物体が強く輝かない限り人は案外気づかない。

②見た人がいたとしても、あまりに突拍子もない現象の場合、他人から嗤われるのを恐れて他言しない。

③UFOはなんらかの理由と方法により、バスの乗客のみに見せる方策をとった。したがって通行人には全く目撃できなかった。

いずれにせよ、編者の調査によって、この事件が真実であることは間違いないと断言できる。一緒に目撃したバスの運転手さんを探し出して証言を得ればなおよいのだが、残念ながら編者にはその時間的余裕がない。

一つ言えるのは、目撃者の槙之介君は常人と異なる特殊なカルマを有する少年であるらしいということである。

お父さんの秋山氏は五反田駅前でカフェ・トゥジュール・デビュテという喫茶店を経営しているが、ここは知的な雰囲気の店として知られており、有名人がよく顔を出すという。

◀秋山君が描いたアダムスキー型円盤の図。左端の丸窓に黒くて丸い影が見える。底部の四本の矢印の所には、左から赤、青、黄、緑の色光が点滅していた。二個の車輪型の物は実際よりも小さく描いてある。

◀中央の矢印の丸い点が最初に光った位置。そこから手前に向けて道路上空を円盤が超低空で飛来した。黒丸の右側のビルは品川プリンスホテル。背後の建築中の高いビルは当時存在しなかった。　撮影／秋山和広

Mysterious Lights over the Edogawa River
by Takeshi Suzuki

江戸川堤防の怪光体

―鈴木　武―

都内足立区在住で実業家の筆者が三二年前の若き頃、都内葛飾区の江戸川のほとりで夜間に女性と休憩中、すぐ眼前に物凄い光体が出現して仰天した。以来、この不思議な出来事を他人に話しても信じてもらえず、独り胸中に秘めていたところ、昨年書店でアダムスキーの書物に巡り会ったのがきっかけとなり、日本GAPの存在を知って、ただちに報告してこられた。以下は本人が語る実話である。

◀鈴木　武氏

あれは一九六一年（昭和三六年）九月二七日の夜のことでした。初秋の曇天のしのぎやすい日で、全くの無風でした。真っ暗闇で、あたりは何も見えません。

時刻は八時半頃でした。当時私は葛飾区の金町に住んでいました。区内を流れる江戸川にかかっている新葛飾橋の少し南に下がった堤防の東側に金町小学校がありますが、その学校の裏側から堤防に登った所にちょっとした休憩所が設けてありました。現在は全然ありませんが――。

そこは小庭園風に作ってあり、ベンチがあって、そこに座れます。そのベンチから、川に面した長い斜面の縁までは幅三メートルの歩道が左右に堤防上に長く伸びています。したがってベンチに座っていれば、すぐ前の横に伸びた歩道を人が散歩して通るわけです。

川とは逆方向を見ますと、ベンチのうしろから反対側の斜面までは約一〇メートルの台地になって、庭園の一部になっています。そのうしろには少し低い斜面に続いて幅六メートルの車道があり、さらにそのうしろには長い斜面があって、小学校側の平地につながるわけです。

奇怪な光が突然照射

その夜私は当時つきあっていた女性と一緒に車道側から斜面を登って、堤防上のベンチに座っていました。

昔のことですから車は沢山通りません。聞こえる音といえば虫の音ぐらいのものです。これはずいぶん賑やかに響いていました。

なにぶん二人とも若い頃ですから、意気投合し、私は彼女を抱きよせて、口づけをつづけていました。

そこへ座ってから約三〇分ほど経過した頃、突然、ベンチの高さの前方の空間に自動車のヘッドライトみたいな強烈な光が二個輝いたのです。その光の間隔はちょうどトヨペット・クラウンのヘッドライトの間隔程度です。

その光が我々の位置から約八メートルほど離れた空間からサーッと我々を照らしたのです。

最初二人は車のヘッドライトで照らされたのかと思いました。しかし考えてみれば前方は川に面した長い斜面ですから、そこから車などが出てくるわけはありません。

二人はびっくりしてワーッと叫びましたね。その光はオレンジ色で、それに溶接のときに出る白色の部分を若干混ぜた感じでしたが、オレンジ色が主体をなしていました。

その光は二個の電球をともしたというようなものではなくて、何かの〝動き〟を感じるのです。

なぜそのように感じたかといいますと、最初は自動車のヘッドライトと思ったものですから、誰か知り合いの者が我々アベックの行動を邪魔しようとしているんだなと思って、それで一生懸命に光を見たわけです。

うごめいている光

大体に自動車のヘッドライトには反射のための線が数本ずつ入っています。ところが何秒間かジッと凝視して見るのに、その線がないんです。しかもその光は一カ所に停止した静的なものではなくて、動的なものなんです。何かがうごめいているような――。

ちょうどアセチレンガスが燃えるときに炎が動いていますが、あれの非常に小さな状態です。

非常に不思議なものですから、「一体この光はなんなのだ？」と首をひねっているうちに、突然、パッと消えました。光っていた時間は一〇秒ないし一五秒です。しかし、照らされていた間はものすごく長く感じられました。

このときの状況は現在彼女もよく覚えていて、電話で連絡すると、「あのときはずいぶん怖かったし、長かったような気がしたわ」と言っています。た

だしその後彼女は他人の奥さんになっています。

普通は光が消えたあと、その光の光源体が見えるものですが、それが全く何も見えないんです。ですから、何かの物体が存在して、その一部分から光が出たと思いましたね。

パッと消えたときに大きな安心感がわきおこりましたが、次に、「あっ、これは車が斜面に落っこっちゃったんだな」と思いました。そこで、怖い思いをしたけれども助けなくてはいけないと考えて、彼女の手を引きながらおっかなびっくり堤防から斜面を見下ろしたのですが、物体は何もないんです。

それで斜面を下りて行ったんですが、何もありません。目も次第に暗闇に慣れてきたんですが、何も見当たりません。またも首をひねりながら斜面を登って再度ベンチに座ったんです。

今度は川の上空から強烈に照射

そうこうするうちに、もう家に帰ろうということになって、私は彼女を家まで送ろうと言ったのですが、彼女は恐怖のあまり私にかじりついてきて、離れようとしません。

「もう心配することはないよ。一緒に帰ろうじゃないか」

と言っているうちに、ベンチから一〇〇メートル前方の――これは翌日目測したのでわかったのです――川の真ん中の、水面からの高さ約五〇メートルの位置から、またも例の光が放射されたんです。今度はガスの燃えるときの白色光です。

しかもその伸びた強烈なライトは、我々が座っている土手と、川向こうの土手の両方を照射するんです。そのために向こう側の土手がはっきり見えましたね。

こちら側の堤防から向かい側の堤防まで四〇〇メートルはあったと思います。その光たるや物凄く強烈なもので、しかも一直線のビームではなくて拡散した放射状の光ですから、昼間のように明るくなりました。この周辺の光景は全部見えましたね。

その時間帯は約三秒ないし五秒です。「わーっ、なんだ、これは！」と二人で叫んだのですが、今度は丸い物体、つまりお盆を斜めに見るような物体の存在を確認できました。その物体の一部分から光を放射したのだと思います。

そこで我々は、車でないことはわかったので、今度来るときには考えられないことが起こるだろうと直感しましたね。

しかし、何が起こっても仕方がないという開き直りの気分も瞬間的に起こって、むしろ次に起こる現象を待っているような感覚になり、つづいて一五分ばかりそこにおりました。しかしもう何も発生しません。それで私は彼女を家まで送って行きました。

光の照射で熱を感じる

翌日も気がかりになったものですから、現地へ行って、草が倒れたりしてはいないかと徹底的に調べてみたのですが、何も異常はありません。何一つ焦げた物もないし、踏んだ物もなく、全く平常どおりです。

照らされたときの光から熱を感じました。その頃は秋口で、少し涼しい気候ながら、半袖でいたんですが、両腕と顔に光が照射されたとき、確かに熱を感じました。だからなおのこと、これは自動車のヘッドライトとは違うということがわかりましたね。

そのとき私は二七歳で、彼女は年上でした。今私は五二歳です。

訪問先でUFO問題を聞く

このような不思議な体験はこのときだけだったのですが、不思議といえば次のような事がありましたね。

あの事件から一カ月もたたないうちに、営業の仕事で歩いておりましたときのことです。当時私は建設材料の会社に勤めておりましたが、先輩社員につれられて初めて訪問した会社があったのです。

そこで先輩が営業の話をしておりましたとき、そこの社長が自分の書棚から雑誌を取り出して、「君たち、こういうものが信じられるかい」と言うんです。見ると『空飛ぶ円盤』と書いてあるんです。すると社長は空飛ぶ円盤の研究団体があるんだと言うわけです。

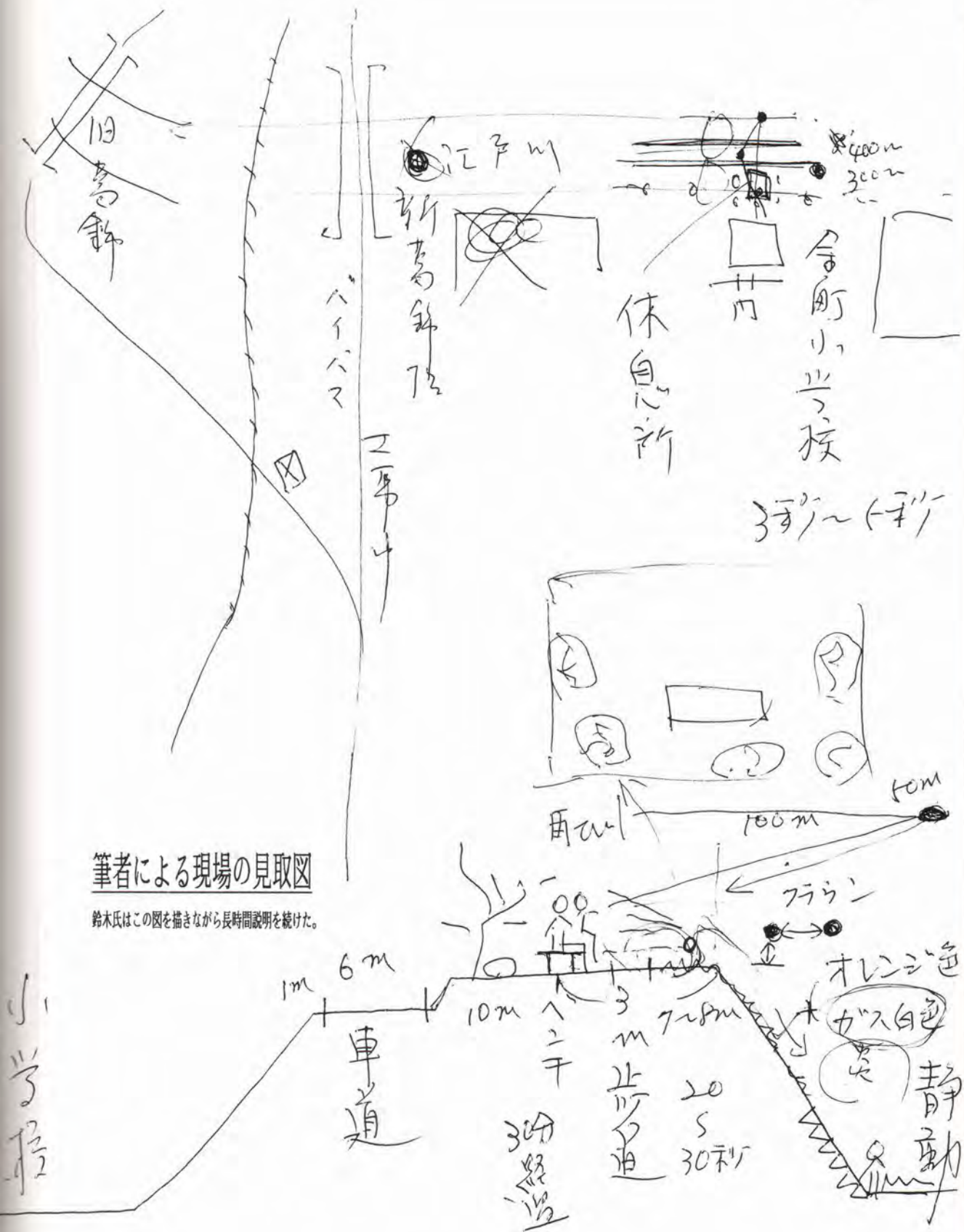
その団体は空飛ぶ円盤に遭遇するためのあらゆる活動をしている。そのためには、それらしき場所へ行って、飛行機をチャーターして空へ飛び立って、ちゃんと円盤の存在を信じて飛び回る。すると円盤が我々に姿を現してくれる。それも一機や二機ではない。群れをなして現れる場合もあるし、まあまあの大きさのものがぴったりと接近して来る場合もある。そういうわけで、空飛ぶ円盤というものが実在するということを我々が信じて勉強会をやっているんだと、社長が延々と説明するんです。

あれ、これは一体何なのだろうか？と私は心底から驚きましたね。私の最近の経験と、目の前にある本とに何かの関係があるのかなと思いました。

それで、よほど「いや実は」と話し出そうかと思ったんですが、営業で来ているのですし、そばにいる先輩がやかましい人だったものですから、まあ、いいや、私の場合は地上の経験だし、社長の話は大空の経験なのだから違うんだと、自分なりに納得して、その場では全然話をしませんでした。

目撃場所を壊す羽目になった

それから五～六年ないし七～八年たったときです。やはり建材の仕事をしていたのですが、江戸川の改修工事をしている所に私が関係することになっ



筆者による現場の見取図

鈴木氏はこの図を描きながら長時間説明を続けた。

たんです。私には担当で堤防で立ち合ったり確認に行ったりするという役割がまわってきたんです。

それでまたびっくりしました。その場所がちょうど例のベンチがあった場所でして、そこをつぶして形を変える工事を行なう役目なんです。

それであの日のことをいやおうなしに思い出しまして、あんな不思議な経験をした場所を今度はブルドーザーで壊して、堤防を防災工事のために拡張するんですが、その一部の仕事として役割が与えられたものですから、一体これはどうしたことなのだ、あの場所はあのまま残しておいた方がよかったなあと思いながらも、結局、その場所をつぶしてしまいました。

それを自分で壊してしまったというか、不思議な奇妙な巡り合わせを感じます。なにも私が担当しなくても、それは建設省の仕事ですから、誰かがやればいいのに、巡り巡って私にまわってきて、あの小庭園式の場所をガタガタ壊したんです。

あんな珍しい体験をした場所を今度は自分で壊すというのも不思議な事です。これは証拠を残すなという意味なのかなと思うと、一体あの体験は何だったのかということになるんです。

UFOは絶対に存在する！

よくテレビでUFOの番組を見ますが、UFOは単なる気象現象だとか、あるいは何かの見間違いだとか、物理学者が片付けたりしていますが、私は実在に対して結論を出すとかなんとかよりも「UFOはあるんだ！」「あったんだ！」と声を大にして叫びたいですね。

気象現象だなんて「冗談じゃない。そんことで、あれほどの事が起こるわけはないじゃないか」と言いたいですね。私は久保田先生の翻訳されたアダムスキー関係の本を読んで本当に救われるような思いをしました。自分の体験をもっと大切にしなくてはいけないという考えに変わってきました。

ですから早く先生にお会いして、お話をしたいと思っていました。以上が私の体験のすべてです。

〈編注〉鈴木氏は明朗豪快な性格であるが、実業家らしい繊細綿密な面もある。当初レポートを送付されたので、その内容に関心をもった編者が電話で聞いたところ、長時間にわたって体験を話されたが、記憶しきれないので、再度要請して直接お会いし、詳細にお聞きすることができた。その後、日本GAPに入会され、東京月例セミナーにも数度出席された。

▼鈴木氏が撮影した事件現場。○印は昔の庭園風休憩所の桜の木があった位置。□印はベンチがあった場所。右の川は江戸川、左の建物は金町小学校、右前方の橋は新葛飾橋。堤防は23年前とはすっかり様子が変わっている。

不思議な筒状の雲

Mysterious Cylindrical Cloud

by Takahiko Numakura

沼倉孝彦

朝から落ち着かない気分

地元のスポーツ新聞の取材・編集も筆者の仕事の内だが、この事務所は湯沢市内（秋田県）西部のA印刷所の二階にあり、筆者は一カ月の半分ここに詰めている。

一九九二年一〇月七日。この日は朝からそわそわしている筆者を、新聞社で事務を執っておられるM嬢が「沼倉さん、今日は朝から変よ」と笑っている。午前中は何が原因なのか解らず、落ち着かない気持ちを静めるのが精一杯で、仕事も手につかない。お昼の出前のラーメンを口にする頃からリラックスしてきたためか、この原因が後ろにあることに気づき始めた。筆者の同社における席は、ちょうど東に面した二階の窓際に背を向ける位置にある。ここから振り向けば、辺りに建物が少ないため市内がある程度見渡せるし、嫌な西日も入らず、遠くの山々も一望できるという大変気に入っている場所だ。

後ろから見られている？

午後からは、後方から見られているような感じが強くなり、時折振り返ってブランドを上げては空を見た。別に普段通りの景色しか見えないが、よく晴れ渡った空には秋特有の雲が程よいバランスを見せて、深まる秋を暗示している。飛行機雲が不自然にたなびいているのもいつものことだ。余談となるが、湯沢市上空は飛行機の航路に近いため、天気のよい日は飛行機雲が絶えない。せっかくの趣あるカンバスに、まるでナイフを入れたように見える。できることならば航路を変更してほしいものだ。

不思議な雲ガ！

「気のせいかな」と机上の仕事に戻り、一時間ほど経った頃のこと。それでもまだ後ろが気になり、振り向いてブラインドを上げると、湯沢市のシンボルとも言える御嶽山越しの上空に、変な形の雲が浮いている。巻層雲や飛行機雲よりももっと下の部分、ちょうど積雲が発生する高さに、目測で七〇〇メートルはあろうかという筒状の雲が斜めに位置しているではないか。雲というのは、時間の経過とともに細かい部分から全体にわたって、不規則な変化を必ず見せるものだ。しかしこの筒状の雲は、細部に多少変化はあっても全体的には大きさも形も一定している。そればかりか、三〇分程経っても他の雲の動きを無視するように一定の位置から動こうとしないのだ！

さあ、これは大変、カメラ、カメラはどこだ。撮影しようと慌ててバッグを捜したものの、常時持ち歩いているカメラバッグは、この日に限り不覚にも自宅に置いて来てしまった。予感を素直に受け入れていれば、バッグを忘れることなどなかっただろうに。多忙に紛れた宇宙哲学の勉強不足が、この日の失敗を招いたと反省しても後の祭りだった。

筆者がこの不思議な筒状の雲を発見したのが午後二時三〇分頃で、それから四時頃まで見えていたが、以後は霞（かすみ）がかかってしだいに見えなくなるとともに、周辺に沸き出した雲に隠されてしまった。今回の不思議な雲は、空全体からすればほんの一部分でしかなかったが、単なる変形の雲だったとしても、御嶽山頂から見れば、さぞかし壮大な眺めだったに違いない。

何ガ警告している？

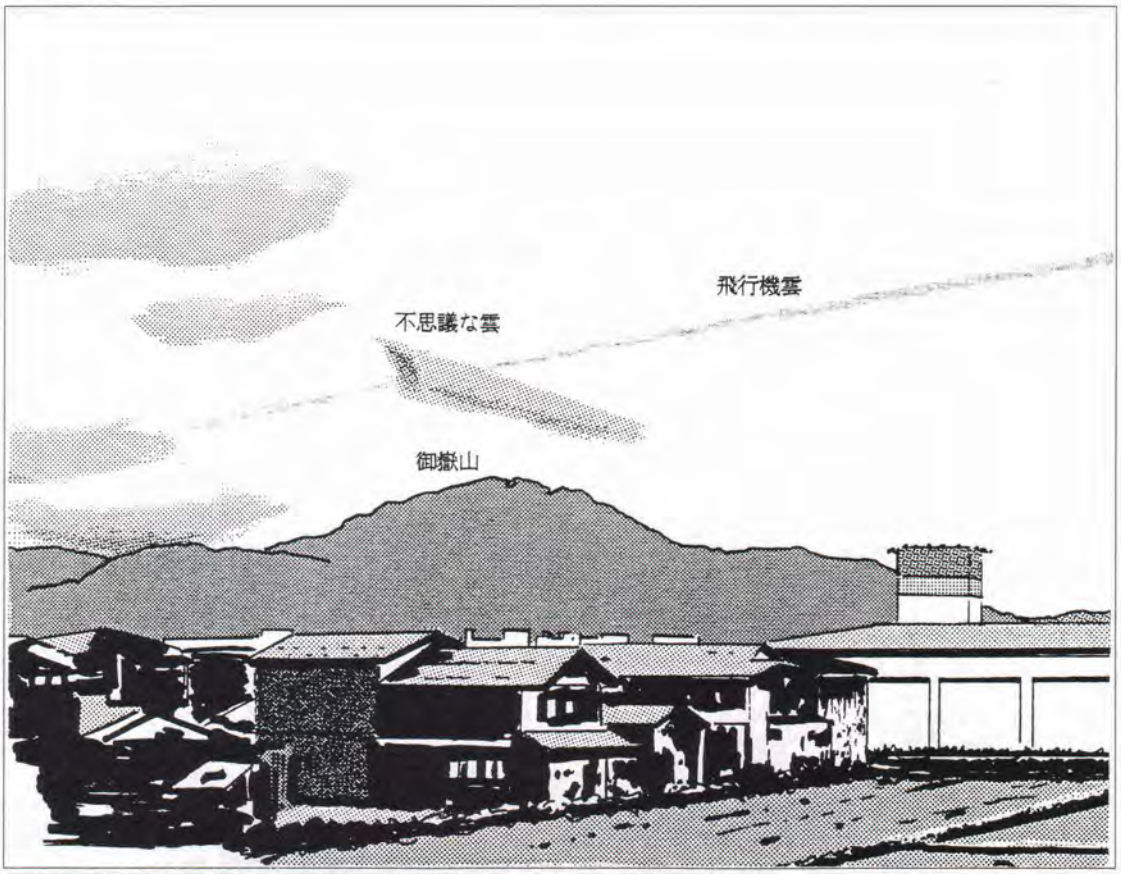
以上のような経過で、目撃したものを即メモにして残したものの、カメラに収めることができなかったことは今でも悔やまれて仕方ない。イラストは後日そのメモを基に描いたものだが、二階の窓から見た不思議な雲の形と位置関係については、ほぼ現実に近い状態が再現できたと思う。ここでは省略したが、実際にはもう少し雲が多く、最終的には左側の雲に紛れてしまった。

新聞社事務のM嬢、それに印刷所ワープロ・オペレーターT嬢に、当日無理やり同時目撃者になっていただいたが、前者は同意的でイラストについてもほぼ実物どおりと証言、しかし後者は「ただの雲にしか見えない」と懐疑的。このように二人の印象はそれぞれだったことを付け加えておきたい。

実のところ、この件は単なる雲という可能性も考えられたし、久保田先生に宛てた筆者の書簡並びに写真が〝神室山上空のUFO〟と題し、UFOコンタクティー誌一一九号に掲載されたばかりでもあり、しばらく自分のファイルに止めていたものだ。

しかし新刊書はすぐ全てに目を通さず、後から拾い読みをするという筆者の癖（くせ）で、先日同誌一一七号の秋山眞人氏との対談記事を拝見、二〇頁の「UFOの色光について」という部分で思い当たり、ご報告申し上げた次第だ。

この件以後、これまで特に変わったことはないが、今までの事をよく考えると、現実的になって何か大事なこと（自分でもよく把握できていないが、当然のことながら観念的なもの）を忘



▲イラストは筆者が描いたもの。不思議な雲は、実際には巨大なものだったと思われる。
筆者はときどきUFOを目撃する日本GAP会員、デザイン事務所を経営するすぐれた画才の持主。

れそうなときに、このような体験をするという傾向のようだ。こんな筆者に比べ、日頃から宇宙哲学の勉強と実践をされ、自分を高めておられる会員の方々には心から敬意を表したい。

日本GAPへはいりませんか

★UFOと宇宙哲学研究世界トップクラス大集団★

●日本GAPは1961年にUFO研究家・久保田八郎がジョージ・アダムスキーの要請によって設立した世界屈指の研究集団。会員数は現在約1600名。中学生以上なら入会可能。
●専門誌『UFO contactee』を年4回発行（1、4、7、10各月）会員に直送。UFO出現事件、異星人コンタクト事件、超能力開発法、宇宙科学、宇宙哲学等多岐に渡る記事と珍しいカラー写真を満載。興味本意を避けて読者に大いなる希望と勇気とビジョンを抱かせる有益な啓蒙的内容。
●東京本部と17箇所の地方支部が毎年月例セミナーを開催。これは会員による研究発表、会長の『生命の科学』解説講義、テレパシー開発練習、質疑、その他のプログラムにより真剣でしかも非常に和やかな雰囲気のもとに過す充実の日。
●本部と各支部は独自の計画によりUFO観測会を開催し多大の成果をあげており、これらは本誌に逐一掲載される。
●毎年秋に東京で総会を開催、海外より有力なUFO研究家を招待して講演、スライド映写等によりUFO問題の研究報告を行ない、夜はホテルで大夕食会を開催、旧交を温める。
●各地方支部も数年に一度、大会を開催し、会長の講演によるセミナーを実施。その他支部独自で各種の行事を行なう。
●毎年8月に古代の謎の遺跡を探る海外研修旅行を実施。
●会費は年4回発行の機関誌代として年会費￥4300（総料共）。6回分￥6200、8回分￥8000、10回分￥9900。入会金不要。
●入会案内書入用の方はハガキで下記へお申し込み下さい。
〒133　東京都江戸川区本一色1-12-1-511　日本GAP

GAP短信 GAP NEWS

★「東都よみうり」日本GAPを紹介

東京都内の墨田、江東、江戸川、葛飾四区をカヴァーする「読売新聞」系ローカル紙「東都よみうり」紙が、今年一月二九日付で「UFOを歓迎しよう！」と題し、日本GAPと久保田会長の業績を大きく紹介して下町一帯で評判になった。会長が米カリフォルニア州デザートセンターで調査中の写真を掲げたこの記事は、きわめて真面目に取り上げられており、このため各地から問い合わせが殺到した。

★月刊「ムー」誌も紹介記事掲載

学研発行のノンフィクション・ミステリー専門誌「ムー」も、今年三月九日発行の四月号に「宇宙哲学を継承する元祖アダムスキー派・日本GAP」と題する紹介記事を大々的に掲載して反響を巻き起こした。同誌一〇四頁よりカラー写真四点、白黒写真五点を添えて治郎丸明穂氏が執筆した四頁にわたるこの記事は、久保田会長がむかしユニバース出版社を経営して専門誌「UFOと宇宙」を発行していた時代から現在までの輝かしい歴史を紹介、アダムスキーの宇宙哲学の要点をあげて、「アダムスキーの体験と思想を世に問いつづけて三二年。久保田氏率いる日本GAPが現在のUFO研究にどうアプローチしていくのかを、おおいに注目したい」と結んで、あたたかい激励の言葉を寄せている。このためまたも日本GAPに問い合わせが殺到し、このところ会員の増加が上昇の一途をたどっている。

★東京本部五月セミナーの日時変更

日本GAP東京本部の月例セミナーは毎月第一日曜日に開催されるならわしになっているが、来る五月の第一日曜日は連休と重なるので、これを変更して五月のみは第二日曜日の九日に変更された。会場はいつもの機械振興会館（東京タワー前）。六月よりは平常どおり第一日曜日に開催される。詳細については本誌巻末の案内欄を。

★大阪支部大会、迫る

既報のとおり今年度大阪支部大会は来る五月三日に奈良市の奈良県新公会堂で盛大に開催される。今回は場所が奈良公園という絶好の環境に加えて、翌日の観光も夢とロマンに満ちた飛鳥（あすか）の謎の古代遺跡を自転車で周遊するという趣向。晴天下のサイクリングは運動になり体力づくりによい。自転車に乗れぬ人はタクシーで回る。三月中旬に平塚代表からの連絡によると、その時点ですでに大会後の夕食会の申込者が五〇名に達していたという。大盛況が予想される。詳細に関しては本号四九頁に予告が出ている。

★秋田支部のUFO観測会と懇談会

日本GAP秋田支部は来る五月二九日（土）と三〇日（日）にかけて観測会と懇談会を秋田県鹿角（かづの）市で開催する。まず二九日夜、大湯の有名なストーンサークルでUFO観測会を実施し、大湯温泉千葉旅館に宿泊。翌日は午前九時より鹿角地域広域交流センターで正午まで懇談会を開催。午後は観光という豪華版。これは東北一帯の会員間の親睦と交流を深める意図もあるので、県外の方や非会員の方も大歓迎するとの由。詳細に関しては本号四四頁に掲載。多数参加されたい。

★九三年度海外研修旅行

既報のとおり本年度夏の日本GAP海外研修旅行は「中米マヤ遺跡宇宙ロードの旅」と銘打って、アメリカ、メキシコ、グァテマラ、ホンデュラスの四カ国を回る一〇日間の旅を実施する。

八月一三日に成田を出発。まずアメリカのサンフランシスコに入り、ここで観光一泊後、一挙にメキシコへ飛び、テオティワカンの大ピラミッドに登頂後、グァテマラの古代マヤ最大の遺跡ティカルを訪れ、次にホンデュラスのコパン遺跡を見学する。今回はマヤ遺跡中の最大規模ばかりを重点的に歩くのが特徴。すでに申込者が約一〇名に達しており、最終的には二〇名を超えるものと予想される。希望者は早目にワールドセブントラベル社に申し込まれたい。なお海外旅行は冬場と夏場とでは航空運賃に大差があり、八月が最高値になるから、同じようなコースを設定した冬場の費用と比較しても意味はない。したがって一月末か二月の冬場に実施すれば最安値で行けるのだが、これでは休暇が取りにくくて人が集まらないという難点がある。以上を了解されたい。

★ESPカード再版出来

日本GAPが頒布しているESPカードが品切れになっていたが、三月末に再販が出た。今度は紙質の上質化、製作原価上昇、部数僅少等のために、一セットあたりの頒価が一六〇〇円になった。しかしESPカードが超能力開発の最重要な武器となることは本号掲載記事「人間・イメージ・波動」の執筆者で超能力者の佐々木八郎氏その他の方々が実証ずみ。ぜひ備えられたい。代金あと払いで急送する。

★今年度日本GAP総会

日本GAP年間最大イベントである秋の総会は、今年も一〇月一〇日（二日連休初日）に昨年と同様、機械振興会館地下二階の大ホールで開催される予定。今回はプログラムを多彩化し、きわめて楽しい雰囲気の中に半日を過ごすように企画する。夜の夕食会も今度は同会館内の別室大会場において開催するので外部へ移動する必要はない。しかも立食パーティー形式で行ない、自由に歩き回りながら会員の親睦が図れるように設定する。今回は翌日都内観光を実施する計画もある。詳細予告は次号に掲載の予定。今から参加計画を立てて、多数参加されたい。

生命情報の交信。

(ライフ・フィールド)LFスーパーパイウォーター

生命情報そのものを持った水。

パイウォーターからLFスーパーパイウォーターへ。

水は「生きている」と考えることは、決して不思議ではありません。しかし、水が「情報を持つ」ということは俄かには理解しがたいことかも知れません。水は極めて簡単な構造の物質ですが、単純な化学式だけでは説明のつかない劇的な振るまいをおこします。LFスーパーパイウォーターは、水の物理的な振るまいの秘密に着目。生命体に有効な振るまいを計測し、生命の場に働きかける力を「微細な磁気情報」として転写した水といえるでしょう。LFセラミックが拓く水の新しい世界。ぜひ、ご自身でお確かめください。

使いたいときに使いたいだけ、安心と満足のやさしい水。

にいみ

家庭用浄活水器
「にいみ」本体価格
¥198,000
交換浄活水カートリッジ
¥58,000

これまでの約3倍の矯正能力で水自体に働きかけるLFセラミックを開発。簡単に蛇口に取り付けるだけで食材処理の段階から無駄なく、ふんだんに使える浄水能力を発揮します。二層のヤシ殻活性炭・アラゴナイト型天然炭酸カルシウム・LFセラミックが順次作用し、水道水を『生命の場ウォーター』=LFスーパーパイウォーターとしてよみがえらせる待望の通水式浄活水器です。

パイピュアロンゴールド
¥97,000
パイ化時間
6ℓ容器で20分

パイウォーターの基本は パイピュアロンゴールドから。

従来の単に水を濾過したり、分解して使用するという考え方の枠を超えた新しい水づくりの理論から出発したパイウォーター。すでに数多くの皆さまから反響が寄せられています。貯水した容器の中で直接水に作用しLFスーパーパイウォーターとして提供します。

パイウォーター 美肌温泉
ピュア
¥89,000
パイ化時間
家庭用浴槽200ℓで
1時間

入浴は身体のすみずみをリフレッシュする エネルギー補給の場。

ご家庭の浴槽に1時間程度浸しておくだけでネットに包まれたLFセラミックが穏やかに作用。肌にやさしい、なめらかなお湯をたっぷりお楽しみいただけます。「ピュア」で湯上がり後の"しっとり感"や"すべすべ感"をぜひ、味わってみてください。

＊各商品に使用されていますLFセラミックは約2年を目安として交換してください。

●お問い合わせ・お申し込み先/株パイピュアロンジャパン代理店

発売元 株式会社 パイピュアロンジャパン

梅澤ルミ TEL FAX 03-3332-4947

マイタケがエイズ症状を軽くする

食用キノコのマイタケに、エイズにかかって低下した体の免疫力を高めて症状を軽くする効果のあることがわかった。

エイズにかかると免疫の主役となるリンパ球（ヘルパーT細胞）が破壊されて免疫が働かなくなり、様々な感染を招く。神戸女子薬科大の難波宏彰教授らは米国の医師を通じてエイズ患者二八人にマイタケの粉末を毎日三グラムずつ二カ月間飲んでもらった。その結果一三人の患者で減っていたT細胞が最大二倍に増えた。減少が止まった人も一三人いた。また、ヘルペスや皮膚炎、リンパ節のはれなど、免疫力が弱って起きる症状もほとんどの患者で軽くなった。副作用は出ていない。

この粉末にはグルカンが約一パーセント含まれていた。グルカンはブドウ糖が多数つながった糖で、免疫力を高める働きをする。教授は「エイズを治すことはできないが、延命効果は期待できる」といっている。（3・5朝）

静電気でリニアモーター

神奈川科学アカデミーの樋口俊郎・東大工学部教授らが、これまで動力に不向きとされていた静電気を利用した静電リニアモーターを開発した。

構造は薄いプラスチックの絶縁フィルムに細い電極多数を平行につけ、二枚を向かい合わせてある。三相の交流電圧をかけて静電気を発生させ、向かい合った電極間のプラスとマイナスを順にずらすことで、二枚のフィルムがスライドする。

葉書大のフィルムを四〇層にして二キロボルトの電圧をかけたところ、約五〇〇グラムのものを持ち上げる実験に成功した。自重の約七〇倍の出力で、厚さ

▶五〇〇ミリリットルの水が入った容器を持ち上げた「強力静電リニアモーター」

〇・二ミリのモーターも作れるという。従来のモーターに比べて、軽くて薄くて発熱が少ない。（2・3朝）

耳に優しい補聴器登場

東北大医学部耳鼻咽喉科と同大電気通信研究所と測定メーカー「小野測器」の共同研究グループは国内初の完全デジタル補聴器を開発した。この補聴器は従来のアナログ補聴器が一律に音を大きくするのに対し、聞こえやすい音域と聞こえにくい音域を分けることにより、音が大きくならないように調整されている。

この新型補聴器は患者の耳の特性に合わせるオーダーメイドで縦一四センチ、横九センチ、厚さ二センチ。千分の八秒ごとに音を区切り、聞こえにくい音は聞こえやすく、聞こえやすい音はそのままに、拾音から調節、処理までがデジタル化されている。（12・8読）

天然治療薬、MRSAを殺菌

病院内感染の代表として社会問題を起こし、抗生物質の効かない厄介な菌・MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）に、母乳や牛乳に含まれる蛋白質由来の物質が、強い殺菌作用を示すことがわかった。

森永乳業食品総合研究所の富田守所長らが、初乳に多く含まれる蛋白質が分解されてできたラクトフェリシンのMRSAに対する効果を調べたところ、水溶液一リットル当たり一六ppm濃度のラクトフェリシンが、強力な薬剤耐性を持つMRSAの増殖を抑えた。副作用の強いバンコマイシンやミノマイシンと同様の効果であった。（12・2読）

世界最小のデジタル心電計

東北大抗酸菌病研究所とソニー、アイワ、フクダ電子は世界初の携帯型デジタル心電計を共同開発した。デジタル回路の導入により、微妙な波形の変形まで拾えるため、在宅で病院の大型装置並みの測定が可能になる。

従来のホルター心電計ではカセットテープにアナログで心電波形を記録するため、波形が歪み、心筋コウソクや狭心症の原因になる心臓血管の変化は病院の大きな装置を使わないと見つからなかった。

今回のデジタル心電計では、テープの記録に、多少ずれても補正のいらない安定した制御系を採用し、測定から記録まで完全にデジタル化した。集積技術により回線も小型化され、大きさは縦一〇センチ、横九センチ、厚さ三センチで病院の機器に比べて数十分の一のサイズ。切手サイズの超小型テープに記録し、記録時間は従来型の約八倍。（12・29読）

ホタルイカの発光

魚津水族館の稲村修氏は、無数の群れをなして暗闇の海に浮かび上がって青、緑色に輝くホタルイカの発光を撮影した。

ホタルイカの発光は発光物質と発光酵素の科学反応によって起こる。白い点が一つ一つの発光器で、皮膚、腕、目に散らばり、それぞれの構造と役割が異なる。（1・13読）

男女産み分け病院

男女の赤ちゃんを産み分ける専門病院がロンドンに開設された。

ロンドン・ジェンダー・クリニックでは、夫から採取した精子を特別な溶液に浸し、泳ぐ速さによって、女の赤ちゃんが生まれるX染色体を持つものと、男の赤ちゃんが生まれるY染色体を持つものとに分けた後、妻に人工受精する。成功率は七～八割で、費用は一二～三万円という。（1・27朝）

気の解明に通産省が挑戦

通産省は、人間が潜在的に備えているとされる〝気〟などの人間の未知能力の解明に取り組み始めた。

国内の研究機関では、植物同士の意思伝達の研究や、「以心伝心」「直感」「気の流れ」といった事象についての最先端の科学技術による解明が行なわれている

が、こうした動きに通産省も注目し、現在進んでいる研究や実験について情報を集めている。

同省は「潜在能力が働くメカニズムを明らかにすることによって、①言葉や文字などによらない革新的な情報伝達手段②難病も克服できる新たな医療技術なども開発できる」としている。（1・31日経）

一〇〇億光年の最果て銀河団

NASAはハッブル宇宙望遠鏡の観測によって、地球から七〇―一〇〇億光年離れた銀河団を発見した。

写真では上下の明るく輝く四〇億光年離れた銀河の間に、点在する銀河が小さく淡く写っているが、これらが最も遠い銀河団である。宇宙創成の初期にできた原始銀河団から出た光がようやく地球に達したもの。（12・2読）

付着土砂を電気で除去

ダンプカーや掘削機などに付着した土砂を簡単な電気分解の手法で取り除くシステムを大林組技術研究所の川地武室長らが開発した。

建設機械の土砂付着は運搬、作業の効率を低下させ、除去時の崩落など危険も伴う。現状で取り出される粘土は含水量が少ないほど機械に付着しやすい。

川地室長は、土砂の中に電気を通すと土砂中の水分が陰極に移動する「電気浸透現象」に着目し、土砂の付着しやすい部分を陰極に、土砂の中に陽極を置き、二〇ボルトの直流電源をつないだ。すると陰極に水が集まり、付着面の含水量が増し、粘着力が数倍低下した。また水の電気分解により水素ガスが発生して粘着を緩和していた。

ダンプカーの場合は、荷台全体を陰極にして、荷台のフレーム部にゴムで絶縁した鉄板を陽極として配置した。一五分で荷台付近に水素の泡が発生し、土砂を完全に除去することができた。

電源はダンプカーのバッテリーで充分であり、約三〇〇ワットの消費電力で済むという。（2・27読）

MRSAを抑制する布

クラレは病院内感染の主な原因であるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）の増殖を抑制する布地を発売した。

素材は抗菌効果の高い特殊なセラミックスをポリエステル繊維に練り込んだものである。この素材をMRSAが一ミリリットル当たり一〇万個入った液体に浸したところ、六時間後にはMRSAが七六パーセント減少し、一八時間後には九九パーセント減少した。

セラミックスに含まれる銀イオンと亜鉛イオンが、MRSAの酵素蛋白質の活性を阻害するために抗菌効果が出る。

この布地は医者や看護婦の白衣、カーテン、シーツ、枕カバー、パジャマなどの衣料に利用される。（2・27読）

地上最大の細菌

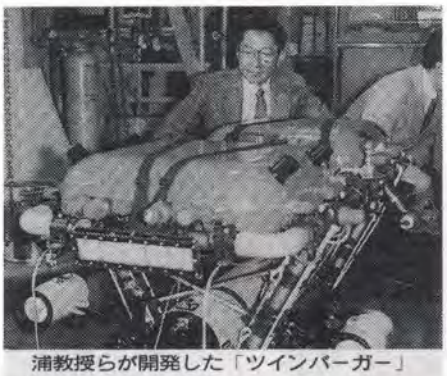
紅海やオーストラリア沖のニザダイの体内に棲む微生物が、地球上で最大の細菌であることが、米国インディアナ大と豪州ジェームズ・クック大のグループによって確認された。

エプロピシウム・フィッシェルソニという細菌で、大きさは幅〇・〇八ミリ、長さ〇・六ミリ以上。大腸菌の百万倍の体積を持つ。（3・18朝）

「知的」海中ロボット

人間が操縦しなくても自分で障害物を避けて進み、回転、静止も自由自在という「知的な」海中ロボットを東大生産技術研究所の浦環教授らが開発した。

このロボットはハンバーガーを二つ並べた形から「ツインバーガー」と呼ばれている。全長一・三メートル、重さ約一一〇キロ。水深五〇メートルまで潜航できる。前部には五枚の発光るパネルとテレビカメラが取り付けてあり、外部と光で交信できる。



浦教授らが開発した「ツインバーガー」

目的地を教えておくと、周囲との距離を測るセンサーで岩などの障害物を避けながら自力で到達できる。（3・5読）

花粉症、ヒノキも原因？

花粉症にはスギ花粉だけでなくヒノキ花粉も重要な役割を果たしている可能性が高くなってきた。

花粉アレルギーはスギなどの花粉に含まれる特殊なタンパク質に対して人体に抗体が作られるのが原因である。細胞表面において抗体とアレルギー源とが結びつき、気管支や鼻の粘膜でアレルギー症状を起こし、くしゃみや鼻水が出る。

ヒノキ花粉が花粉症のアレルギー源として学会で報告され始めてから数年がたっている。

現場の医師からは「スギ花粉の飛散量が減る四月の半ばを過ぎても、症状の改善しない患者がいる。ヒノキが原因かもしれない」という意見が多数寄せられている。

日本人の一〇パーセントが花粉症を経験しているが、そのうち八〇パーセントはヒノキ花粉のアレルギーを併発しているとの報告も出ている。（3・2読）

ドングリ流サバイバル

虫食いのドングリは動物に食べられるのを防ぎ、無傷のドングリよりも生き残る可能性が高いことを農水省森林総合研究所昆虫研究室の福山室長らが確認した。

ヒメネズミに虫食いと無傷のドングリを混ぜて与えたところ、虫食いを食べ残した割合が五〇パーセント近くあった。

一方、ミズナラのドングリは虫に食われても、先端部が三分の一以上残っていれば発芽できる。これを食べる虫はドングリの根元から食べるために約半数は肝心の先端部が生き残る。（2・6読）

人間・イメージ・波動

佐々木八郎

本誌一一九号に『私の超能力と異星人女性との出会い』と題する素晴らしい記事を書いた筆者が、去る二月一一日、日本GAP東京月例セミナーで行なった講演をここに収録。右の記事の続編になるもので有益な内容である。

面白くてたまらない本誌

二〇年近く前にアダムスキーを知るようになりましてから、アダムスキーの最も哲学的な面に私はのめり込んできました。UFOを見たいなと思って実際に見たり、今でも解明できないようないろいろな不思議な現象を体験しました。

実際にはいろいろな苦しい事があったりしましたけれども、自分の心の中というか意識の中というか、時間的にというか、つい最近の事のように思い出しますけれども、楽しい毎日を過ごしてきたんだなと思っています。

ユーコン（UFO contactee）誌はかなり読むのですが、とにかく送られて来ると夢中になって読むんです。その日のうちに五～六回読むという状態です。とにかく面白いから読むという感じです。会員の方の書かれた記事にも励まされています。またアダムスキーにもずいぶんお世話になっています。ただお世話になっているだけではなくて、いろんな事を教えてもらっているのだという気がします。

自分自身を確認する

私は小学校の教員ですので、宇宙哲学などはすごく役立っています。私が人を理解する力はテレパシーではないかと思います。

一一九号の記事で述べましたように、毎日のようにトランプやESPカードなどを用いる練習は全部やってきたと自分では思っているんですが、実際の現実の生活の中で、自分自身に必要な情報を知ろうとしてテレパシーの力が伸びてきたと思っています。

自分自身の感覚を訓練するようにしてゆかないとだめです。スプーン曲げとかコンパスの針を動かしたりするのは念力だと思いますが、自分にとって必要な情報を知ることがテレパシーで、それを自分に引き寄せる力、これが念力だと思います。

しかしスプーン曲げとかコンパスの針を動かしたりするのは、本来の使い方ではないと思いますね。自分の想念がぶっつかりあって、体の中のスパークに働きかけることができて、自分自身の確認ができる、そこに意味があると思います。

スパークというのはアダムスキーが言っておりますように、原子核にはスパーク（宇宙の生気）があるのですが、これが確認できるようになると、自分自身に対して自信が持てるようになるので、それが有益なことではないかと思いますね。

超能力というのは、困っている人などを見て助けられれば、超能力が有益な力になるのではないかと思います。

楽しい気分で練習をすること

超能力の開発練習はやさしい練習から始めるとよいのですが、大事なことは、失敗してもだめだと思わないことですね。始めからどんどん成功するのでしたら、練習する必要はありません。

私は調子のよいときの実験方法とか、そのときの様子とか、自分のフィーリングなどをよく覚えるようにしました。練習するときにそのようなフィーリングを思い出すと、うまくゆく回数がふえてゆきます。

それと、超能力の練習は楽しくやるのが一番よいですね。苦行というのは私には合いません。楽しく行ないたいと思う理由は、自分の能力を楽しく開発したい、これだけですね。楽しいから長続きするわけです。

練習がうまくいったときには自分で自分をほめるようにして、自分を勇気づけるようにします。

カードに絵を描いておいて思い出す

カードに絵を描くことですが、UFOを目撃したり異星人のオーラを見たりするときにも、このカードが役立ちます。UFOを見たいなと思ったときに、以前にUFOを見たときのフィーリングが思い出せないときには、カードに絵が描いてありますので、それを見ます。そうすると以前に目撃したときのフィーリングを思い出すことができるのです。そうするとまたUFOがやって来ます。

自分のフィーリングが他人に伝わりにくいなと感じられるときには、別なカードを見ます。どんなカードかといいますと、他人に自分の波動が広がってゆく光景をあらかじめ描いておきまして、それを見るのです。または、自分の波動が上空にパーッと広がってゆく光景を描いた絵を描いておいて、それを見ます。それをちょっと見ただけでも、自分の想念波動が他人に伝わりやすくなります。異星人にも伝わります。伝わった証拠としてUFOが出現するのですが、これは自分のテレパシー能力を試すのに良い練習になります。

争いの想念は絶対にいけない

言葉というものはイメージを呼び起こします。たとえば「家」と言ったり英語で「ハウス」と言った場合、みな言葉そのものは違いますが、いずれの場合も一軒の家のイメージが浮かびます。ですから、言葉で唱えることはイメージを呼び起こすのに重要です。したがって、絵とか言葉やイメージは波動が元になっているからだと思いますね。

以前に秋山眞人氏が言っておられましたが、戦いというものは個人の内部だけにするべきだということでしたが、他人と闘争する必要はないですね。争えば、良い能力は身につきません。またそんな争いの気持ちでいるときは良い波動が出てきません。

だいたい他人と比較しながら超能力の開発をするべきものではないと思うんです。他人と比べないで、自分の内部だけで開発してゆくべきものでしょうね。

火星人のファーコン氏が言った言葉ですが、「信念の力、希望の力、絶対にあきらめない力」というのがあります。これはいかなる場合にでもあてはまるものです。超能力を楽しんで、習慣的に身につけて、マイナスの想念を否定してプラスの希望を持つことが大切です（編注＝右の火星人の言葉は、新アダムスキー全集第一巻『第二惑星からの地球訪問者』二七九頁にある）。

◀筆者・佐々木八郎氏　撮影／久保田八郎

願望を実現させるイメージ法

話がもとにもどりますが、イメージというのは空想することですが、その空想を現実化するには、イメージを実際に現実に近づけることだと思います。近づければ近づけるほど、それが現実化してくるでしょう。

もう一つ方法があります。もう「実現したのだ！」という光景をイメージして心中で描きますと、現実化します。

そうしたイメージを描くときに、自分でそれを補助する手段として、先ほど申しましたように、絵を描いたり、実際に存在する実物または写真、または図、あるいはグラフィックなものなど、そうした資料が役に立ちます。

心中にイメージを描いても私の場合はすぐ消えます。それをなるべく消さないようにするには反復することですね。反復すれば続くのです。

しかし同じイメージであれば必ず飽きがきます。その場合は同一のイメージでも、上から見た光景、下から見た光景、横から見た光景というふうに、異なる角度からイメージを描けばよいのです。

あるいは実際には出来ないことですが――イメージの中では出来るのですが――色をつけたり消したりすることも出来ます。とにかく、いろいろ視点を変えれば飽きがこないで、イメージを描き続けることができるのです。

イメージを描くことは、自分がその気になれば、いつでも、どこでも実行できることです。それを続けていると、自分のイメージは必ず現実化してくるのです。

このイメージ法はどんなことにも応用できます。もちろん超能力開発とかUFO目撃、または自分の就職、または自分の対人関係、そうした物事を実現させるのにすべて応用できます。その他のあらゆる願望実現にも応用可能です。

UFOを目撃してから大変化

私が最初にUFOを目撃したのは昭和五五年のことで、今から一三年前です。それはただ見たということなのですけれども、自分自身の内面が大きく変化しまして、それからというものは、いろいろなことに興味というか関心が広がったのです。

一口では言えないのですが、その中で最も関心を持ったのは、自分自身がこの宇宙の中で生きていることが、すごく不思議であるという事です。自分というものにはっきりと関心を持つようになったのはなぜか、ということはよくわかりませんが、きっかけはUFOを目撃したことにあります。

見たときには覚えていて、その後は二～三年忘れていたのですが、私はUFOを外側から見ているのですから、普通ならば内部が見えるはずはないのですが、それが見えたのです。そのことをあとで思い出したということなのです。

いろいろ本などで調べてみますと、あとで私が思い出すことができるように、異星人からのテレパシーで異星船の内部の映像情報を与えられていたのではないかと思うんです。今それを絵に描いているところなのですが、あまりうまく描けません。

それ以来、言葉というよりもむしろ

映像的なものに興味を持ちだしました。たとえば映画を見ることとか、絵を描くこともちろんです。

UFOの絵だけではなくて、いろんな形の雲を見たのも描きました。渦巻、Hという文字の形をした雲、その他いろいろ不思議な雲を見ています。

そういうふうに、見た現象をいつの間にか絵にしているわけです。

あとは、自分の過去世を思い出したときの絵とか、夢の中で同じ光景が何度も出てくる夢があるんですが、それを思い出して描いたりします。

あちこちで見かける異星人

次に、異星人と接触した件についてお話をしましょう。これは私の方からコンタクトをとったとか、向こうから計画的にコンタクトしたというわけではなかったと思います。たまたま私が見つけたということでして、その人のオーラを見たり、テレパシーで応答したりすることもありました。

テレパシーでなくても、視線を向けるとか、自分の中に伝えたいことのイメージを浮かべたりしても、意志は通じるようです。

最初にUFOを見てから一カ月もたたないうちに、男の人が私のまわりに出てきたんです。見たときにはわからなかったんですが、一〇年以上たってから、私のイメージの中で、その男の人のまわりに青いオーラが見えたんです。ですから、あの人もたぶん異星人ではないかと思っています。

私の自宅の近くに喫茶店があります。一一九号の記事に出てくる喫茶店とは違います。そこに一人の女性が勤めていましたが、見たとたんに気がついたんです。「ああ、これは異星人だ」と。そうしましたら、その人は二〜三日で仕事をやめて、いなくなりましたね。

私は新小岩に住んでいるのですが、東の方に小岩という町がありまして、そこにも駅（総武線小岩駅）からそう離れていないところに一軒の喫茶店があります。

ある日そこへコーヒーを飲みに入ったところ、そこにも女性の異星人がいました。私はそこへ二〜三回行きまして、そのたびに見かけましたけれども、そのうち、いなくなりました。

これはみな人体から発するオーラでわかるのです。地球人のオーラとは全然違います。

以前は都心の方に住んでいて、都心の学校に勤めていたんです。八重洲（東京駅八重洲口）に地下街がありますが、そこでも異星人の男の人が歩いていました。その人も他の人とはオーラが全然違っていて、私の視線がその人の方にパッと引き付けられたんです。でも何も話しかけませんでした。

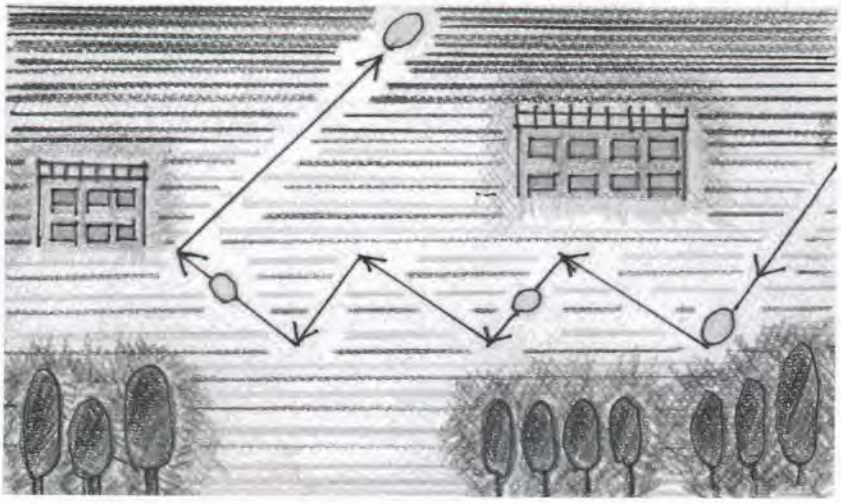
新宿へ日曜日などに行きますと、沢山の人が出ていますが、そこでも何回か異星人を見かけています。

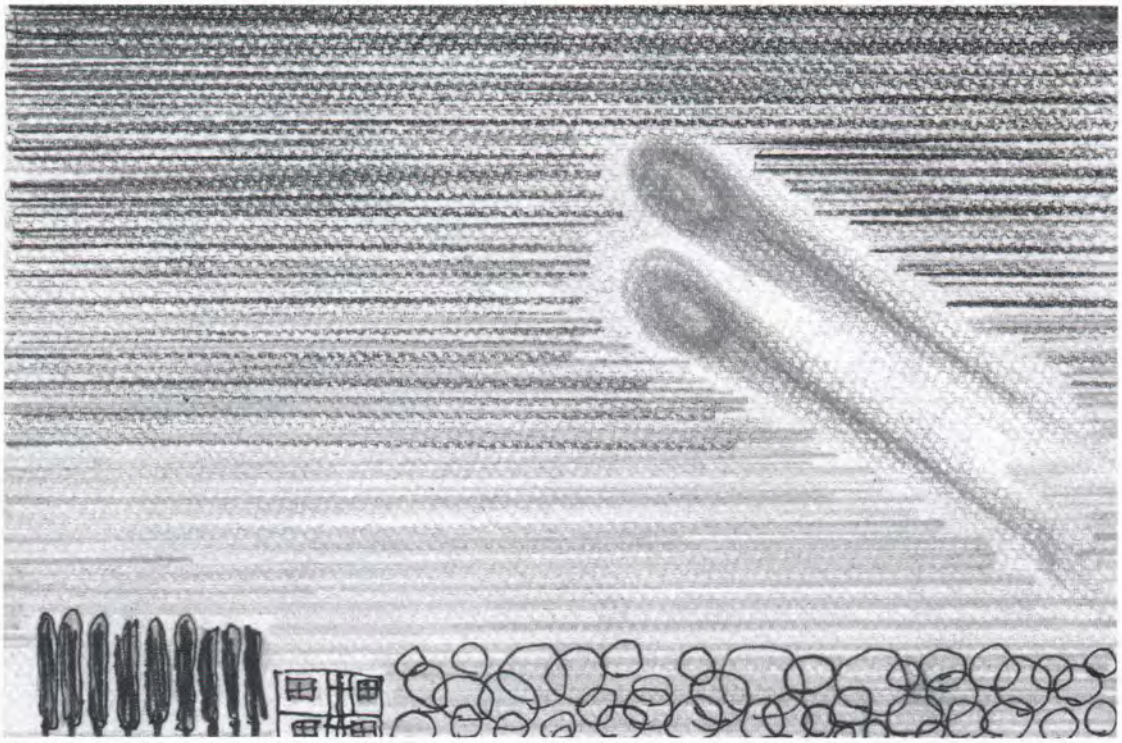
あるとき京都へ旅行に行ったことがあります。昭和五八年のことです。加茂川の縁（ふち）で、橋の向こうから女の人が歩いて来るんです。ずーっと近づいて来て通りすぎたんですが、こちらを何度も振り返って見るんです。

おかしいなあと思いながら、私が北の方を向いて写真を撮ったら、黒いUFOらしき物が写っていたんです。この写真はユーコン誌一〇一号に出ています。そういうこともありました。

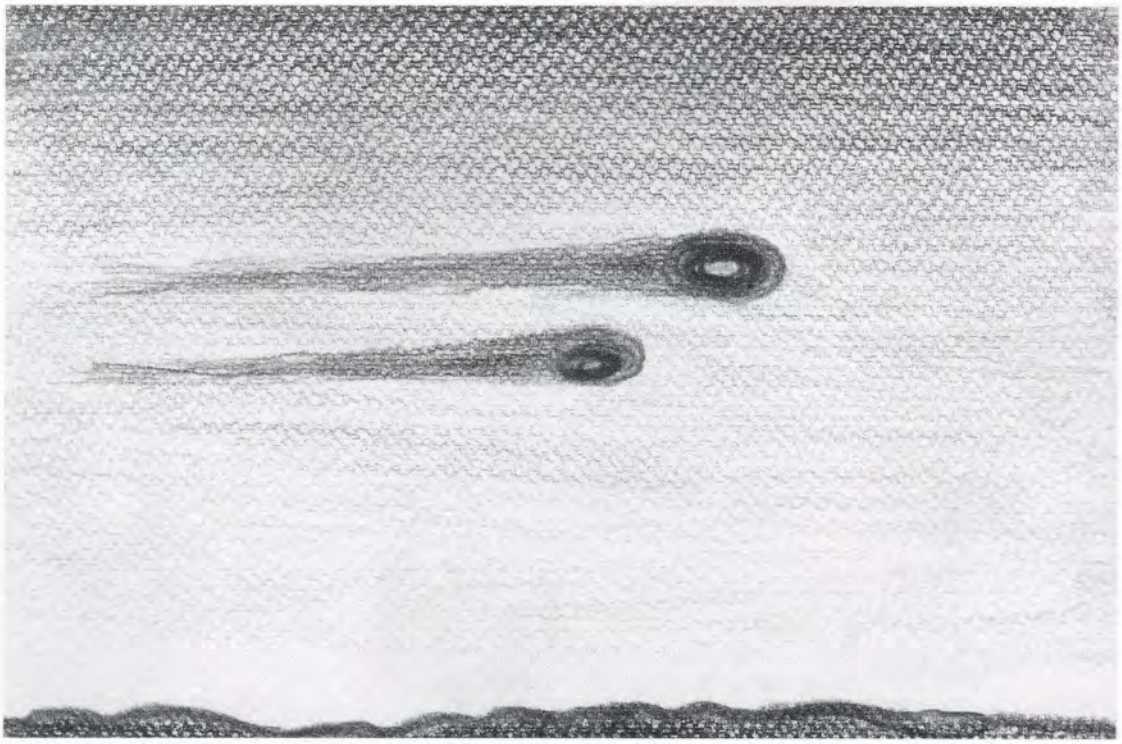
次に、これまで目撃した現象を私が絵に描いたものがありますので、それをお目にかけましょう。原画はすべてカラーです。

▼1985年、自宅（アパート）前の路上から見た超小型UFO。直径は30〜60センチメートル。灰色っぽい目立たない白色。テレパシーを送るとジグザグに飛び、向きを変えた。最初、白っぽい物が飛んでいるなとフト気づいたら、それはUFOだった。



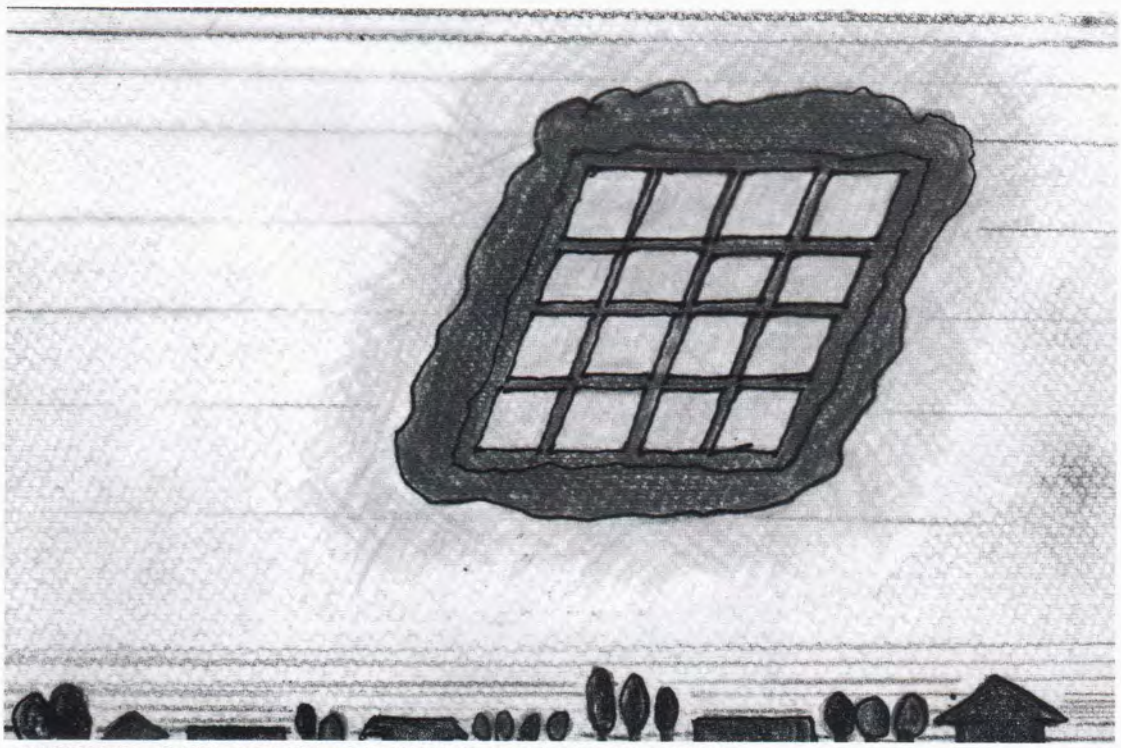


▲1980年７月のある日の夜、９時55分に最初に目撃したＵＦＯ。自宅の真上で２機のＵＦＯが追いかけっこをしていた。色はオレンジで尾を引いていた。リング状の内部が見えた。



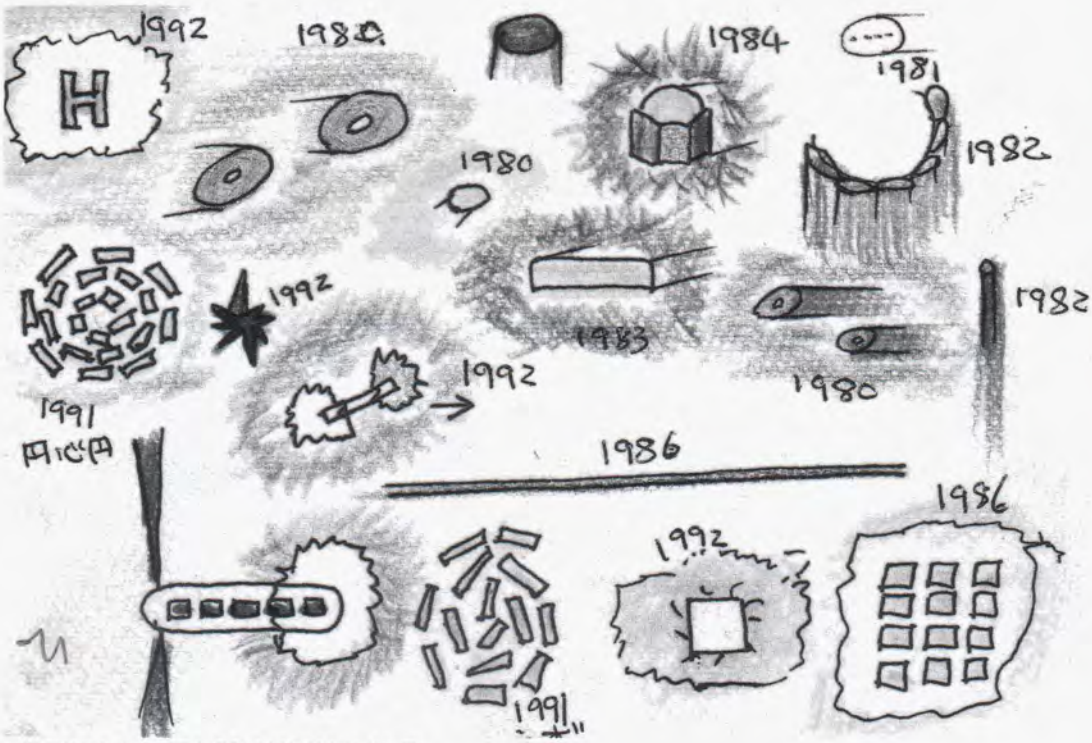
▲1980年７月のある日の夜、上段の最初のＵＦＯを見たあと10時50分頃、今度は北東から南西へ２機が出現、またも追いかけっこをしていた。オレンジ色に輝いていたが、まぶしくはない。リング状を呈していた。

▲1984年９月、都内江戸川区の松江小学校の校庭で見た５色の光を放つＵＦＯ。距離は100〜300メートル。橙、黄、緑、赤、青の色を２秒間くらいずつ放射。午後４時30分ないし５時頃。７〜８人でテニスをしており、子供も３〜４人いたが、全員目撃した。



▲1986年11月頃。都内錦糸町の駅近くで午後４時30分頃、西の空に出現した不思議な雲。

▲1992年９月、江東区の水泳記録大会のときに、北の空に出現したスペース・ピープルからのサイン雲。文字の部分はすごく鮮明だった。２分くらいで崩れていった。

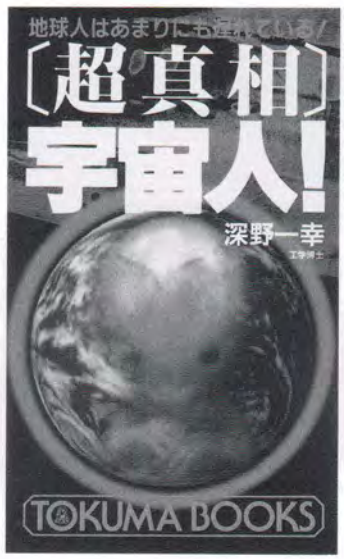


▲筆者がこれまでに見た各種のＵＦＯとサイン雲。

●秋田市郊外のUFO

撮影／松岡圭一

1992年9月13日、秋田市で日本GAP秋田支部大会が開催された翌日、郊外の仁別（にべつ）国民の森でキリタンポ・パーティーを大勢が楽しんでいた最中、突然UFOが出現したのを加藤純一氏（東京）が発見、松岡圭一氏（秋田市）が見事にカメラに収めた。秋山眞人氏の鑑定によれば本物のUFOであるという。白い矢印が物体を示す。



超真相＊宇宙人！

工学博士 深野一幸著／新書版252頁／¥800　送料¥260

徳間書店／〒105－55　東京都港区4-10-1

TEL03(3433)6231　振替・東京4-44392

多年UFO問題を調査研究してきた気鋭の著者が、厖大な資料を駆使して徹底的に検証したUFO問題専門書の白眉。ジョージ・アダムスキーこそ真実のコンタクティーであったと主張する著者は、アダムスキーの体験を裏付ける各方面のコンタクティー、UFO研究家、宇宙飛行士その他の情報を詳説して傍証固めをしてゆく。迫力に満ちた本書はUFOと地球外文明研究者の必読の書。昨年11月下旬より全国書店で発売中。品切れの節は書店に取寄せを頼むか出版社へ直接注文されたい。（日本GAPでは扱いません）

日本GAP 東京本部月例セミナー

●毎月第1日曜日午後1時より5時まで。
●会場は東京タワー前の機械振興会館。

日本ＧＡＰの東京本部と全国17支部は毎月月例セミナーを開催してＵＦＯ問題や宇宙哲学の研鑽に励んでいる。東京本部の場合は、今を去る23年前の1969年（昭和44年）の夏、久保田会長が東京へ進出して９月より池袋の区民センターで開催したのが最初である。当初は出席者が10名前後であったが、しだいに増加したので数年後に上野公園の東京文化会館を牙城にして、ここで実に20年近く毎月開催し続けた。しかし同館は事情によって毎月一定日に会場を確保するのが困難になったため、一昨年より東京タワー前の機械振興会館に会場を移し、ここをホームグラウンドとして地下３階の第２研修室で毎月第１日曜日に開催している。したがって23年間を通算すれば、なんと270回余続けたことになる。この間会長は海外旅行と２度の病気のために３回欠席しただけという。多年会費を無料にしていたが、諸経費がかさむために現在は有料となっている。今は毎月平均70名前後の出席者があるが、多いときは80名を超える。

セミナーのプログラムとして、毎回冒頭に会員による講演が行なわれる。これはＵＦＯ目撃や超能力開発体験等が報告される有益な内容である。続いてアダムスキーの宇宙哲学のうち、『生命の科学』の解説講義が会長によって毎回約１時間半行なわれる。そのあと超能力開発練習、特にテレパシー開発練習を全員で実習し、最後に質疑応答が行なわれて５時に閉会となる。会長の講義中にはたまにスライドが映写されることもあり、珍しい写真を映しながら説明する。出席者は多彩な階層にわたるが、みな非常に真剣であり、静粛そのもので、宇宙的な高次元な波動がみなぎっているのが特徴。初めて来る人はまずこの雰囲気に驚かされる。

閉会後は東京タワー１階の大食堂で希望者のみによる夕食会を開催。そのあと場所を変えて２次会を開催することもあるが、会場はおおむね銀座の安い店になることが多い。ここではビールなどを飲みながら談論風発、大いに愉快にすごす。こうして最寄りの駅で再開を約しながら手を振って別れる、というコースである。同志達の親睦の場としてもセミナーは重要な役割を果たしており、今後も末長く続けるので、首都圏の会員の方は多数出席されたい。会員でなくても参加できる。会費その他については本誌最後の頁の月例セミナー案内欄を参照されたい。下の写真は今年１月の東京セミナー記念写真。全国各支部も独自に月例セミナーを開催しているので、地方在住の方は案内欄をご覧頂きたい。

●日本ＧＡＰ東京本部月例セミナー（1993年１月10日）。前列左より本部役員・加藤純一、田中淳、松村芳之、遠藤昭則、篠芳史、久保田八郎会長、越崎裕子、小宮明子、岡部智成、堀江健一、木村賢一。（役員３名欠席）

Wondrous Small Disks and the Eternal Activity of the Universe
by George Adamski / Translated by Hachiro Kubbota
© Alice Pomeroy's "For an Example"

驚異の超小型円盤と宇宙の永遠の活動

ジョージアダムスキー／久保田八郎訳〈アダムスキー講演集　連載2〉

爆撃機内に入り込んだ超小型円盤

宇宙では形あるものを生み出す法則と同じ法則が、形あるものを霧散させることもあります。たとえば最近私は、先の朝鮮戦争のさなかにイギリスの爆撃機の乗組員たちが、彼らの飛行機の周りに飛来した六機の円盤を目撃した事件に関する情報を入手しました。それは、彼らが爆撃を終えて帰還する途中で発生した事件でした。

その事件を他の目撃事件よりも不思議なものにしているのは、そのとき、直径二五～五〇センチメートルほどの超小型円盤群がその爆撃機の内部をふわふわと飛びまわったという事実です。それらの小型円盤のいくつかは非常に平たい形状をしていたということで、また、いくつかには中央部に突起物があったとも報告されています。

それらは彼らの頭上を飛びまわりました。パイロットや武装科などの爆撃兵その他の兵士たちの頭すれすれを、ふわふわと飛びまわったのです。その爆撃機の指揮官が、円盤報告書のはじめの部分で明確に述べていることです。

そのとき爆撃機の乗組員たちは、それらの小型円盤は彼らを写真に撮っている、あるいは、彼らの心を読みとっているにちがいないと考えたそうです。そして、やがてそれらの小型円盤は、爆撃機がまだ飛行中に、その機体の壁を突き抜けて外に出て、外で待機していた円盤群の中に入って行ったようだと彼らは言っています。

それはまさに驚くべき状況でした。とても考えられないことでした。そうではありませんか？　そうなのです。私たちの感覚からすれば、まさに到底考えられないことです。でも異星人たちはそんなことを実際にやってしまうのです。

なぜ機体を貫通したのか

では、その状況を私たちが理解できる範囲で少し考えてみましょう。異星人たちは、つまり私たちの飛行機上で重力を克服したのです。小型円盤群は飛行機の壁を突き抜けてその内部に進入しました。窓やドアから入ったのではなく壁を貫通したのです。

それらは機内での必要な仕事を終えたあとでそこを離れました。やはり壁を貫通したのです。またもや重力が支配されたわけです。

ここでも重力が関係しています。なぜならば、それらの小型円盤は、爆撃機によって造り出されていた重力が、円盤の侵入と脱出を全く妨害しなかったからです。

異星人が送り込んできた超小型円盤は物理的な形を持った固い円盤です。でも、たとえそれがあなたがたの頭にぶつかったとしても、あなたがたはおそらく、何かとても軽いものが頭に触れたように感じるだけです。そうですね、綿のようなものが頭に乗ったといった感じでしょうか。それはなぜかというと、その円盤が、ある高周波の波動に包まれているためです。そのために、それはいかなる個体をも、高密度のいかなる固い物質をも通過できるのです。彼らの小型円盤群はそのようにして爆撃機内に入りました。そしてまた同じようにして出て行ったのです。

そのあとそれらは外で待機していた宇宙船群の中に戻り、周囲を取り囲んでいた高周波の周波数を下げられました。その結果それらは、もとのただの円盤に、固い普通の円盤に戻ったというわけです。

言いかえるなら、それらは特定のパワーを利用しているとき、いかなる場所にも閉じ込められることがないということになります。そしてもちろん、いかなる場所への侵入も妨げられません。

ラジオを例にあげてみましょう。あなたがたは、ラジオの電波を自分の部屋に入ってこないようにすることはできません。テレビの電波も同様です。

なぜなのでしょう？　それは、あらゆるものを突き抜けて、あなた方の部屋の中に入って来ます。そうでしょう。

あなたがたがすべての窓やドアを閉めても、それは平気で侵入して来るのです。

異星人の円盤の場合も、その周波数を自由に変えられるということを除いて、理屈はこれと全く同じなのです。彼らの小型円盤は、侵入したのちに周波数を下げて必要な情報を収集することができます。そして、それが済んだらまた周波数を上げて壁を突き抜け、外に出て、外で待機している大型円盤の中に戻り、周波数を下げて、情報を記録したただの円盤に戻るというわけです。

とても簡単なことなのです。周波数を上げ下げする――ただそれだけのことなのです。それによって彼らは私たちの飛行機の持つ重力を圧倒し、あるいは克服したというわけです。ちなみに、いかなる飛行機も飛行中にそれ自身の重力を発生しています。そのことを私たちはすでによく知っています。

◀パロマー・ガーデンズに立つアダムスキー。一九五〇年代なかばの撮影。

吸引と反発の作用の応用

鉄道の踏切を例にあげてみましょう。そこにも二通りの作用が存在しています。あらゆるものがこのパターンに従っていると言えます。

汽車が停止しているとき、あなた方はその車体に手を触れることができます。それでも何も起こりません。しかしそれがたとえば時速五〇キロメートルかそれ以上で走っているとき、もしあなたがたが、その車体から三〇センチメートル以内にいたならば、汽車の動きがそれ自身のフォース・フィールドを作り出し、その中心に向かってあなたを引き寄せることになります。そして、もしあなたがその力に身を任せたならば、それはあなたをどんどん引き寄せて車輪の下敷きにしてしまうことでしょう。

でも、そこであなたは、おそらく一歩か二歩、そこから後退するでしょう。すると今度はその同じ力が反対方向に働くことになるのです。その力は今度はあなたを引き寄せるのではなく、外に向かって押しやる力として働くわけです。先程と同じ力がです。またもや二通りの作用です。引き寄せようとする力と、押しやろうとする力、つまり吸引と反発の作用がほぼ同時に発生するのです。

一方であなたは汽車の重力にとらえられて、その方向に引き寄せられます。しかし、そこから一歩か二歩後退すると、今度は押しやろうとする力の対象物となるわけです。それはあなたを引きつけるのではなく、今度は外に押しやろうとします。この法則が異星人の円盤には応用されているのです。彼らは、それをどのようにして利用するかを知っています。彼らはそれをしっかりと学びました。

以上のような法則を活用することで、彼らは先のような芸当を可能としました。彼らは、その用い方を知っているのです。彼らはそれをしっかりと学びました。彼らは高周波ビームとともに超小型円盤群を送り込み、つづいてそのビームの周波数を少し下げるとともに、超小型円盤群内部のあらゆる装置を始動させました。

それらの装置が作動しているときには微かな振動音が聞こえるかもしれません。そしてそれが、思うに、例の爆撃機の乗組員たちが心を読まれている、あるいは写真を撮られていると感じた理由なのではないでしょうか。おそらく彼らの耳には、そのとき振動音が聞こえていたのではないかと思います。

でも彼らは、超小型円盤群が、飛行中の爆撃機に、窓からでもドアーからでも爆弾投下口からでもなく、機体の壁を突き抜けながら入って来て、また同じようにして出て行ったことに関しては、いかなる想像もめぐらすことは

できませんでした。

さて、必要な仕事を終えた超小型円盤群をそこから引き揚げさせる際、彼らはまた高周波ビームの周波数を上げました。そして、ちょうどロープを引っ張るように、そのビームを徐々に短縮することで、それらに爆撃機の壁を貫通させ、やがては自分たちの宇宙船の内部に引き入れました。そして最後に周波数を下げて、それらをただの円盤に戻したというわけです。そうなのです。彼らにはそんなことができるのです！　彼らがそうするのを私は実際に目撃したことがあります。

そうです。異星人はいろんなことができるのです。彼らは自分たちの宇宙船を見えなくすることもできます。ただし、それは最近よく言われている物質化あるいは非物質化といった類のものとは全く無関係です。それは単なる周波数つまり振動数の上げ下げの問題なのです。ゆっくり回っているときにははっきりと見える扇風機の羽根が、高速で回転し始めると全く見えなくなるのと理屈は全く同じです。それはなおもそこに存在しています。でも高速で回転し始めるや、私たちの目はそれを見ることができなくなるのです。

それを物質化または非物質化などとは誰も呼ばないでしょう。それは、物質化・非物質化の法則などではなく、別の確固たる法則に従っているものなのです。しかもそれは決して不思議なことでもありません。それはすべての惑星や宇宙全体が従っているのと同じ純粋なる宇宙の法則に従っているのです。

大自然から学びとった異星人

異星人たちはその法則を自然を研究することで学びました。自然に無関心な人間のアイディアを研究することで学んだのでは決してないのです。理論は必ずしも悪いものではありません。それは、ときおりあなたがたをどこかに連れて行ってくれるでしょう。

しかしながら大自然との関係を持たない個人的なアイデアを基盤とした理論は、少なくともこの分野においては何の価値もありません。なぜならば、今あなたがたは大自然の法則群と関係しているからです。

宇宙空間を飛行するとき、私たちはイヤでも大自然と関係しなければなりません。そうしたいのならば私たちは大自然を学ばねばなりません。たとえ最初はそれがいかにバカげたものに感じられてもです。あるいは、たとえそれがこれまでの科学が立証してきた多くの古い理論といかに矛盾するものであってもです。

もし私たちが、固定された状況、つまり、いかなる変化もなく、もはや新しく何事も起こらない状況に至ってしまったとしたら、そのとき私たちは極めて悲しい事態を迎えることになります。この世界ばかりでなく、他のいかなる世界においてもです。でも、そんなことは決してあり得ません！　そんな状況は絶対にあり得ないのです！

万華鏡のたとえ

この世界を、いや、この宇宙を、巨大な万華鏡だと考えてみて下さい。この宇宙が巨大な万華鏡であるというイメージを可能な限り強く描いて下さい。その中には人間を生かしている二つの重要な原理が入っています。

そこで、より明確な理解を得るために、それらの原理に形を与えてみましょう。そうですね、丸と三角ということにしましょうか。

つづいて、その巨大な円筒のまわりに、小さな円筒をいくつも取り付けます。それらの中にも全く同じものが入っています。やはり二つの原理、丸と三角です。

では、つづいてその巨大な円筒を、まわりに取り付けられている小さな円筒群とともに回してみて下さい。止めて下さい。また回して下さい。止めて下さい。

どうでしょう？　巨大な万華鏡の中で同じ模様を見ることができましたか？　あるいは、まわりに取り付けられている五〇個なり一〇〇個なりの小さな万華鏡が作り出した多くの模様の中に、それと一致したものがありましたか？

それらのすべての内部には、同じ模様を作り出し得る全く同じ物が入っています。でもどれ一つとして同じ模様は作り出さなかったはずです。そんなことは絶対にあり得ないのです！　この仕組みを理解している人であれば、「あ、これは同じだ」などとは決して言わないでしょう。そんなことはあり得ないのですから！

いくら回転させても結果は同じです。異なった模様が次々と出現してきます。そしてそこに永遠という概念のヒントが隠されています。新しい模様の出現がとどまるところを知らないのです。そして、それらの円筒内には二つのものしか入っていないということに着目して下さい。巨大な円筒内にも、それを取り囲む小さな円筒内にも、丸と三角しか入っていないのです。たったの二つです。その二つが、回転のたびに、次々と新しい模様を作り出して行くのです。同じ模様は二度と出現しません。もちろん、ときおり似たような模様は出現します。でも、完璧に同じものは決して出現しません。

さて、その事実が提供している概念とは何でしょうか？　そうです。〝三位一体〟の法則です。わかりますね？

そしてそれこそが、私たちが重力を克服するために必要なもう一つの法則なのです。最初はいかにバカげたもの

に思えても、私たちはこの法則を充分に研究しなくてはなりません。

「一プラス一は三」の法則

私たちの数学は、〝一プラス一は二〟〝二プラス二は四〟という計算が正しいものであるという前提に立って、はじめて機能するものです。アインシュタインの研究も、おそらくそのことに気付くことによって始まったのではないでしょうか。

でも自然界においてはその計算は成り立ちません。自然界では〝一プラス一は三〟なのです。私たちが二つの力を結び付けると必ず、そこにはもう一つ新しいものが出現します。それが大自然の法則なのです。その法則のおかげがなかったならば、あなたがたと私が今日こんなふうに話をしたり聞いたりする機会を持つことも到底不可能だったはずです。なぜならば、その法則が機能しなかったならば、あなたがたのご両親はあなたがたを絶対に生み出すことはできなかったからです。あなたがたのご両親が結び付き、その結果として、もう一つの新しいもの、つまり、あなたがたが出現したのです。

電気の光さえも全く同じ方法で発生するのです！　あらゆるものが同じようにして出現するのです。〝一プラス一は三〟になるという謎を解く鍵がここにあります。二つの原理が結び付くと必ず別のもう一つの物、あるいはもう一つのパターンが出現するのです。つづいてその新しく出現したものは、それ自身とよく似たものを探し出そうとします。そしてやがて探し出します。それは、同じような分子構造、原子構造を持つものの近くに行くと、それを自分自身に引き寄せます。そして、充分な近さに引き寄せるや、それと結合し、さらにもう一つのものを出現させます。それが延々とくり返されるのです。そしてそうやって、この宇宙は動きつづけているのです。常に活動をつづけているのです。それは決して活動をやめません。なぜならば、この法則は永遠に活動の状況にあるからです。

そうですね、次のように言うともっとわかりやすいかもしれません。おっと誤解しないでください。私は何もあなたがたが理解できていないと言っているのではありません。ただ、あなたがたすべての人に、より良い理解を得て欲しいと考えているだけなのです。いいでしょうか？　では行きます。

この地球上に最初の男と最初の女がいました。彼らは遠く離れたところにいました。この地球上に住む人間は彼らのみでした。しかしやがて彼らはお互いを発見し、引き合い、一つの単位になりました。そしてもう一つの単位である肉体、つまり子供を出現させました。つづいて、その単位である子供は自分と良く似た別の単位を探そうとし始めました。そしてやがてそれと出会い、結合し、さらにもう一つの単位を出現させました。そしてさらに、その単位がまた別の単位を探し出して同じ活動をくり返しました。そして現在までにこの地球上をおよそ二五億もの人間が歩くことになったわけです。（訳注＝現在は五〇億を越える）〝一プラス一イコール三〟という法則が延々とくり返されていることの、わかりやすい一例です。

九と七という不思議な数字

異星人たちの宇宙船の構造に、九と七という数字が深く関わっているということが指摘されてきました。もし彼らが〝一プラス一は三〟という公式を用いているならば――彼らがそうしていることを私はよく知っていますが――それは当然のことなのです。一プラス一は三となり、それが一つの単位を形成します。いわゆる〝三位一体〟です。父と子と精霊ですね。古代の人々は、地の三位一体と天の三位一体が存在するとも語りました。

まあ、それはともかく、二つの三位一体が結合すると、三プラス三は六の他に、もう一つのものが出現することになり、例の不思議な七という数字が浮かび上がることになります。さらに、四つの三つ組の単位が結合すると、一二に一つが加わり、一三という数字が登場することになります。

とまあ、こんな線にそって思いをめぐらしてゆけば、彼らの宇宙船の構造に関係している不思議な数字の謎を解くことは決して難しいことではないでしょう。

たとえば、もし、あの化学者パラケルススの業績をちょっと真剣に分析したならば、彼がこの法則以外のいかなる法則をも応用していないことに、すぐに気付くはずです。

（訳注＝パラケルススは一六世紀前半のスイスの医者で化学者。本名はホーエンハイム。『パラミルム』と題する著書の中で医学的現象を化学的見地から説いて名高いが、むしろ錬金術師としてよく知られている）

彼はそれを、化学の中に応用したのです。それは、金がなぜそんなに重いのかを解く鍵でもあります。さらには、金と鉛はなぜ同じほどに重いのだろうか、それらは重量の点において、なぜそんなに似ているのだろうか、といった疑問を解く鍵ともなります。でも、一般に人々は「そんなこと知ったことじゃないね。鉛というものがあって、金というものがある。そしてどちらもただ重いというだけじゃないか」と言うのみです。

もちろん、異なった金属は分子構造が異なっています。原子群が異なった配列になっているわけです。しかし、もしその配列を変えることができたな

らば、それによってある金属を別な金属に変えることも可能となります。パラケルススはそれに取り組んだのです。そして彼はその分野においてかなりの成功を収めました。

あらゆるものがこの法則に従っています。あらゆる分野のあらゆるものがです。だから私はさまざまな分野の科学者たちが協力する必要があるということを常に言いつづけているのです。

ところで、これまで天文学は私たちに素晴らしいことを教えてきました。しかし、それは今に至るまで常に理論のままでありつづけてきました。なぜならば、宇宙空間に飛び出して行って自分自身で直接他の天体群の実態を調査したことのある天文学者は、未だかつて一人もいないからです。地球からそれを行なうには、私たちの観測機器はあまりにも不充分だと言わざるを得ません。ただ、彼らはそうした限られた装置しかないわりには、とてもよくやってきたと思います。その意味では、充分に賞賛されてしかるべきです。

ただし、ときおり〝権威〟という実にくだらないものが私たちを真実から遠ざけてしまうことがあります。

かなり前のことですが、私がアリス・ウェルズ夫人のレストランでくつろいでいたときのことです。

（訳注＝アリス・ウェルズ女史のレストランについては、本号記事『パロマー山にUFO出現』を参照）

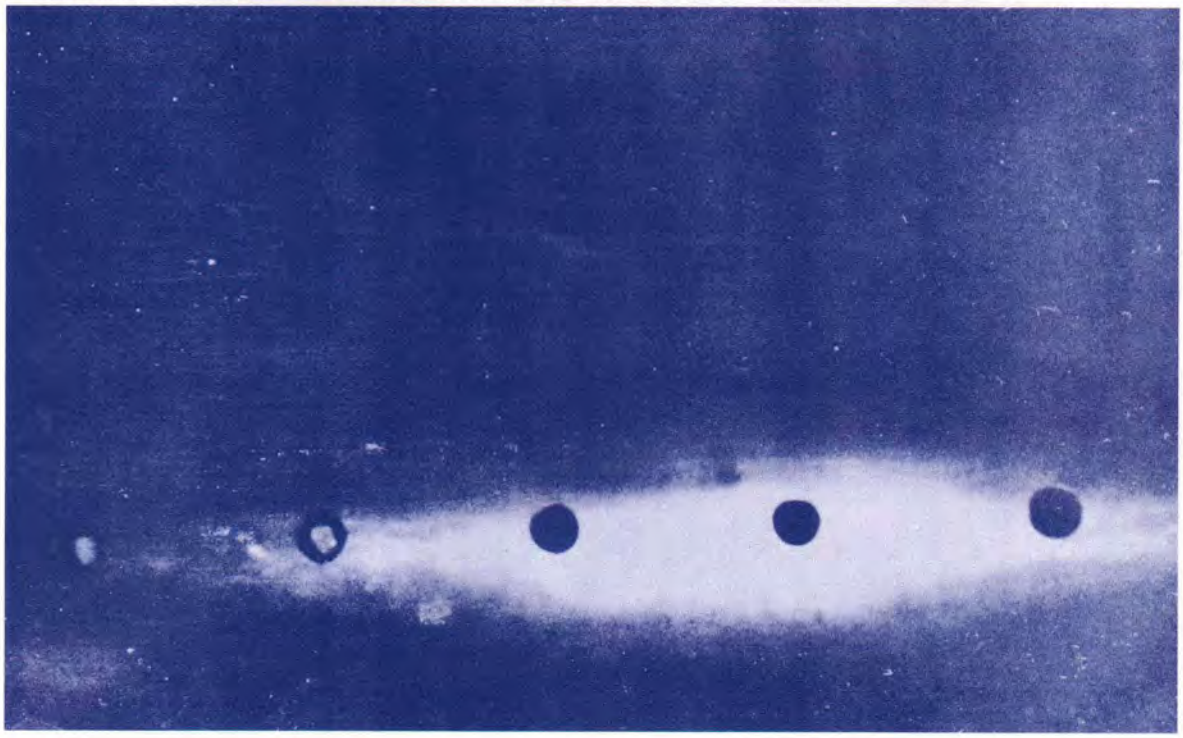
ちなみに、そのレストランが私のものだったということがよく言われていますが、それが私の所有物であったことは一度もありません。確かに妻と私はそのレストランと同じ敷地内に住んでいました。そしてそこに望遠鏡を設置していました。ただそれだけです。レストランが私のものであったことは一度もないのです。

でも、そのレストランで――軽食レストランですが――私は多くの人々と会いました。それはとても美しいレストランでした。そこを訪れた人は誰もがそう感じたはずです。それは今でもまだ同じ場所にあります。ただし、もう営業はしていません。

それはともかくとして、ある日、天文学者の一団がそのレストランに立ち寄ったことがありました。全部で四人でした。そのうちの何人かとは顔なじみだったのですが、彼らは当時、夜空の撮影をしていました。地理協会の依頼を受けて星図を作成していたのです。すでにその作業は完了したと聞いていますが、そのとき私は、彼らにこんな質問をしたものです。

「ところで皆さん、たとえばここにある男が現れて一枚の星図を広げたとします。しかもそれは、あなたがたが今作成しつつあるものと全く同じものだったとします。もしそんな星図を見せられたとしたら、あなたがたは、いったいどんな感想をいだくでしょう

●大母船の窓から顔を出した金星人とアダムスキー。写真が不明瞭なために左右のいずれがアダムスキーか識別できない。接近した円盤から異星人パイロットが、アダムスキーが持参したポラロイドカメラで撮った写真。円盤から放射したサーチライトの輝度を落としているために船体の一部しか照らされていない。本誌120号43頁に掲載した写真の続きになるもの。



●パロマー天文台

アダムスキーが住んでいたパロマー山腹の台地から車で約二〇分の頂上にそびえる白亜の大ドーム。高さ六〇メートル。

撮影／久保田八郎

か？」

彼らは言いました。

「凄い、天才だ、と思うでしょうね。彼が私たちほどの観測装置を用いていないことは明らかですからね」

そこで私は言いました。

「なるほど、そうおっしゃると思いました。でも、そこであなたがたは、おそらくその男に『どこで教育を受けたのか』とたずねるのではありませんか？」

彼らは言いました。

「ええ、もちろん」

私はつづけました。

「では、そこでその男が『教育など全く受けていない』と答えたとしたらどうでしょうか？　天文学を学んだこともなければ、自分の名前さえも書けない、と答えたとしたら、次にあなたがはどうしますか？」

彼らの一人が答えました。

「私たちは、自分たちが精神異常者とかかわって時間を浪費していたことに気付くでしょう。そして、もし彼がそれを置いていったなら躊躇なくゴミ箱に投げ捨てます。そんなものとかかわっていても時間の無駄ですからね」

そこで私は言いました。

「予想通りの答えです、皆さん。あなたがたは今、自分たちの今の科学が、自分たちが何の価値もないと考えているものを基盤にして成り立っているのだということを、自らの言葉によって証明したことになります」

彼らの顔色が変わりました。

そこでまた私はたずねました。

「現代の天文学の基礎となっているものはゾーディアックではないのでしょうか？　占星術に用いられているゾーディアックではなく、星図としてのゾーディアックです。

（訳注＝ゾーディアックとは黄道帯または獣帯。太陽の軌道である黄道を中心に南北に各幅八度で広がっている想像上の球帯。この帯内を太陽、月、主な惑星が運行する。古来、この球帯を一二等分し、それぞれに一つずつの星座を配し、それを黄道一二宮と呼んだ）

「ええ、まあ、そうですが」

「さて、そこで皆さん、古代にそのゾーディアックを作り上げたのは誰だったのでしょうか？　羊の群の番人たちだったのではないでしょうか？　彼らは、夜、羊たちを見張る以外に何もすることがなく、いつも空を見上げていました。そして、自分たちが見た星座なり惑星なりを、一つひとつ書き記していったのです。例えば金星を見ては、それを丸と十字で表すなどしたのです。

そして彼らは、いかる教育も受けていなかったのではないでしょうか？　彼らは、羊の番人たちだったのです。当時はもちろん、今のような教育制度はありませんでした。彼らは特別な教育を全く受けていなかったのです。でも彼らが間違っていたということを、

あなたがたはこれまで一度も証明することができませんでした。パロマー天文台のあの巨大な望遠鏡を駆使してさえもです。

それなのに、今、私たちが現代と呼ぶこの時代に、ある男が、あなたがたも認めざるを得ないほどの素晴らしい仕事をしたというのに、彼が何の教育も受けていないことを知ったとたん、あなたがたは彼を精神異常者にしてしまい、その業績をむざむざ葬ってしまうという現実は、いったいどういうことなのでしょうか？　矛盾しているのではないでしょうか？」

彼らは私の議論に、目を白黒させていたものです。

今私はこの話を、私たちの多くがいかに大自然に目を向けようとしていないか、ひいては、大自然こそが偉大なる教師であることを知ることにいかにして失敗しているかの一例として話しています。

大自然は、実に偉大なる教師なのです。大自然は、私たちの知る宇宙というもののみならず、私たちをも含めた、そこに存在するあらゆるものに関する責任を有しています。もし大自然が、私たちがまだ知らないものをも含めたこの宇宙のあらゆるものの建築家であるならば、重力、反重力の謎を解く鍵をもっているのは、いったい誰なのでしょうか？　その答を私たちに提供し得るのは大自然なのではないでしょうか？　大自然はそれを自分自身で活用しているのではないでしょうか？　もちろんです。疑問の余地など全くありません。

私たちは、えてして、さまざまな本を徹底的に研究することで重力を学ぼうとします。でも、もしかしたら、ある日突然、本など読んだことのない、どこかのとても素朴な人物が真実の答をポイと提供してくれることになるかもしれません。この分野のことを大自然から学ぼうとしている人々が、今現在実際にたくさんいることを、私は知っています。これに関する真実の答を提供してくれる人物は、もしかしたら、教育らしい教育など全く受けたことのない人物かもしれません。

秋田支部のUFO観測会と懇談会

日本GAP秋田支部は今年度行事のハイライトとして、下記の2つのイベントを実施します。東北地方の会員の方は多数ご参加下さい。楽しくすごしましょう！

★UFO観測会

日　時　1993年5月29日(土)　夜8：00→10：00
場　所　秋田県鹿角(かづの)市大湯のストーンサークル
集合所　大湯温泉千葉旅館ロビーへ夕方7：00。
宿　泊　鹿角市十和田大湯上の湯16　☎0186-37-2211
千葉旅館　1泊2食付￥8000(24時間温泉入浴可能)
交　通　車　＝東北自動車道十和田ICより10分。
JR＝盛岡よりJR花輪で十和田南駅下車。
タクシーで10分。
バス＝盛岡より大館行きバスで陸中花輪駅下車。
そこから大湯温泉行きバスで終点下車。

★懇　談　会

日　時　1993年5月30日(日)　午前9:00→12:00
会　場　秋田県鹿角市「鹿角地域広域交流センター」
鹿角市花輪字荒田1番地の1　☎0186-23-7007
交　通　JR花輪線陸中花輪駅より車で7分。
申　込　お問合せ、参加申込、宿泊希望の方は下記へ早目にご連絡下さい。
〒018-33秋田県北秋田郡鷹巣町綴子字小田31
佐藤忠義　☎0186-63-0287
UFO観測会／懇談会のいずれか一方のみにも参加できます。
※5月の第2日曜日(9日)の月例セミナーは平常通り実施します。

▲上は大湯のストーンサークル。
下は鹿角地域広域交流センター。

企画変更

中米マヤ遺跡宇宙ロードの旅

●1993年度日本GAP企画第15回海外研修旅行

アメリカ・メキシコ・グァテマラ・ホンデュラス。
謎とロマンに満ちた古代マヤ族の跡を訪ねて！

写真はメキシコ・テオティワカンの太陽のピラミッド。
右下はグァテマラ・ティカールの第4号神殿ピラミッド。撮影／久保田一彦

★本誌先号の予告では93年度の日本GAP海外研修旅行を「エジプト・イギリスの旅」と発表しましたが、近来エジプトはイスラム教原理主義過激派が外国人観光団を襲撃する事件が頻発し、イギリスではIRA（アイルランド共和軍）がロンドンで爆弾騒ぎを起こすなど、物騒な情勢が続きますので、今年度の海外研修旅行は急遽行先を変更して、表記のとおり古代マヤ遺跡探訪の旅に致しました。

★ご承知のように古代マヤは謎とロマンに満ちた謎の種族であり、イギリスの大探検家ジェームズ・チャーチワードによれば、1万2先年昔に水没したムー大陸の栄光ある民族の後裔であるとされており、またジョージ・アダムスキーはかつてマヤの遺跡に宇宙的な遺物が埋蔵されているとみて探検を計画しましたが、惜しくも実現しませんでした。

★今回はマヤ遺跡の源泉をなすメキシコのテオティワカンの壮大な遺跡、マヤ遺跡の白眉とされるグァテマラのティカール遺跡、ホンデュラスのコパン遺跡等、興味ある人の垂涎の的である各遺跡を、アメリカのサンフランシスコ経由で訪れます。もちろんサンフランシスコの市内見学も致しますし、同地でアメリカGAPのダニエル・ロス氏が温かく迎えて下さいます。めったに行けない手作りの家族的な旅に多数ご参加下さい。ベテランの田中正と久保田八郎が親身にお世話します。日本GAP会員でなくても参加できますので、知人等お誘い合わせ下さい。3ヵ国とも治安はきわめて良好ですから、ご安心下さい。

日　程

1993年8月13日より10日間

13日（金）成田16：45発米ユーナイテッド航空機で出発。同日朝米サンフランシスコ着、半日市内見学、同夜市内泊。

14日（土）午前サンフランシスコ発、午後4：16メキシコ市（首都）着、同夜市内泊。

15日（日）メキシコ市滞在。午前中は名高い人類学博物館その他を見学。テオティワカンの雄大な太陽のピラミッド、月のピラミッドを見学、登頂。

16日（月）メキシコ市内自由行動。夜22：50隣国のグァテマラ市（首都）着。同夜泊。

17日（火）午前グァテマラ空港発、フローレス着。専用バスでティカール行き。古代マヤ最大のティカール遺跡、ワシャクトゥン遺跡等を見学。夜は美しいペテン湖畔の町フローレスで宿泊。

18日（水）午前中フローレス空港発、グァテマラ着後、国立人類学博物館、民芸品市場、アウロウ公園等を周遊。同夜グァテマラ泊。

19日（木）終日グァテマラ市内自由行動。希望者は専用バスでホンデュラスコパンの大遺跡を見学（別途料金）。

20日（金）午前9時メキシコ市着。自由行動。希望者は専用バスで銀山の町タスコを見学（別途料金）。同夜メキシコ市泊。

21日（土）早朝メキシコ市発、4時間後サンフランシスコ着、2時間後に飛行機を乗り換えて一路帰国の途に。同夜機内泊。

22日（日）午後5：25成田着。

●期　間　1993年8月13日(金)より22日(日)まで10日間。

●費　用　59万5千円（2カ所別途料金）

●定　員　20名

●航空機　米ユーナイテッド航空

●ローン　費用は24カ月払いも利用できます。詳細は案内書をご覧ください。

●案内書　下記へハガキでお申し込みください（日本GAPでは取扱いません）。

〒150東京都渋谷区東3－24－9
サンイーストビル2F
ワールドセブントラベル株式会社
田中　正　☎03－3499－2461
（夜間は☎0475－89－2039の田中宅へ）

●説明会　第1回目　本年5月16日（日）
第2回目　〃　7月25日（日）
会場、時間等については案内書申込者に後日お知らせします。

●ご注意　8月は1年を通じて航空運賃が最高値になる時期ですから、1～2月頃の最低運賃と比較しても無意味です。この費用は他社と比べて高くはありません。多数の参加者が予想されますので、早めにお申し込みください。

●企　画　日本GAP

●主　催　株式会社　日本旅行
（運輸大臣登録一般旅行業第2号）

●取扱い旅行代理店
ワールドセブントラベル株式会社
（運輸大臣登録旅行代理店業第1957号）

Letters ユーコン広場

投稿歓迎 字数を問わず。匿名発表可なるも住所氏名明記のこと。

独立自尊の精神で

青森県　大寺　勉

平成四年の幕がまもなく降りようとしていますが国際宇宙年にとっては元年です。札幌市の福田氏に会うことができ新アダムスキー全集を求めました。私はUFOを三回ほど見ていますので凄く興味を持ちました。

深野一幸氏も高級フリーメーソン等の阻害に対して真実を強く向けていますが、正義そのものに力をつけるためには様々な証明が必要だと思います。海部元総理大臣は理解がありますが、慶応義塾はどうなっているのでしょうか。私も慶応卒のはしくれですが日本をリードする慶応大学の名は久保田先生以外に出てきません。その認識は経済の慶応に支障があるのか、まったく二一世紀に向かえないと思います。日本GAPにも入会させて頂き、知的源泉の慶応の独立自尊をここに示したいと思います。現代科学に限界があるのは目に見えてきました。東洋の気も宇宙エネルギーであることがわかりました。地球人の精神革命は今がスタートです。私は醒めた目で見られるようになってきました。北海道の大自然の中で育ったことを感謝します。先生の益々の御活躍を祈ります。

結局はアダムスキーに

東京都　野崎　宏

初めてお便り致します。私がUFOに興味を持ったのは、私が高校生の時に話題になった「第三の選択」を読んだ後UFO関係の図書を集めるようになってからです。

現在アダムスキー全集も含めて四〇冊くらいになりましたが、これまで読んだ本から総合して考えますと結局はアダムスキーの主張に行き着くのではないかと思います。

シンプルな宇宙に目覚める

兵庫県　黒木喜代子

この度はお忙しい中を親身の御指導を賜りまして本当に有難うございました。早速「二一世紀生命の科学」と「UFO問答」を拝読させて頂きました。

宇宙がこんなにシンプルなものだとは夢にも思っていませんでした。「宇宙の法則」は何も難しいものではなく簡単明瞭なものであることを初めて知りました。今日まで必死に身に付けてきたごてごてとした装飾品やごたごたとした附属品を全部捨ててしまい、すっきり身軽になりました。身辺整理も終えて「もう何も言い残すことはございません」ときっぱり言えるようになりました。本当に有難うございました。

御迷惑とは思いつつ、それまで誰にも話さず心中に詰め込んできた過去のいろいろな出来事を全部聞いて頂きました。それで身も心もすっかり軽くなって尚更宇宙のシンプルさに早く気付いたのだと思います。すべての点で突然流れが変わってしまいました。物事がシンプルにさらさらとよどみなく流れ始めました。宇宙のリズムに乗れたようです。宇宙と一体になれたようです。今日からは「シンプルに、スマートに、ハッピーに」生きて参ります。久保田先生にお引き合わせ下さいました宇宙の方々とジョージ・アダムスキー様に心から感謝申し上げます。

未熟な私ではございますが、これからは宇宙の法則や宇宙哲学を真剣に学ばせて頂きますのでどうぞ末永く御指導賜りますようお願い申し上げます。有難うございました。

UFOを頻繁に目撃する私

愛知県　匿　名

私は日本GAPの会員ではありませんが、先日本屋で本誌を見つけて一一八号から読み始めました。

UFOには以前から関心がありテレビで特集があると必ず見ていました。九一年の初め頃から頻繁に（時には毎晩）正体不明の光体を見るようになって、だんだん不安になってきました。そんなとき本誌で他の方も同じようなものを見ていることを知ってたいへん嬉しく思いました。

私がよく見るのは緑とオレンジの光を放って回りながら飛行するものです。最近では静止した状態でいることが多いのですが――。一見すると星のようですが瞬きかたに特徴があるのですぐにわかります。空が曇っていてもしばらく見ているといつの間にかそこのところだけ雲が晴れて光体が見えることもあります。

昨年四月にはオリオン座の近くで瞬いていた星が突然二つに分かれ強く光って一つが落ちたように見えました。それはまるでSF映画の中での撃墜された光体のようでした。

夏には大きな光を発する物体（月とは違う何か）が雲を透してピンク色に輝き、それに向かって星のような小さい光体が編隊を組んで飛んでいくのが見えました。

小さい頃や学生のときに何回かUFOらしきものを見ましたが、ここ一年の目撃は何か異常に思えます。何故なのかわかりません。どうすれば良いのでしょう。皆様はどうしているのでしょうか。きっと同じような体験をしているのだと思います。それとも私の眼もしくは頭がおかしくなってしまったのでしょうか？

この現象は子供ができたころから始まっているので、何か子供に関係があるのでしょうか。いろいろと考えてしまいます。

いずれにせよ、この地球にとって良き未来が待っているのなら良いのですが――。私達の暮らすこの地球はたいへん美しく、愛すべき星です。

明るいプラスの想念で生きよう

福岡県　樋口美由紀

Uコン一二〇号をありがとうございました。皆様いろいろなところで頑張っておられるのがよくわかります。昨年の総会に是非参加したかったのですが残念ながらできませんでした。今年こそはと思っております。

最近テレビで宇宙についての様々なことがたくさん出るようになりましたね。たいへん良いことだと思います。今年の冬は何だか暖かくて変な感じですね。あちこちの火山が噴火したりオゾン層がかなり破壊されています。このままいけばどうなるのでしょうか。人間の非宇宙的な想念や行動には閉口してしまいます。

私は夜寝るとき「今日は〇〇へ行ってみよう」と月や他の惑星に思いを馳せながら眠りにつきます。そう思うだけでも楽しいのです。またじっと眼を閉じて「今日は何が見えてくるのかなあ」と待っていますと何かの映像が見えてきます。

以前こんな夢を見ました。誰かと宇宙空間にいて星々を見ているのです。長い三角形のようなものがたくさんあって誰かが「あれは一つ一つが銀河だ」と教えてくれたのです。

数年前にはぎっしり詰まった宇宙空間の星々が紫、青、赤の光で美しく輝いて「わー！」という感じで見ていました。意識だけで行って見たのでしょうか。

またある人の夢を見たのですが内容は覚えていません。でも眼が覚めたときに確かにこの人に会ったという強い印象がありました。夢とは思えないほど強烈な印象です。寝ている間にこの人の意識と私の意識が会っていたのでしょうか。

夜の九時一五分から衛星第二放送で「星空図鑑」という番組があります。星がぎっしり詰まった宇宙空間、そして無数の銀河。人間の想像を遥かに越えています。この番組が大好きです。私は音楽を聴くのも大好き

で「これは別な惑星の音楽ではないかしら」と思ったりすることがあります。

数カ月前まで記憶が消えていくのがわかるという変な現象がありました。右から左へ消しゴムで消すように消えていきます。脳細胞の変化なのでしょうか。不思議です。

早いもので子供達は小学校四年生一〇才になりました。あと二年で中学生ですが、この中学校への通学路に痴漢に注意との看板が立っています。この辺りはまだ田畑がたくさん残っている場所ですから実際にいろいろな話を聞きます。パート勤めのために子供達が自分で鍵をあけています。よく言ってきかせていますが、これが一番の心配です。そこで自分の想念でいつも念仏のように「安全、健康」と唱えています。子供の安全を私の命に代えても守るという想念を放つようにしています。またマイナスの想念を引き寄せないようにしています。身近な地域に宇宙的な想念を放っていけば何も起こらなくなり、変な人も現れなくなると思います。現実問題としての一番の関心事です。こういうことについて何かアドバイスを頂けましたら大変嬉しいのですが――宜しくお願い致します。

地震で学んだこと

石川県　高田いづみ

昨夜のマグニチュード六・六の北陸地震のために家中の家具とガラスが一瞬のうちに崩壊してしまいました。被害状況は輪島よりひどかったようです。

頭上からムーやトワイライトを始めとするオカルト雑誌が降り注ぎました。両腕で本棚を受け止めましたが、自分でも気丈だなと思いました。

主人は当夜同窓会のため外出しておりました。半病人の義妹に「津波情報が出ているので支度だけはしなさい」と言い捨ててアーミージャケットとバッグを背負って主人を探しに行きました。夜道を一人で歩きながら「自然の前に力なし！」とつぶやきつつも、反面「それでも人間は生き続ける生きものなのだ」と悟りました。幸いに津波はなくて主人も行き違いで戻って来ました。

実家は池袋なのでタンスや本棚の壁面固定をするとガラスによる怪我が防げますので、何かの折にお話し下さい（実際にくずれてきて逃げ道がふさがれてしまいましたので）。

私は小学生の時に新潟地震を経験しましたが、当地は地震と無縁のため住民はびっくりしたと思います。

二年前には台風一九号に直撃され隣家の巨木がすれすれに倒れて助かっています。きっと悪運が強いのでしょう。どういうわけか交通事故の現場処理に立ち会ったりすることもあります。それなりに生きている役割があるのかもしれません。

ただいまは仕事場のかたづけをしております。修復には時間がかかると思いますが、根性を入れてがんばっています。関東方面も十分に気を付けて下さい。本日は朝から吹雪になって少々落ち込んでいますが、元気でやります。

日々の生活の重要性

福井県　塚田和子

私はUコン一〇五号より拝読しております一主婦です。心待ちにしているUコンを手にした時には新鮮な気持が沸き起こって勇気が出てきます。

日常生活において、分裂した感情を持たずにプラス思考の想念で暮らすことがいかに重要であるかがわかるようになりました。特にエゴのコントロールは難関であり、まだまだ十分にできませんが、自己改革のために毎日自分と戦っています。

入会してから思いましたが、北陸方面に支部がないのはとても残念です。北陸方面の方で、アダムスキー哲学に興味を持ち、これ以上のものはないと考えている方がいらっしゃいましたら、どうぞお話を聞かせて下さい。

〒九一六　福井県鯖江市宮前一丁目
四―四一―二
TEL（〇七七八）五二―八一六八

同志を求む

アダムスキー哲学を学びゆく方の中で、偉大な愛の実践者・マザーテレサに深く感銘された方と共に学び合いたいと願っています。マザーの生き方に奥深い真理を感じる方、アダムスキーとマザーの教えを共に人生に生かし行動したいと感じておられる方、どうぞ御連絡下さい。特に同郷の方、宜しくお願い致します。

〒七〇四
岡山県岡山市久々井一五〇六
豊田哲也

良き伴侶となる方を探しています

名古屋市　高原登茂子

長野支部大会ではもの凄いお話をありがとうございました。多少のお金と時間を使って大会最後の観光まで参加させて頂きましたが、これほど「来て良かった！」と感じたことはありませんでした。やはりGAPの地方支部大会にはできる限り参加すべきですね。期待の数倍は良いことが起きますから。

一部分だけではなくて丸ごと全部心に残る大会でした。行きの電車からの景色、晴れた空、素晴らしい講演、楽しい夕食会、「わしはまだ眠くない」とおっしゃってまるで大質疑応答大会になってしまった二次会、そしてあと一週間くらい皆さんと一緒に旅行していたいと思った翌日の観光――。途中で起きたハプニングもみんな楽しさに満ちたものでした。必死でメモした講演録がここにあります。何回読んでも感動します。

私のプロフィールは昭和三〇年五月一一日生まれ。静岡県出身で浜松の音楽高校に通っていました。昭和六〇年に主人と離別。実家は妹が継ぎ、現在は一六歳と一四歳の息子達との三人暮らしで、保険の外交員をしてほそぼそと生活しています。三〇歳か四〇歳台で、結婚を前提としてお付き合いして頂ける男性を探しています。私の良き理解者であれば外見や収入にこだわりません。御連絡をお待ちしております。

〒四六二　名古屋市北区上飯田南町
四―一―五―一二二二

紀南会、健在

三重県　松口幸之助

先日は久保田先生のご回答のテープをまことに有難く頂きました。私も体調が回復してまいりました。これからも強烈な信念でやっていこうと思います。二月の東京セミナーのテープでやる気が出てきました。

◀紀南会の月例セミナー。右から松口幸之助、小川隆志、寺本勝の諸氏。

本誌バックナンバー掲載記事目録

★下記の他に100号よりあります(102、103号なし)。ハガキでご注文下さい(代金後払い)。バックナンバーに限り送料不要。

No.120　平成5年1月25日発行　¥900

宇宙的な信念と勇気を起こす方法――久保田八郎
二人の異星人からの忠告――辻　俊昭
テレパシーで植物を動かす方法――遠藤昭則
人間は生来テレパシー能力を持つ――堀江健一
夜空の不思議な"映像"――田辺優子
重力と宇宙の自然のパワー――G.アダムスキー
モアイとUFOの島へ――伊東芳和

No.119　平成4年10月25日発行　¥900

夜空に不思議な「U」の文字が出現――久保田八郎
私の超能力開発体験と異星人女性との出会い――佐々木八郎
瀕死の妻が宇宙哲学で奇跡的に全快――口ノ町一男
ミコミラクルワールドとイメージ法で腰痛が急速に治る――穴原美智子
神室山上空のUFO――沼倉　孝彦
UFO・異星人・地球人――G.アダムスキー

No.118　平成4年7月25日発行　¥900

イエスの実像と転生の法則――久保田八郎
計り知れぬ影響力をもつアダムスキー――中村省三
宇宙の意識とともに願望を実現させる方法――高梨十光
私のUFO目撃と不思議な体験――川野晶子
音楽は生命エネルギーを運ぶ――鷲見　弘
UFO・異星人・地球人(1)――G.アダムスキー
天地万物との一体化で長寿――塩屋信男

No.117　平成4年4月25日発行　¥900

巨大宇宙船、デザートセンター上空に出現！――
地球救済活動を続ける異星人(2)――秋山眞人
飛行機を助けた謎のUFO――
奇跡を起こす反復思念とイメージ法――久保田八郎
善だけを探し求めてテレパシーが発現――小川隆志
ひとりで物品が動く現象――大嶋順子
思いどおりに出現するUFO――中島直仁
ジョージ・アダムスキーと異星人(完)――アリス・ポマロイ

No.116　平成4年1月25日発行　¥900

地球救済活動を続ける異星人――秋山眞人
南フランスの不思議なコンタクト事件――中村省三
奇跡的に願望を実現させる方法――テッド・オーウェン
病気治療の宇宙哲学的応用――高梨十光
ミラクル・ワードとミラクル・イメージ――久保田八郎
江東区上空のUFO――森田久恵
南九州支部からの声――曽我部勇人
ブラザーズに助けられた？――藤沢清則
ジョージ・アダムスキーと異星人――アリス・ポマロイ

No.115　平成3年10月25日発行　¥900

アダムスキーとUFO問題の真相――ハンス・ピーターセン
金星表面に超長大な水路を発見！――
28年ぶり宇宙からの帰還!?――
突然消滅した10人の少年少女！――
暗闇から現れた不思議な人々――
円筒型の奇妙な物体を見る――服部哲雄
謎の飛行物体、米子に出没――
UFOの色彩についての一考察――斎藤俊徳
UFOと古代マヤの謎――久保田八郎

No.114　平成3年7月25日発行　¥900

日本GAP全国ネットワークテレパシーコールUFO観測会、大成功
北海道上空の物凄い光景――松村芳之
尽きぬ宇宙へのロマン――高木　澪
奇跡を起こす想念の力――遠藤昭則
私は巨大な円盤を見た！――松浦義教
タパヌイの謎の大爆発――ジャン・パジャク博士

No.113　平成3年4月25日発行　¥900

ファティマの大円盤出現事件――久保田八郎
奇跡のペンダントと転生の法則――ハンス・ピーターセン
ティモシー・グッドのアダムスキー体験――中村省三
オーラ透視力開発法――遠藤昭則
壁画の奇跡――永山稔恭
江戸川区上空の巨大UFO――北館博子
クリスマス前のUFO出現――伊藤芳和
私のUFO目撃体験――平井沙織
UFO-宇宙からの完全な証拠(完)――ダニエル・ロス

No.112　平成3年1月25日発行　¥900

アダムスキー問題と日本GAP――久保田八郎
宇宙人の遺体はロボットだった！――ハンス・ピーターセン
高度に進化した金星人の実態(完)――G.アダムスキー
〈写真〉金星の不思議なスジ模様――
青森県に頻発するUFO出現事件――
UFO-宇宙からの完全な証拠⑭――ダニエル・ロス

No.111　平成2年10月25日発行　¥900

高度に進化した金星人の実態――G.アダムスキー
金星から転生してきたイエスの大地へ――久保田八郎
長野県に出現した巨大母船型UFO――村田正道
美しいUFOが赤城山付近を飛ぶ――番場博次
松本市にもフットボール型UFO――茶谷健一
北海道に現れたアダムスキー型円盤――堀江健一
私のテレパシックな不思議人生――郡司典子
UFO-宇宙からの完全な証拠⑬――ダニエル・ロス

No.110　平成2年7月25日発行　¥900

UFOの正体と観測の仕方――本誌編集部
UFO・異星人との遭遇体験記――藤本定雄
宇宙哲学で奇跡を起こして安全に生きる方法－久保田八郎
西郷隆盛の最期を透視――遠藤昭則
アダムスキー秘書との対話――向井　裕
アメリカGAP発足！(完)――ダニエル・ロス
UFO-宇宙からの完全な証拠⑫――ダニエル・ロス

No.109　平成2年4月25日発行　¥900

豊かで素晴らしい他の惑星と生命の連続－G.アダムスキー
UFO、朝霧高原に出現！――
デザートセンター円盤着陸事件(2)――久保田八郎
強烈に輝くUFOを見た私たち――川野綾子
オーラ、宝石、超魔術、チャネラー――遠藤昭則/秋山眞人
「アメリカGAP」発足！――ダニエル・ロス
UFO-宇宙からの完全な証拠⑪――ダニエル・ロス

No.108　平成2年1月25日発行　¥900

地球へ救援に来るUFOと転生の法則――G.アダムスキー
奇跡をもたらす「生命の科学」――久保田八郎
超能力開発の新しい視点――秋山眞人
潜在意識としてのDNA――N.H.M.D.
私は巨大な母船を見た――小瀬村芙美子
私についてきた光るUFO――郡司典子
GAP海外旅行で目撃した数々のUFO――中根　豊
ロイよ、来て助けておくれ！――久保田八郎
UFO-宇宙からの完全な証拠⑩――ダニエル・ロス

1993年度

大阪支部大会

千年の古都・奈良へどうぞ！

●奈良県新公会堂

今年も日本GAP大阪支部は盛大な大会を開催致します。今回は趣向を変えて、古都奈良の若草山のふもと、奈良公園内の美しい和風建築様式の新公会堂において、宇宙的な雰囲気をかもし出すよう万全の準備をととのえてお待ち致します。久保田先生の感動的な名講義を拝聴して活力の充電を図ろうではありませんか。大会翌日は近郊の飛鳥に点在する古代の名高い遺跡を見学。ときは絶好の陽光きらめく5月の4連休！　多数ご参加の程を大阪支部会員一同心からお待ちしております。

大阪支部代表　平塚和義

日　時　1993年5月3日（4連休の2日目）午後1：00～4：45

会　場　「奈良県新公会堂」1階第1会議室
奈良市春日野町101番地　TEL.0472-27-2630
- 新幹線「京都駅」で近鉄京都線に乗換えて「奈良駅」下車、東へ徒歩15分。
- JR（関西本線・奈良線）「奈良駅」から奈良交通バス（市内循環）「大仏前」下車。東へ徒歩2分。

会　費　¥3000（全員記念写真希望者は¥1000を別納）

☆大会プログラム☆

司　会　宇野秀樹
1：05　支部代表挨拶　平塚和義
1：15　講演　久保田八郎日本GAP会長「アダムスキー問題と不思議な出来事」
2：45　全員記念撮影・休憩
3：15　全員自己紹介・質疑応答
4：45　閉会

夕食会　6：00～8：00（希望者のみ）

会　場　「奈良スリーエムホテル」宴会場（場所は下記を参照）

会　費　¥6500

宿　舎　「奈良スリーエムホテル」　TEL. 0472-33-5656
奈良市芝辻町2－11－11／近鉄奈良線新大宮駅前
シングル10室、トリプル（3人部屋）8室を予約済。（ツインなし）
シングル・トリプル共大人1人¥12,360（朝食付）
※宿泊と夕食会は前金制。お支払い方法は申込者に後日連絡の予定。

観　光　5月4日（4連休の3日目）　飛鳥サイクリングツアー。
日本建国期の数々のドラマを秘めた歴史の舞台、万葉のふるさと飛鳥は、まさにミステリーの宝庫。まほろしの古都を求めて飛鳥ならではのロマンに満ちた魅力を満喫します。
（正式には奈良県高市郡明日香村）

観光地　石舞台古墳、酒舟石、飛鳥寺跡、水落遺跡、川原寺跡、亀石、天武・持統天皇陵、鬼のまないた、鬼の雪隠（せっちん）、高松塚古墳、高松塚壁画館を見学の予定。自転車に乗れる方はサイクリングで巡遊。乗れない方はタクシーを利用。

会　費　¥3000　ただしタクシー利用の方は割高になります。

申　込　夕食会、宿舎、観光を希望される方は、ハガキで下記宛に4月1日までに(必着)お申し込み下さい。申込者には個々に詳細案内書を差し上げます。
※観光シーズンでホテルの空室が少ないため、申込みは早いほうが有利です。
〒661　兵庫県尼崎市水堂町3丁目16－8
平塚和義　TEL. 06-436-3478

備　考　5月の月例会は平常どおり開催します。

絶賛発売中

※新アダムスキー全集全巻をまとめてご注文頂きますと定価の10%引き＋送料がサービスとなります。

新アダムスキー全集

——全面改訂・改訂　全10巻——

久保田八郎・訳／各四六判

CAP 中央アート出版社・発行　〒104 東京都中央区京橋3－7－13 三成ビル5F　☎03(3561)7017●郵便振替 東京8－66324

超絶した大文明を持った、太陽系の他の惑星群の人々とコンタクトしたアダムスキーを米政府機関は密かにマークしていた／ UFOや惑星群の驚異的実態と深遠な宇宙思想を伝える本全集は、地球人類に宇宙的覚醒の必要性と真の生き方を示す永遠の古典。UFOと宇宙哲学の研究者にとって必読の名著。旧全集を全面改訂した最新決定版。世界に類書なき金字塔／

アダムスキー

❶ 第2惑星からの地球訪問者　352頁・定価1980円

UFO研究家として世界的に著名なジョージ・アダムスキーの、1952年11月20日、米カリフォルニア州の砂漠に着陸した円盤から出てきた金星人との会見から始まる驚異的なコンタクト実録。著者みずから円盤や母船に乗り組み、他の惑星の超絶的大文明の実態を明かにする、本全集の中心の書。写真多数収録。

アダムスキー

❷ 超能力開発法（テレパシー、遠隔透視その他）　192頁・定価1300円

世間に氾濫する通俗的な超能力開発法とは根本から異なる宇宙的能力の発現法を説いたもの。目、耳、鼻、口、の四官をコントロールして、肉体内部の宇宙の意識から来るメッセージを感受し、真の意味でのテレパシー、遠隔透視その他の超能力を身につける方法を具体的に詳述。類書皆無の重要文献。

アダムスキー

❸ 21世紀/生命の科学　208頁・定価1300円

アダムスキーが他界する前年に出した12冊分の講座を一冊にまとめたもの。アダムスキー宇宙哲学の総括的な一大金字塔。特に人体細胞の実態と真実のテレパシー、及び霊界通信の誤り等を科学的に解説した超能力開発指導書。心霊現象への接近を警告する画期的な理論を明快に説く、第5巻の続編として必読のテキスト。

アダムスキー

❹ UFO問答100　216頁・定価1300円

1958年にアダムスキーは、世界中から来る質問の洪水を分類して質疑応答集を出した。全部で100問のUFO関係の質問に懇切な回答を与えている。現在の混迷した世界のUFO研究界に的確な示唆と回答を示すものとして、内容は今も驚くほど新鮮で有用である。UFO研究者の素晴らしいガイドブック。

アダムスキー

❺ 金星・土星探訪記　380頁・定価2400円

アダムスキーが大母船に乗せられて、想像を絶する進歩をとげた金星と土星を訪れた体験記。特に金星人の少女として生まれかわった亡き妻メリーとの劇的な対面が圧巻。第2部には1958年以来、日本におけるアダムスキーの代理人として啓蒙活動に専念している久保田八郎宛の多数の書簡を収録。

アダムスキー

❻ UFOの謎　262頁・定価1980円

UFOの推進原理をはじめ、聖書とUFOとの関連などを詳述して様々なミステリーを解明した重要な文献。第2部はアダムスキーの世界講演旅行記で、各国GAP網の活動状況が克明に描写されていて1960年代のUFO研究界の実情と一般人の宇宙観がよく理解できる。第1巻の続編。

アダムスキー

❼ 21世紀の宇宙哲学　148頁・定価1030円

地球人が真に宇宙的な成長をとげるための基本的思想として、マインド(心)と肉体内部に宿る宇宙の意識との一体化を説いた書。既成のあらゆる宗教や哲学では理解し得なかった人間の意識と万物との関係を説いて21世紀の思想を先取りした。第5巻、6巻と合わせてアダムスキー哲学の三部作をなす。

アダムスキー

❽ UFO・人間・宇宙　370頁・定価2400円

アダムスキー友持活動団体として世界のトップクラスをゆく日本GAPの機関誌に掲載された、アダムスキーのUFOと宇宙哲学関係の論文、講演録等を編集。他界する直前の最後の講演が圧巻。第2部には訳者・久保田八郎が再三渡米してアダムスキーの今は亡き高弟たちと接したインタビュー記事を収録。

アダムスキー

❾ UFOの真相　320頁・定価1980円　1991年4月刊！

アダムスキーの薫陶を受けた人達の論説・講演録等を収録。宇宙的実像と人間味豊かな庶民性をあわせもつ偉人の素顔を多角的に描写。ア氏の高弟アリス・ボマロイ、キース・フリットクロフト、ハンス・ピーターセン、金星文字を解読して画期的な永久モーターを開発したバジル・パン・デン・バーグらの証言が圧巻。「サンピエトロ大寺院の異星人」と題する久保田八郎の体験記も興味深い。

アダムスキー

❿ 超人ジョージ・アダムスキー　232頁・定価1300円

厖大な新アダムスキー全集の最後をしめくくる完結篇。アダムスキーの宇宙的な活動と深遠な哲学を集約して伝えるとともに、彼の伝記をも加えてこの巨人の人間像を克明に描写。これ1冊でアダムスキー問題の何たるかが理解できる全集のコンパクト版。豊富な写真入り。国際的なアダムスキー研究家・久保田八郎が書き下ろし執筆。

UFO—宇宙からの完全な証拠　480頁・定価2800円

ダニエル・ロス著／久保田八郎訳

アメリカの気鋭UFO研究家ダニエル・ロス氏が全力で展開したUFO問題の真相。月・惑星探査結果に関するNASA(米航空宇宙局)の隠蔽工作を暴露し、アダムスキーの体験の真実性を科学的に実証した画期的な内容の本書は、UFOの研究者のみならず、宇宙科学に関心ある人にもきわめて有益な知識情報の源泉となる。写真多数掲載。

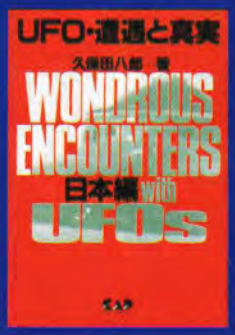
全国書店で絶賛発売中

UFO・遭遇と真実

四六判・264頁
美麗カヴァー付

★久保田八郎著　　¥1,500　送料 250

かつて本誌に掲載された驚異的なUFO事件を８件選び、わが国ＵＦＯ研究界の第一人者・久保田八郎が新たに書き下ろし読みやすく編纂した本書は、類書がないほどに不可思議な事件に満ちています。実証主義をつらぬく著者が各事件現場を検証、体験者や証人達に直接会って徹底的に調査した結果、真実そのものであると確認した事件のみを流麗な筆致で活写。豊富な写真・イラストとあいまって読者を遥かな惑星群に誘う稀有の保存資料です。



〈内容〉
①関東大震災中に人々を救出した円盤（横浜の世にも珍しい大事件）
②東京タワーから目撃されたＵＦＯと搭乗員（東京の素晴らしい目撃体験）
③超低空に降下した円盤と、手を振る異星人少年（高松市の驚異的事件）
④旭川市郊外の夜空に展開した物凄い光景（上富良野の仰天現象）
⑤ＵＦＯに乗ってエジプトまで飛んだ少年（松山市の物凄い事件）
⑥熱烈な願いに応えて出現したＵＦＯを撮影（東京でのテレパシー体験）
⑦尾道市に出現したアダムスキー型ＵＦＯ（尾道市の偶発事件）
⑧円盤や母船に乗って別な惑星へ行ってきた！（秋山眞人氏の超絶的体験）

■書店で品切れの節は下記へ郵便振替か現金書留で直接ご注文下さい。
中央アート出版社　〒104 東京都中央区京橋３－７－13　三成ビル　☎03-3561-7017　振替・東京8-66324

※上記の書籍は日本ＧＡＰでも取扱います。著者の署名捺印入り。ハガキでご注文下されば代金到着後払いで直送します。

英文版「UFO contactee」No.8　発行　日本ＧＡＰ

Ｂ５判／12頁／コート紙使用／¥500　送料¥175／３冊まで¥250

世界のＵＦＯ研究界で絶賛をあびている英文版ユーコン誌は、いまや各国の研究団体や個人研究家から注文が殺到、ロシアや南太平洋のフィージーあたりからも問い合わせがあるほどです。これは、小冊子ながら内容はきわめて重要な情報に満ちており、他に類似専門誌がないからです。No.８は「イエスの実像と転生の法則」の英訳、アダムスキーの講演、その他の記事、写真を満載。英語学習用にも最適。ぜひお求め下さい。（ただしNo.１～No.３は品切れです。）

編集後記

▼「金星へ行って来たメキシコ人」は珍しい情報です。こうしたアダムスキー的な体験はあまり世に出ないせいか、国内でも紹介されていないようですから、本号の記事は出色といえるでしょう。

▼デザートセンターとパロマー山の訪問記をまた出しましたが、近来、新しい読者が急増する傾向にありますので、その方々のための手引きとして意義があろうかと思います。

▼アダムスキー型円盤は依然として出現します。しかも白昼、都内に超低空で飛来するとは！　一八頁の秋山槙之介少年の体験こそ、ＵＦＯ問題やアダムスキー問題の否定論者を顔色なからしむる快事件です。

▼またも佐々木八郎氏の素晴らしい体験記が出ました。氏はオーラで異星人を見分ける超能力者。あまり多くを語りたがらない氏が、これほどに洩らしたのは異例のことです。それにしても都内だけでも相当数の異星人がいるようで考えさせられます。しかも誰も気づかない！　いったい地球人とは何なのか？

▼アダムスキーの講演録は相変わらず物凄い内容と深遠な意義を帯びています。何度読み返しても飽きることはありません。

▼ＵＦＯ目撃報告、ＵＦＯ写真、超能力開発体験、宇宙哲学研究実践、宇宙科学等の原稿や資料を募集しています。原稿書きの苦手な方には面談して取材します。ふるってご応募下さい。

▼本誌は多数のヴォランティアーにより全国の主要書店に卸されています。この活動に参加希望の方はハガキでお申し込み下さい。説明書をお送りします。（K）

日本ＧＡＰ機関誌・季刊　夏季号
UFO contactee　121号
編集発行人　久保田八郎
発行所　日本ＧＡＰ
〒133東京都江戸川区本一色1-12-1-501
☎03-3651-0958
振替　東京4-35912
一九九三年四月二五日発行
定価九二七円（本体九〇〇円）・送料210円

※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断転載を禁じます。

平成5年度

日本GAP全国月例セミナー案内

支部名	日　　時	会　　場	会費	プログラム・テキスト
東京本部	毎月第1日曜日　午後1:00→5:00 ※平成5年5月のみは9日に変更。	港区芝公園3丁目5-8「機械振興会館」地下3F第2研修室。 ☎03-3434-8216。JR浜松町駅下車。東京タワーの正面前。 浜松町駅から東京タワー行きバスで約8分。 連絡先＝日本GAP本部　☎03-3651-0958 ※日曜日は正面玄関が閉じられているので、右へ回って建物の右側面の入口から入る。	会場費 ¥1000 セミナー受講料 ¥1500 計¥2500	1:00→1:30　会員による講演。 1:30→3:00　久保田会長による講義。 テキスト＝5月より『生命の科学』 3:10→5:00　超能力開発練習／近況報告／質疑応答。
大阪支部	毎月第3日曜日　午後1:00→5:00 ※5月3日支部大会を開催。 詳細は本号49頁。	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。JRまたは阪急電車吹田駅下車。 連絡先＝平塚和義　☎06-436-3478 平成4年1～10月＝「尼崎市立産業郷土会館」兵庫県尼崎市東大物町1-1-2	¥500	東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。 テキストその他＝東京本部に同じ。
新潟支部	毎月第4日曜日　午後1:00→5:00	新潟市東万代町9「新潟市青年の家」(万代市民会館と同じ建物) ☎025-246-7711。JR新潟駅より徒歩5分。 連絡先＝星 富治夫　☎02579-2-5562	¥500	同　上
名古屋支部	毎月第2日曜日　午後1:00→4:30	名古屋市中区金山1丁目5番1号「名古屋市民会館」特別会議室。☎052-331-2141㈹。 JR東海・名鉄・地下鉄の金山橋より徒歩5分。 連絡先＝林　国宣　☎0586-45-6468	¥300	同　上
仙台支部	毎月第3日曜日　午後1:10→4:20 ※当分の間、月例会を休会。	仙台市青葉区米ケ袋1-1-35「仙台市片平市民センター」会議室。 ☎022-227-5333。仙台駅からお霊屋橋経由動物公園方面バスで約7～10分。東北大正門前下車、真向かいの建物。 連絡先＝笠原弘可　☎022-284-2910	¥300	同　上
山形支部	毎月第1日曜日　午後1:00→5:00 ※日時は変更があるため、毎月月例会の前に柴田宛電話で問い合わせること。	山形県天童市老野森1丁目1-1「天童市中央公民館」 ☎0236-54-1511。天童駅から徒歩10分、タクシー4分。天童市役所の裏側。 連絡先＝柴田光明　☎0233-25-3261	¥300	同　上
札幌支部	毎月第1日曜日　午後1:00→4:30 ※日時・会場は不定につき、高野宛問い合わせること。	中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。 ☎011-271-5821。 連絡先＝高野省志　☎011-783-6393	¥500	同　上
旭川支部	毎月第4日曜日　午後1:00→5:00	旭川市五条4丁目「旭川ときわ市民ホール」3F 302研修室 ☎0166-23-5577 連絡先＝川上三秀　☎0166-61-0044	¥500	同　上
沖縄支部	毎月第4日曜日　午後1:00→4:30	具市川市栄野比1213-1「具志川市野外レクセンター」会議室。 ☎09897-2-7722 連絡先＝里　孝人　☎098-869-9964	¥500	同　上
秋田支部	毎月第2日曜日　午後1:00→5:00 ※5月30日は懇談会を開催。 詳細は本号44頁。	秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377。 連絡先＝伊藤正治　☎0188-62-2831	¥500	同　上
横浜支部	毎月第3日曜日　午後1:00→5:00	横浜市中区万代町2-4-7「横浜市技能文化会館」7F 703号室。 ☎045-681-6511。JR関内駅、地下鉄・伊勢崎長者町駅より徒歩3分。 連絡先＝清水　正　☎03-5951-3518	¥500	同　上
茨城支部	毎月第4日曜日　午後1:20→5:00	水戸市梅香1-2「三の丸公民館」小集会室。 ☎0292-24-6600。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先＝清水勝一　☎0292-73-1903	¥300	同　上
長野支部	毎月第4日曜日　午後1:00→5:00	塩尻市大門7番町「塩尻総合文化センター」第1会議室。 ☎0263-54-1253。 連絡先＝博田文喜　☎0263-58-8510	¥500	同　上
紀南会	毎月第3日曜日　午後1:00→5:00 ※日時と会場については小川宛問い合わせること。	和歌山県新宮市新宮6682-1「新宮市福祉センター」1F相談室。 ☎0735-21-2760。JR西日本新宮駅下車、徒歩5分。 連絡先＝(副代表)小川隆志　☎0735-32-2834	¥300	同　上
栃木支部	毎月第3日曜日　午後1:00→5:00	鹿沼市市役所裏「御殿山会館」1F小会議室。 ☎0289-64-4334。JR鹿沼駅から西へ1.5km。東武新鹿沼駅から北へ1.5km、市内行きのバスに乗り天神町下車。徒歩5分。 連絡先＝渡辺克明　☎0289-62-3319	¥500	同　上
南九州支部	毎月第4日曜日　午後1:00→5:00	指宿市東方12000番地「指宿市民会館」 ☎0993-22-4105 連絡先＝鶴田清則　☎0993-25-3252	¥500	同　上
高松支部	毎月第3日曜日　午後1:00→5:00 ※日時・会場は変更があるため、関宛問い合わせること。	高松市番町1-8-22「高松市立市民会館」会議室。 ☎0878-39-2888。JR高松駅より徒歩15分。 連絡先＝関　高明　☎0875-72-2698	¥400	同　上
IZU(伊豆)支部	※日時は変更があるため、事前に高梨宛電話で問い合わせること。	静岡県三島市一番町20-5「三島市民文化会館」第3会議室。 ☎0559-76-4455。三島駅より徒歩3分。 連絡先＝高梨十光　☎0558-72-7832	¥500	同　上

オーソン肖像写真

新アダムスキー全集第１巻に出てくる金星人の肖像。目撃者アリス・ウェルズ女史のスケッチにもとづいて女流画家ゲイ・ベッツが描いた等身大の油絵の写真。10.5cm×17cm。

¥1,000 送料￥120

金星のシンボルマーク

中央の眼は万物を見透すパワーをあらわし、周囲の４層の星は人間のマインド（心）の発達状態をあらわしています。9.3cm×8.8cm。

¥500 送料￥62

ＥＳＰカード

超能力開発練習用としてアメリカのデューク大学で開発されたカード。５種類の図形カード各５枚ずつ、計25枚１セット。堅牢な厚紙製。重さ40gの軽量。5.7cm×8.9cm。ポケットに入れて携帯するのに便利なので、どこでも気軽に練習できます。

¥1,600 送料￥175

テレフォンカード

日本ＧＡＰ特製テレフォンカードの第６弾。1952年11月20日、米カリフォルニア州デザートセンターでアダムスキーがコンタクトした金星人が、地面に残した靴の跡の不思議な図形を今回は取り入れました。これは今も謎のままになっています。

¥1,500 送料10枚まで￥62

ＧＡＰキーホルダー

多数の方の要望にお応えして制作したオリジナル・キーホルダー。シンボルマークの周囲を「WITH COSMIC CONSCIOUSNESS（宇宙の意識とともに）」の金文字が取り巻く優雅なデザイン。メタル部分は径3.2cm、全長9cm。

¥1,900 送料￥120

会員バッジ

金星のシンボルマークが金色に輝く優雅なデザイン。表面の透明樹脂がキズを防ぎ、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏の留め金が心棒ネジ留め式。女性用は安全ピン式。ご注文の際は、いずれかを明記して下さい。実物径1.7cm。

¥2,000 送料4個まで￥120

ブックカヴァー

新アダムスキー全集のカヴァー用に作られたものですが、同じ大きさの四六判の書籍ならどれにも利用できます。表側の中央にシンボルマークと「宇宙の意識とともに」という意味の英文が金色で箔押しされた濃紺色の優美なデザインです。人造皮革製。

¥1,200 送料￥175 5枚まで￥250

ＧＡＰシール

シンボルマークを「宇宙の意識とともに」の英文が取り巻く優雅なデザインのシールです。黒地のため黒カバンや黒い物に最適。白物の品物にも似合います。

¥200 送料10枚まで￥62

新アダムスキー全集★★★★訳・著者 久保田八郎のサイン・捺印入り!!★★★★

中央アート出版社刊の新アダムスキー全集を日本ＧＡＰでも取り扱います。各巻とも扉に久保田八郎の直筆サインと捺印を入れてお届けします。全巻注文の割引はありません。送料はご注文内容によって異なりますので、ご注文の際は書籍代のみご送金下さい。書籍発送の際、送料の請求書と振込用紙を同封します。ハガキでご注文下されば代金あと払いでお送りします。（電話によるご注文はご遠慮下さい）

申込先 住所、氏名、電話番号、商品名、種類、個数等をご明記の上、郵便振替または現金書留でお申込下さい。代金後払いのご注文も承ります。ハガキに品名個数をご記入の上、投函して下さい。品物をお送りするときに専用振替用紙を同封しますから、現品到着後、それを用いて郵便局よりご送金下さい。振替によるご送金は当方へ到着するまでに約１週間かかります。この欄の商品はすべて消費税は無関係です。

〒133 東京都江戸川区本一色１-12-１-511
日本ＧＡＰ 振替・東京4-35912 ☎03-3651-0958

日本ＧＡＰ能力開発テープ

●日本ＧＡＰ東京月例セミナー

毎月開催される東京本部月例セミナーから、久保田会長の「生命の科学」解説講義と質疑応答その他を録音したもの。これを聴けば絶大な信念と勇気がわきおこり、人生の荒波を超えて成功をめざして堂々と前進できます。

●テープ① ¥1500 送料¥175
〈内容〉久保田会長による新アダムスキー全集第３巻「生命の科学」の講義。近況報告付

●テープ② ¥1200 送料¥175
〈内容〉会員による講演、超能力開発練習。質疑応答。※1990年以前のバックナンバーあり。往復ハガキでお問い合わせ下さい。

●1992年度日本ＧＡＰ総会 ２巻セット ¥2700 送料¥250
〈内容〉久保田会長講演「宇宙的な信念と勇気を起こす方法」。質疑応答。

申込先 申込先「品名」「○年○月分」「個数」「お名前・ご住所・電話番号」等を明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。
〒133 東京都江戸川区本一色1-24-3-202
松村芳之 振替・東京0-162644 ☎03-3653-9387

日本ＧＡＰビデオ

臨場感溢れる画像があなたを会場に引き込み、宇宙的な一体感を起こします。全巻ＶＨＳ。

●東京本部月例セミナー 全１巻 ¥4000
〈内容〉久保田会長の解説講義、他、約120分。

●日本ＧＡＰ総会 全２巻各¥3000
〈内容〉毎年開催される日本ＧＡＰ総会を完全収録。（1989年度分から在庫あり）

●日本ＧＡＰ海外研修旅行 全１巻 ¥3000
〈内容〉旅行のハイライトをまとめた美しいビデオ。（1989年度分から在庫あり）

●1992年度デザートセンター調査行 全１巻 ¥3000
〈内容〉1952年11月20日、アダムスキーが金星人とコンタクトした地点その他を調査した記録。

送料はビデオ１本¥360。２本以上３本まで¥[illegible]、４本以上７本までは距離に応じて変わります。

申込先 ご注文の際は品名、０年０月分、上下巻の区別、個数、住所氏名、電話番号を明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。
〒162 東京都新宿区富久町36-18 富久マンション103
伊東芳和 振替・東京4-13811 ☎03-3351-9526

UFO contactee 21号 一九九三年四月二五日発行 発行所 日本GAP 〒133東京都江戸川区本一色1-12-1-511 振替 東京4-35912 定価九二七円(本体九〇〇円)・送料240円

先着500名様限り

サジェストロニクス 超高速英語学習 ラーニング 無料進呈

テストテープ
(C-30デジタル録音)

『短期間に英会話をマスターしたい』『ほんとうにしゃべれる英語を身につけたい』『楽しく聴いて、しかも飽きのこないテープがほしい!』
そんな方にぜひお勧めします。

『自然に英語を口ずさみ始める』

BGMとして楽しんでいるだけで—

●BGM感覚で、聴き流しているだけで、自然に英語が身についてしまうという、ブルガリア出身の!バルザコフ博士の手になる超高速学習テープ、『サジェストロニクス・ラーニングテープ』がアメリカからやってきました。

●日常英会話シリーズの試聴用テストテープ(デジタル録音C-30)を、この広告をご覧の方、先着500名様に無料で差し上げます。

▼お申込みは今すぐ下記の住所までお ハガキ、お電話でどうぞ!

サジェストロニクス・ラーニングテープとは、モーツァルト、バッハ、ビバルディー等々のクラシック音楽に、ブルガリアで特訓をうけた加速教育ナレーションの専門家が独特の技法を用い、音楽と絶妙のハーモニーをかもし出しながら、3パターンのナレーションを吹き込んだ特殊な語学テープ。

「歌の歌詞を憶えるように自然に頭に入ってゆく」、「何度聴いても飽きがこない」、「BGM感覚で、心地よく苦痛なしに聴ける」というのが、このテープの特徴。子供が母親から言葉を吸収してゆくように、自然に体が英語を吸収してゆきます。

下記までお ハガキ、又は電話で、「試聴用テストテープ希望」と明記してお申込み下さい。詳しい案内書とテストテープの引換商品券をお送りします。

お好みのサブリミナルテープ®を1本 (60分テープ デジタル録音) 無料進呈!

先着250名様限り

●「記憶力・集中力強化」「魅力的性格」「学力向上」「心のやすらぎ」「最高の頭脳」等々を努力なしに現実のものにしてくれる、アメリカからやってきた「サブリミナルテープ」がNHK等でも紹介され、話題になっています。

●その人気16シリーズの実際の効果を試せるベーシックテープ(60分デジタル録音)をこの広告をご覧の方、先着250名様に無料で差し上げます。

▼お申込みは下記までお ハガキ、又はお電話で。

下のテープの中から、お好みのテープを選べます!

『自分の能力への自信の強化』	『女性への緊張感の除去』
『自分の可能性への確信』	『男性への緊張感の除去』
『ビジネス能力開発への意欲』	『偉大な成功へのイメージを描く』
『本来の自分を取り戻す』	『幸運な人生をめざす』
『自分自身への自信』	『経済的成功への自信』
『人間関係の苦手意識の克服』	『充実人生獲得への自信』
『人間的魅力を養う』	
『自分の魅力に気づく』	

(詳しくは、お届けする案内書をご覧下さい。)

サブリミナルテープ®の美しい音楽をBGMとして聴くだけで あなたの人生が変わる!

サブリミナルテープとは、ストレスを解消し、気分をさわやかにする特殊な音楽に、「特定の効果」をもたらす「耳に聴こえない周波数に変換された心理的メッセージ」を同調させた特殊な音楽テープ。BGMとして聴き流しているだけで、自然に潜在能力が開発されたり、理想的な習慣が身につきます。「無料ベーシックテープ引換券」と同時に、「能力開発」「心身の健康」「性格の改善」等の各シリーズの案内書をお送りいたします。

●女優 吉川十和子
「人間の種々の可能性を切り開いてくれる、使いごたえのあるテープだと思います」

●俳優 辰巳琢郎
「おいしい話ってあるもんですね。楽しみながら能力開発できるなんて。サブリミナルテープ! 万才」

先着250名に無料テープ進呈!

あなたは、自分が思っている以上にすばらしい人間になれる!

自己開発 通信講座

●仕事やいろいろな人間関係が思い通りに!!
●自分の個性や魅力、パワーや行動力が100%発揮できるようになる!

恋愛やいろいろな人間関係、それに会社での仕事も、自分の持っている個性や魅力、そしてパワー、行動力を最大限に発揮すれば、すべて思い通りにゆくもの。しかしほとんどの人が自分の生まれながらにして持っているこれらの要素を潜在意識レベルでブレーキをかけて80—90%を殺しています。(日本人は特にこの傾向が強い)このブレーキをとり除いてやると、自分でもビックリするくらい力を発揮できるようになります。すばらしい個性と魅力、パワーに満ちあふれた「本当のあなた自身」を発見し、恋愛や仕事をはじめ、人生のあらゆる分野で思い通りに事を進められる「人生の達人」に生まれ変わってみませんか?

この広告で案内書請求された方、先着250名に潜在的な個性や魅力を引き出すための「ポテンシャル・アウェイクテープ」一本の商品引換券を進呈中!

お申込みは下記までお ハガキ、又はお電話で!

〈製作・監修:カリフォルニア・ヒューマンテクノロジー社〉

先着300名に無料テープ進呈!

信じられないような集中力の持ち主になれる!

集中力開発 通信講座

●入試・就職試験の合格率が倍増!
●仕事の能率・成績もメキメキ向上!

各種試験の合格・仕事の成功・スポーツ等での能力発揮——これらのキメ手は、「集中力」。この講座は、誰もが潜在的に持っている爆発的集中力をあらゆる分野で最大限に発揮できるようになれる、アメリカで開発された画期的講座です。集中力開発のための各種トレーニング法や脳波コントロール法等を集大成した、誰でも簡単に無理なく「集中力」の天才になれる講座です。

この広告で案内書請求された方、先着300名に潜在的集中力をめざめさせるための「ブレーン・ディベロップメントテープ」一本の商品引換券を進呈中!

お申込みは下記までお ハガキ、又はお電話で!

〈製作・監修:カリフォルニア・ヒューマンテクノロジー社〉

○○○希望
●住 所
●氏 名
●電話番号
●年 令
●職 業

41 郵便はがき 〒107
東京都港区南青山 2-9-24
アメリカンライブラリー社 1846係

無料ベーシックテープ・超高速英語学習・集中力開発講座・自己開発講座をご希望の方は

住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記の上、「無料ベーシックテープ案内書と商品券希望」「無料テストテープ希望」「無料テープと集中力開発講座無料案内書希望」「無料テープと自己開発講座無料案内書希望」と左記までお ハガキ、又は下記までお電話でお申込み下さい。(今回のお申込みでお届けしたテープ・案内書の返品の義務や商品購入の義務は全くありませんのでご安心してお申込み下さい。)

お電話でのお申込みは 0120・363・002 受付時間AM8〜PM23(日・祝日も受付中)